

モ單ニ債務者、引受人ノミ、ノ契約ニ依リ從來ノ債務者ニ代フルニ他ノ債務者ヲ以テスルヲ得サルカ故ニ債權者ノ同意ニ依リテ始メテ債務引受ノ效力ヲ生スルモノトナス然レトモ何カ故ニ債務者、引受人間ノ債務引受契約ニ債權者カ同意ヲ與フルニ依リテ債務カ移轉スルコトヲ得ルヤ其理論上ノ根據ニ關シテハ議論紛糾スル所ニシテ重ナル學說三アリ第三者ノ爲メニスル契約說、債權處分說及ヒ共同申込說是ナリ以下各學說ヲ批評シ其採ルヘカラサル所以ヲ明カニセン

(一) 第三者ノ爲メニスル契約說 此說ニ從ヘハ債務者、引受人ハ第三者即債權者ノ爲メニスル契約ヲ締結スルモノトナス即債權者ハ債務者、引受人間ノ契約ニ基キ新ナル債務者、引受人ニ對シ債權者タルモノトナス(Danz, Forderungsüberweisung S. 142 fg, Gierke, Schmollers Jahrb. B. 13 S. 200, Stobbe, Deutsches Privatr. III S. 218 fg, Bekker, Pandekten I § 33 S. 67, Windscheid § 338 Anm. 6) 此說ノ非ナル理由ヲ擧クレンハ(一)債務者、引受人間ノ契約ニ依リ第三者ノ爲メニスル契約(第五百三十七條)ノ如ク引受人ハ債務者ニ對

シ債權者ニ給付ヲ爲スヘキコトヲ約スルモノニアラス、從テ債權者ハ債務者、引受人間ノ契約ニ基キ引受人ニ對シ債權ヲ取得スルコトヲ得ス(二)第三者ノ爲メニスル契約ニ在リテハ債權者ハ之ニ基キ新ナル債權ヲ取得ス然ルニ債務引受ニ在リテハ從來ノ債權カ其儘ニ存續ス債權者ハ新ナル債權ヲ取得スルコトナシ(三)債務引受契約ヲ以テ第三者ノ爲メニスル契約トナストキハ債權者ハ何等ノ意思表示ヲ爲スコトヲ要セス單ニ債務者、引受人間ノ契約ノミニ依リテ債權ヲ取得スルコトヲ得サルヘカラス(我法典ハ第五百三十七條第二項ニ於テ債權者ノ受益ノ意思表示ヲ必要トスト雖モ理論ヨリ云ヘハ第三者ハ受益ノ意思表示ヲ爲スコトヲ要セス債權ヲ取得スルモノトナスヲ正當トス)且縱令債權者ノ受益ノ意思表示ヲ必要トナスモ受益ノ意思表示ト債務引受ニ對スル債權者ノ同意トハ全ク其性質ヲ異ニス(四)更ニ債務引受契約ヲ以テ第三者ノ爲メニスル契約トナストキハ引受人ハ債務者、引受人間ノ契約ニ基因スル抗辯ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ルノ結果トナルヘシ(第五百三十九條)

然レトモ債務引受ニ在リテハ此ノ如キ抗辯ノ對抗ハ之ヲ認ムルヲ得ス
 以上述フル所ヲ以テスレハ債務引受契約ヲ以テ第三者ノ爲メニスル契
 約トナスヲ得サルハ明カナルヘシ故ニ今日ニ於テハ殆ト此説ヲ取ルモ
 ノナシ(此説ニ對スル批評ハ Menzel, a. a. O. S. 586 fg, Blume, a. a. O. S. 114/115
 Kipp, Jahrb. f. Dogm. B. 39 S. 618 fg, Münster a. a. O. S. 72 fg, Strohal a. a. O. S. 41
 fg 参照)

(二) 債權處分説 此説ニ從ヘハ債務者引受人間ノ債務引受ヲ以テ
 他人(債權者)ノ債權ヲ處分スルノ契約ナリトナス即債權者ノ意思ニ基ツ
 カスシテ從來ノ債務者ニ代フルニ第三者ヲ以テスルカ故ニ債權者ノ債
 權ヲ侵害スルモノナリ即他人ノ債權ヲ處分スルモノナリ恰モ他人ノ物
 ヲ處分スルト同シ從テ債務引受契約ハ無効ナリ然レトモ他人ノ權利ノ
 處分ハ權利者カ之ニ同意ヲ與フルトキハ有效ト爲ルカ故ニ債權者カ債
 務引受契約ニ同意ヲ與フルトキハ有效ト爲ルモノトス故ニ債權者カ債
 務引受契約ニ同意ヲ與フルニ依リテ債務ハ引受人ニ移轉スルモノトナ

ス債權處分説ハ獨普通法ノ通説ニシテ獨民法ノ規定ハ此見解ニ基キ今
 日ニ於テモ多數ノ學者ハ之ニ依ル (Windscheid § 338 Anm. 6, Gürgens S. 2
 61 fg, Regelsberger, a. a. O. S. 532 fg, Unger, Schuldübernahme S. 12, Münster a. a. O.
 S. 97 fg, 獨民法ニ在リテハ Dernburg § 126 III, Grone S. 352, Endemann S. 88
 2, Ortmann zu § 451 Nr. 1 b, Planck zu § 415 Nr. 1, Schollmeyer zu § 415 Nr.
 1) 然レトモ獨普通法ニ在リテモ債權處分説ニ反對スルノ學者アリ今日
 ニ於テハ一派ノ學者ハ此説ヲ排斥ス (Menzel, a. a. O. S. 592, Blume a. a. O. S.
 115 fg, Seuffert, Beiträge Heft II S. 45 fg, Hellwig, Verträge auf Leistung an Dritte S.
 160 fg, Strohal a. a. O. S. 422 fg) 債權處分説ハ巧ニ債務者引受人間ノ契約ノ
 性質ヲ説明スルヲ得ルカ如シト雖モ理論上當ヲ得ス(二) 第三者カ債務者
 ト債務引受ヲ約スルニ依リテ果シテ債權ノ處分ヲ爲スモノナリヤ權利
 ノ處分ハ權利ヲ變更消滅セシムルヲ云フ然ルニ債務引受アルモ債務者
 ノ變更アルニ過キサカ故ニ債務引受ヲ以テ債權ノ處分トナスヲ得ス
 無權利者カ自己ノ名ニ於テ他人ノ債權ヲ讓渡スル場合ニハ他人ノ債權

ノ處分存スヘシ然レトモ債務ヲ移轉スルノ契約ヲ爲スモ債權ノ處分ト云フヲ得ス(二)假ニ債務引受ヲ以テ債權ノ處分トナスモ債務者引受人間ノ債務引受契約ヲ以テ他人ノ債權ノ處分ト爲スハ全然其當ヲ失ス他人ノ權利ノ處分ハ其性質ハ權利者自ラ其權利ヲ處分スル場合ト異ナル所ナシ唯無權利者カ權利ヲ處分スルカ故ニ其處分カ無効ナルノミ故ニ權利者カ其處分ニ同意ヲ與ヘタルトキハ處分ハ有效ニシテ處分ヲ受ケタル者ハ其權利ヲ取得ス例ヘハ他人ノ所有權又ハ債權ヲ讓渡セル場合ニ權利者カ之ニ同意ヲ與ヘタルトキハ讓受人ハ有效ニ權利ヲ取得ス無權利者ノ權利處分ニ權利者カ同意ヲ與ヘタルトキハ處分ハ有效ナリトノ原則ニ關シテ獨民法第百八十五條ハ特ニ之カ規定ヲ設ク我法典ハ其規定ヲ缺クト雖モ之ト同一ニ解スルコトヲ得ヘシ然ルニ債務引受ニ在リテハ通説ノ所謂ル債權ノ處分者タル債務者ハ其處分ニ依リ債務ヲ免レ利益ヲ受クト雖モ處分ヲ受クル引受人ハ權利ヲ取得スルコトナク債務ヲ負擔ス即處分ヲ受クルニ依リ何等ノ利益ヲモ受クルコトナク寧ロ不

利益ヲ被ル故ニ之ヲ權利處分ト爲スノ當ヲ得サルハ言フヲ俟タス是レ他人ノ債權處分ト債務引受トカ根本的ニ其性質ヲ異ニスルコトヲ示スモノニシテ債務引受ヲ以テ他人ノ債權ノ處分トナスノ誤レルハ明カナリ此ノ如ク債務引受ニ依リ債務者ハ債務ヲ免レ引受人ハ債務ヲ負擔スルカ故ニ何人カ處分者ナリヤ即債務者ヲ以テ處分者トナスヘキヤ引受人ヲ以テ處分者トナスヘキヤ將又兩者ヲ以テ處分者トナスヘキヤ此說ヲ主張スル學者ノ說ク所明白ナラス(三)無權利者カ他人ノ權利ヲ處分スル場合ニハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ權利ヲ處分スルモノナリ(若シ權利者ノ名ニ於テ其權利ヲ處分スルトキハ無權代理ニシテ此ニ云フ他人ノ權利ノ處分ニアラス)故ニ無權利者ハ他人ノ權利處分ニ依リ恰モ權利者ト同一ノ地位ニ在リ從テ權利者カ其處分ニ同意ヲ與ヘタルトキハ無權利者自ラ處分者トシテ看做サレ權利者ハ處分者トナルコトナシ蓋權利者カ無權利者ノ處分ニ同意ヲ與フルニ依リ無權利者カ處分ヲ爲シ得ヘキコトヲ許容スルノ意思ヲ表示スルモノナルカ故ナリ然ルニ債務引受ニ

在リテハ債務者ハ權利者即債權者ト同一ノ地位ニ在ルモノニアラス債務者ハ債務者トシテ債務引受ヲ約スルモノトス故ニ縱令債權者カ債務引受契約ニ同意ヲ與フルモ債權者ハ處分者トシテ認メラルルコトナシ以上述フル所ヲ以テスレハ債務者引受人間ノ債務引受契約ヲ以テ債權處分トナスヲ得サルハ明カナルヘシ

(三) 共同申込説 此説ニ從ヘハ債務者引受人間ノ契約ハ内部ニ於テハ獨立シタル契約タルモ外部ニ對シテハ債權者ニ對スル申込ナリトナス而シテ債權者カ其申込ニ承諾ヲ與フルニ依リテ債務者引受人及ヒ債權者間ニ三面契約成立シ之ニ依リテ債務ハ債務者ヨリ引受人ニ移轉スルモノトス(Menzel, a. a. O. S. 666 fg, Gareis, Verträge zugunsten Dritter S. 290 fg, Simon, Goldschmidts Zeits. B. 24 S. 102) 此説ハ債務引受ハ債務者引受人間ノ契約ニ依リテ成立スルヲ得ス債務者引受人債權者ノ三面契約ニ依ルコトヲ要ストナス從テ債權者ノ同意ハ債務者引受人間ノ契約ニ對スル同意ニアラスシテ申込ニ對スル承諾ナリトナス然レトモ債務者引受人ノ

契約ヲ以テ債權者ニ對スル申込トナスハ事實ニ反ス此説ヲ主張スル學者ハ債權者ノ承諾ヲ得ル爲メニ債權者ニ對スル通知ヲ要ストナス然レトモ若シ通知ヲ要ストセハ通知其モノカ申込タルヘク契約其モノヲ以テ申込トナスヲ得ス且此説ニ從ヒ債權者ニ對スル共同申込ト爲ストキハ申込ニ關スル規定ノ適用ヲ受クルカ故ニ債務者引受人ハ其申込ニ拘束セラレ契約ヲ廢棄スルヲ得サル不都合ノ結果ヲ生スヘシ更ニ此説ハ債務者引受人間ニ於テハ獨立ノ契約存ストナスカ故ニ其契約ハ如何ナル性質ヲ有スルヤ説明ヲ要ス然レトモ此説ヲ主張スル學者ハ此點ニ關シ説明スル所ナシ

上述スル所ヲ以テスレハ何レノ學說ニ依ルモ債務者引受人間ノ契約ノ性質ヲ満足ニ説明スルヲ得ス故ニ理論上債務者引受人間ノ契約ニ債權者カ同意ヲ與フルノ方法ニ依リ債務引受ノ效力ヲ生セシムルコトハ之ヲ認ムルヲ得ス而シテ通説ハ理論ニ反スルノミナラス當事者ノ意思ニ反シ實際ノ取引ニ合セス故ニ之ヲ採ルヲ得ス(拙著民法研究第二卷三

六四頁以下参照之ニ由リテ觀レハ債務引受ハ債權者、引受人間ノ契約ニ依リテノミ成立スルコトヲ得ルモノトナササルヘカラス而シテ通説カ債務者引受人間ノ契約ニ債權者カ同意ヲ與フル方法ニ依リテ債務引受成立ストナス場合ハブルーム一派ノ唱フル申込説ニ依リテ説明スルコトヲ得ヘシ此説ニ從ヘハ債務者ト引受人トノ契約ニ依リテ引受人カ債務者ニ對シ債務ヲ引受クヘキ義務ヲ負擔スルニ過キス而シテ債務引受ハ引受人ト債權者トノ契約ニ依リテ成立ス即引受人ハ債務者トノ契約ニ基キ債權者ニ對シ債務引受契約ノ申込ヲ爲シ債權者カ之ヲ承諾スルニ依リテ債務引受ハ成立ス又債務者カ債權者ニ申込ヲ爲ス場合ニハ引受人ノ代理人トシテ申込ヲ爲スニ外ナラス (Blume, a. a. O. S. 118, Jahrb. f. Dogm. B. 39 S. 403 fg, Seuffert, a. a. O. S. 45 fg, Hellwig, a. a. O. S. 167, Kipp, a. a. O. S. 344, Enneccerus § 308 S. 782) 尙瑞債務法第七十五條、第七十六條、匈牙利草案第一千二百六十七條、第一千二百六十八條ハ獨民法第四百十五條ノ規定ニ倣ハス此ニ述フル申込説ニ從ヒテ規定ヲ設ク

【註四】 Regelsberger, Endemanns Handbuch B. 2. S. 537, Gürgens a. a. O. S. 280 fg, Windscheid § 338 Anm. 4, Unger, Schuldübernahme S. 1314, Blume, a. a. O. S. 110, Endemann § 153 Anm. 10, Enneccerus § 228 IV, Planck Vorbem. zu § 414, Schollmeyer S. 395, Reichel, Bürgschaft und Schuldbeitritt S. 204 fg

第二目 債務引受契約ノ成立

債務引受契約ハ上ニ述ヘタルカ如ク債權者ト引受人トノ契約ニ依リテ成立ス唯債務者ノ意思ニ反シテ引受契約ヲ成立セシムルヲ得ス債務引受契約ノ要件ヲ述フレハ

- (一) 債務引受契約ノ當事者ハ債權者及ヒ引受人トス當事者ノ能力ハ一般ノ原則ニ從ヒ債權者引受人共ニ能力者タルコトヲ要ス
- (二) 債務ハ移轉シ得ヘキモノナルコトヲ要ス原則トシテ債務ハ凡テ移轉スルコトヲ得唯債務ノ性質又ハ當事者ノ契約ニ依リ債務ノ移轉ヲ許ササル場合ニ於テハ債務ヲ移轉スルコトヲ得ス(一)債務ノ性質カ其移轉ヲ許ササルトハ原債務者以外ノ者ヲシテ辨濟ヲ爲サシムルトキハ債權ノ目的ヲ達スル

債務引受
契約ノ成
立

コトヲ得サル場合ヲ云フ是レ專屬的給付ノ場合ニ生ス即給付ノ内容カ人的要素ニ重キヲ置キ債務者以外ノ者ノ辨濟ヲ許ササル場合ニハ債務ノ引受ヲ許サス從テ債務者其人ノ性質、人物、技能、熟練等ヲ條件トスル場合ニハ他人ヲシテ代リテ辨濟セシムルコトヲ得サルカ故ニ又債務ノ引受ヲ爲スコトヲ得ス又法典カ殊ニ他人ノ代用ヲ許ササル旨ヲ規定スル場合例ヘハ雇傭(第六百二十五條第二項)委任(第四百四條)寄託(第六百五十八條第一項)等ノ場合ニハ債務ヲ移轉スルコトヲ得ス(二)債權者及ヒ債務者カ契約ヲ以テ債務移轉ヲ禁セル場合ニハ恰モ契約ヲ以テ第三者ノ辨濟ヲ禁止セル場合ト同シク債務ヲ移轉スルコトヲ得ス此點ニ關シ固ヨリ規定ヲ缺クト雖モ債權者債務者ノ契約ヲ以テ債權ヲ當初ノ債權者ヨリ分離スルコトヲ得サルモノトナスコトヲ得ルニ於テハ債務ニ關シテモ亦同シク當初ノ債務者ヨリ分離スルコトヲ得サルモノトナスコトヲ得サルヘカラス

(三) 債務引受ハ當事者間ノ合意ノミニ依リテ成立ス當事者ハ既存ノ債務ヲ其儘ニ引受人ニ移轉スルノ意思ヲ有スルコトヲ要ス若シ當事者ノ意思カ

舊債務ヲ消滅セシメ之ニ代フルニ新ナル債務ヲ發生セシムルニ在ルトキハ更改成立スヘシ債務引受ナリヤ又ハ更改ナリヤハ當事者ノ意思如何ニ依リテ定マル而シテ債務引受ハ單ニ當事者ノ合意ノミニ依リテ成立シ方式ヲ必要トセス又債權讓渡ニ於ケルカ如ク第三者ニ對スル對抗要件ヲ必要トセス

第四項 債務引受ノ效力

第一目 總論

債務引受ニ依リテ債務ハ引受人ニ移轉シ引受人ハ從來ノ債務者ニ代リテ其地位ニ立ツ引受人ノ負擔スル債務ハ原債務其モノナルカ故ニ債務ノ内容カ變更ヲ受ケサルノミナラス其原因モ亦變更ヲ受クルコトナシ故ニ例ヘハ原債務カ賣買契約ヨリ生セル代金支拂ノ債務ナルトキハ引受人ノ負擔スル債務モ代金支拂ノ債務ニシテ原債務カ不法行爲ニ基ク損害賠償ノ債務ナルトキハ引受人ノ負擔スル債務モ亦損害賠償ノ債務ナリトス此ノ如ク引受人ノ負擔スル債務ハ當初ノ原因ト分離スルコトナキカ故ニ例ヘハ原債務カ不

法行為ニ基ク損害賠償ノ債務ナルトキハ縱令引受人ニ移轉スルモ第七百二十四條ノ規定スル短期時効ノ適用ヲ受ケ原債務カ債務者ニ具體的過失ニ對スル責任ヲ負ハシムルニ過キサレモノナルトキハ(例ヘハ第六百五十九條ノ適用アル場合ノ如シ)引受人モ亦具體的過失ニ對シ責任スルコトヲ要スルニ止マリ善良ナル管理者ノ注意ヲ用ユルコトヲ要セス然レトモ引受人ハ債務引受ニ依リ原債務其モノヲ引受クルニ止マリ原債務發生ノ原因タル契約ノ當事者トナルモノニアラス故ニ代金支拂ノ債務ヲ引受クルモ買主ト爲ルコトナク又不法行為ヨリ生セル債務ヲ引受クルモ不法行為者ト爲ルコトナシ

上述スルカ如ク債務引受ニ依リ債務ハ引受人ニ移轉スト雖モ債務引受カ原債務ニ從タル債務擔保及ヒ抗辯ニ關シ如何ナル效力ヲ及ホスヤハ規定ヲ缺クカ故ニ必スシモ明カナラス此等ノ問題モ亦理論ニ依リテ決セサルヘカラス以下之ヲ分チテ論セン

第二目 從タル債務ノ移轉

從タル債務ノ移轉

債務引受ニ依リテ從タル債務モ亦引受人ニ移轉スルヤ否ヤハ先ツ當事者ノ意思ヲ解釋シテ之ヲ定メサルヘカラス當事者ノ意思明カナラサル場合ニ從タル債務カ引受人ニ移轉スルヤ否ヤハ之ヲ區別シテ論スルコトヲ要ス

(一) 利息債務 利息債務ニ關シテハ區別ヲ要ス將來ノ利息債務ハ元本債務ト共ニ引受人ニ移轉ス蓋利息債務ハ元本債務ニ從タルモノナルカ故ニ元本債務カ移轉スル場合ニハ利息債務モ亦之ニ從ヒテ移轉スヘク利息債務ノミ分離シ原債務者カ之ヲ負擔スルモノトナスヲ得サルカ故ナリ之ニ反シ既ニ期限到來セル利息債務即延滞セル利息債務ハ獨立セル債務ナルカ故ニ元本債務ニ從ヒテ移轉セス當事者カ特ニ移轉スヘキコトヲ定メタル場合ニ於テノミ移轉スルモノト解スヘシ【註一】

【註一】是レ通説トシテ認メラル所ナリ Windscheid § 399, Menzel S. 679, Re-
gelsberger S. 537, Unger S. 13 Anm. 51 獨民法ニ於テハ此問題ニ關シ解釋規
定ヲ缺ク然レトモ一般ノ學者ハ同一見解ヲ採ル Schollmeyer S. 397, Ortna-
nn S. 333, Enneccerus S. 781, Endemann S. 891892, Grone S. 357 Anm. 6 或ハ之ニ

反シ將來ノ利息債務ニ關シテハ引受人カ之ヲ知ル場合ニハ當然引受人ニ移轉スルモ然ラサル場合ニハ移轉セサルモノトナシ (Cuijens S. 290) 或ハ利息債務カ移轉スルヤ否ヤハ全然各場合ノ解釋ニ任スヘキモノトナス説アリ (Kuhlenbeck S. 367)

(二) 違約金債務 違約金債務ハ利息債務ト同一ニ論シ本債務ニ從ヒテ引受人ニ移轉スヘク又既ニ債務不履行ノ爲メニ違約金カ現實ノ請求權ト爲レル後ニ在リテモ違約金カ不履行ニ對シテ約セラレ履行ニ代ルヘキモノナル場合ニハ本債務ト共ニ移轉スルモノト解スヘシ

(三) 債務ノ擔保 債務引受ノ場合ニ原債務ニ附從スル擔保ハ尙存續シ引受人ノ爲メニモ擔保スルモノナリヤ否ヤニ付テハ契約上ノ擔保ト法律上ノ擔保トニ區別スルコトヲ要ス(一)契約上ノ擔保即契約ニ依リテ供セラレタル擔保ニ關シテハ尙之ヲ區別シ其擔保カ第三者ノ供セルモノナルトキハ債務ノ引受ニ依リ消滅スルモノトス蓋第三者カ擔保ヲ設定シ又ハ保證人ト爲ルハ債務者其人ヲ信任スルカ爲メニシテ第三者ハ特定ノ債務者ノ爲メニ擔

保ヲ供スルノ意思ヲ有ス其以外ノ者ノ爲メニ擔保ヲ供スルノ意思ヲ有セス故ニ債務引受アル場合ニ引受人ノ爲メニ擔保ヲ供スルモノトナスヲ得ス從テ債務者ノ變更ト共ニ擔保ハ消滅スルモノトナササルヘカラス【註三】然レトモ擔保ヲ供セル第三者カ擔保ノ存續ニ同意ヲ與ヘタルトキハ消滅セス債務者自ラ設定セル擔保カ存續スルヤ否ヤニ關シテハ立法及ヒ學說一致セス我國法ニ於テハ明文ヲ缺クト雖モ債務者自ラ擔保ヲ供セル場合ニハ債務引受ニ依リ擔保カ存續スルモノト爲スモ債務者ハ損害ヲ受クル所ナキカ故ニ擔保ハ消滅セサルモノト解スヘシ【註三】(二)法律上ノ擔保即法律ノ規定ニ基ク擔保ハ債務引受ニ依リテ消滅スルコトナシ蓋法律上ノ擔保ハ法律ノ規定ニ基キテ當然發生シ擔保者ノ意思ニ關スル所ナキカ故ニ債務者ノ變更アルモ擔保カ消滅スヘキ理由ナキヲ以テナリ我國法ニ於テ法律上ノ擔保トシテ認めラルルモノハ留置權及ヒ先取特權ナリ留置權ハ債務引受ニ依リテ消滅セサルハ明カナリ例ヘハ他人カ注文者ノ費用支拂ノ債務ヲ引受ケ若クハ買主ノ代金支拂ノ債務ヲ引受クルモ債權者タル請負人賣主ハ其債務ノ支拂アルマ

テハ請負又ハ賣買ノ目的物ヲ留置スルコトヲ得ルカ如シ又特別先取特權ニ關シテモ亦同シ例ヘハ他人カ貸借人ノ債務ヲ引受ケ運送貨ヲ引受クルモ債權者ハ依然トシテ先取特權ヲ有スルカ如シ唯稍問題トナルハ一般先取特權ナリト雖モ一般先取特權モ亦物權ナルカ故ニ縱令債務ノ引受アルモ消滅スルコトナク原債務者ノ總財産ノ上ニ存スルモノト解セサルヘカラス

【註二】是レ獨普通法ノ通説ニシテ(Girgens, a. a. O. S. 289 fg, Windscheid § 33 O, Regelsberger a. a. O. S. 537, Unger, a. a. O. S. 13 Anm. 54, Meuzel, a. a. O. S. 679) 獨逸民法第四百十八條、瑞債務法第七十八條第二項、匈牙利民法草案第一千二百七十二條亦同一ノ規定ヲ設ク

【註三】獨普通法ノ通説ハ債務者ノ供セル擔保ハ債務ノ引受アルモ消滅セストナシ瑞債務法第七十八條第二項モ亦同一ノ規定ヲ設ク之ニ反シ獨民法第四百十八條第一項ハ債務者ノ供セル擔保モ第三者ノ供セル擔保ト同シク債務ノ引受ニ依リテ消滅スルモノトナス其理由トスル所ハ債務者ハ自己ノ債務ノ爲メニ擔保ヲ供スルノ意思ヲ有スルモ他人ノ債

務ノ爲メニ擔保ヲ供スルノ意思ヲ有セサルカ故ナリトス

第三目 原債務者ノ抗辯ノ援用

引受人ハ原債務者カ債權者ニ對シテ有スル抗辯ヲ援用スルコトヲ得蓋引受人ハ債務者ノ負擔スル債務ヲ其儘ニ引受クルモノナルカ故ニ債務者ノ抗辯ヲ用ユルコトヲ得ルモノトナササルヘカラス故ニ我國法ニ於テハ規定ヲ缺クト雖モ亦同一ニ解セサルヘカラス

權利不發生ノ抗辯例ヘハ契約ノ内容ノ不法錯誤等ノ爲メ債務カ發生セサルコトヲ以テ抗辯トナスカ如シヲ以テ引受人カ債權者ニ對抗スルコトヲ得ルハ言フヲ俟タス蓋此等ノ抗辯ハ原債務ノ不發生ヲ主張スルモノニシテ原債務カ發生セサルトキハ引受人カ引受クヘキ債務ナキカ故ナリ權利消滅ノ抗辯例ヘハ債務カ一旦發生セルモ履行、免除、時効等ニ因リテ消滅セルコトヲ以テ抗辯トナスカ如シモ亦引受人ハ之ヲ援用スルコトヲ得之ニ反シ引受人ハ實體法上ノ抗辯即給付拒絶ノ抗辯ヲ以テ對抗スルコトヲ得ルヤ否ヤハ議論ノ餘地アリ例ヘハ雙務契約ヨリ生セル一方ノ債務ヲ引受ケタル者ハ第五

原債務者ノ抗辯ノ援用

百三十三條ニ依リ債權者カ原債務者ニ對シ反對給付ヲ履行セサルコトヲ以テ抗辯ト爲シ其引受ケタル債務ノ履行ヲ拒絕スルコトヲ得ルヤ若シ雙務契約ヨリ生セル一方ノ債務ト他方ノ債權トカ同一人ニ屬スル場合ニアラサレハ契約不履行ノ抗辯ヲ用ユルコトヲ得ストキハ此場合ニ引受人ハ抗辯ヲ用ユルコトヲ得ス然レトモ雙務契約ヨリ生セル一方ノ債權ノ讓渡ノ場合ニ債務者ハ讓受人ニ對シ讓渡人ノ反對債務ノ不履行ヲ以テ抗辯ト爲スコトヲ得ルカ如ク讓渡人(即雙務契約ノ一方ノ債權ノミヲ讓渡セルカ故ニ單ニ債務ノミヲ負擔ス)モ亦債務者カ讓受人ニ履行ヲ爲ササルコトヲ以テ抗辯ト爲シ債務者ニ對シテ負擔スル自己ノ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得ルモノトス例ヘハ賣主カ代金債權ヲ他人ニ讓渡セル場合ニ賣主ハ買主カ讓受人ニ代金ノ支拂ヲ爲ササルコトヲ以テ抗辯ト爲シ目的物ノ引渡ヲ拒ムコトヲ得ルカ如シ然ルニ此場合ニ讓渡人ハ雙務契約ヨリ生セル一方ノ債務ノ引受人ト同一ノ地位ニ在リ故ニ引受人モ亦讓渡人ト同シク債權者カ原債務者ニ反對給付ヲ履行セサルコトヲ以テ抗辯トシ其引受ケタル債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ

得ルモノトナササルヲ得ス蓋既ニ論セルカ如ク雙務契約ヨリ生セル債務ハ縱令他人ニ移轉スルモ依然トシテ雙務契約ヨリ生セル債務タル性質ヲ失ハサルカ故ナリ

以上專ラ債務者ノ抗辯ニ付キ論セリ更ニ取消權、解除權、相殺權等ニ付キ論セン(一)債務ノ發生原因タル契約カ取消スコトヲ得ヘキモノナル場合ニ引受人ハ其契約ヲ取消スコトヲ得ス蓋取消權ハ契約ヲ締結セル當事者タル原債務者之ヲ有ス單ニ債務ヲ引受ケタルニ過キササル引受人ハ當然ニ取消權ヲ有セス又第二百十條ニ云フ承繼人ハ取消權ノ承繼人ヲ云フモノニシテ取消シ得ヘキ行爲ヨリ生セル債權又ハ債務ノ讓受人ヲ云フモノニアラス故ニ引受人ハ同條ニ依リテ取消權ヲ有スルモノト爲スヲ得ス若シ引受人カ取消權ヲ行フコトヲ得ルモノトナストキハ單ニ債務ノミナラス他人間ノ全法律關係ヲ消滅セシムルコトヲ得ル不當ノ結果トナルヘシ唯原債務者カ取消權ヲ行使シ法律行爲カ無効トナリタル場合ニ引受人ハ其無効ヲ以テ抗辯ト爲スコトヲ得ヘシ(二)契約解除權ニ關シテモ亦取消權ト同一ニ論スルコトヲ得引受

人ハ契約ノ當事者ニアラサルカ故ニ當然ニ解除權ヲ有スルモノニアラス(三)引受人ハ原債務者カ債權者ニ對シテ有セル反對債權ヲ用ヒテ相殺ヲ爲スコトヲ得ス蓋若シ相殺ヲ許ストキハ他人ノ權利ヲ處分スルノ結果トナルカ故ナリ唯原債務者カ債務引受前ニ爲シタル相殺ノ結果ヲ援用スルコトヲ得引受人ハ以上述ヘタル抗辯ノ外尙自ラ直接ニ債權者ニ對シテ有スル抗辯ヲ以テ對抗スルコトヲ得ルハ云フヲ俟タス例ヘハ債務引受契約ノ無効ヲ主張シ自己ノ反對債權ヲ以テ相殺ヲ爲スカ如シ

第五項 法律上ノ債務移轉

債務ハ契約ニ依リテ移轉スルコトヲ得ルノミナラス法律ノ規定ニ依リ當事者ノ意思ニ關スル所ナク移轉スル場合アリ其主要ナル場合ハ相續ニ依リ債務カ移轉スル場合ナリ(第九百八十六條)第一千一條其他法律ノ規定ニ基キ債務ヲ移轉スル場合尠ナカラス其主ナル場合ヲ舉クレハ登記セル賃借權ノ負擔アル不動産ノ取得者ハ賃借人ノ義務ヲ承繼シ(第六百五條)合併後存續スル

法律上ノ債務移轉

會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ義務ヲ承繼シ(商法第八十二條)承役地ノ所有者ノ特定承繼人ハ承役地ニ於ケル工作物ノ設置修繕ノ費用ヲ負擔スル場合ノ如シ(第二百八十六條)法律上ノ債務移轉ハ契約ニ因ル債務移轉ト其效力ヲ異ニスル所ナシ從テ上來論スル所ハ凡テ之ヲ適用スルコトヲ得唯擔保ニ關シテハ第三者ノ供セル擔保ト雖モ消滅スルコトナシ蓋法律上ノ債務移轉ノ場合ニハ債權者ノ意思ニ關スル所ナク債務ハ移轉スルカ故ニ之ニ因リテ債權者ニ損害ヲ被ラシムヘカラス從テ擔保ハ尙存續スルモノトナスコトヲ要ス

第六項 重疊的債務引受

一 重疊的債務引受ノ性質 重疊的債務引受又ハ併存的債務引受(Konjunktive Schuldübernahme)トハ債務加入ノ一場合ニシテ他人ノ債務ト同一ノ債務ヲ其他人ト共ニ負擔スルヲ云フ(註)故ニ單純ナル債務引受ニ於テ引受人カ從來ノ債務者ニ代リテ債務ヲ引受クルト異ナリ從來ノ債務者ト相並ヒテ同

重疊的債務引受ノ性質

一ノ債務ヲ負擔ス故ニ重疊的債務引受ニ在リテハ既存ノ債務カ引受人ニ移轉シ從來ノ債務者ハ其債務ヲ免ルルニアラス從來ノ債務者ノ外ニ新ナル債務者ヲ加フルモノトス

重疊的債務引受ニ依リ同一ノ物體同一ノ原因ヲ有スル二箇ノ債務ヲ生ス引受人ノ負擔スル債務ハ從來ノ債務ト同一ノ給付ヲ物體トスルコトヲ要スルノミナラス同一ノ原因ヲ有スルコトヲ要ス即引受人ハ從來ノ債務ヲ其原因ノ儘ニ引受クルモノトス例ヘハ從來ノ債務カ消費貸借上ノ債務タル場合ニハ引受人ハ又同一ノ消費貸借上ノ債務トシテ新ナル債務ヲ負擔スルコトヲ要ス從テ重疊的債務引受ニ依リテ連帶債務成立スルモノトス而シテ既ニ論セルカ如ク連帶債務ハ必スシモ債權者ト數人ノ債務者トノ間ニ於ケル一箇ノ契約ニ依リテ成立スルコトヲ要セス各債務ハ獨立セル契約ニ基キテ成立スルコトヲ得故ニ重疊的債務引受ニ依リテ引受人カ獨立ノ契約ニ基キ從來ノ債務關係ニ加入シ連帶債務ヲ成立セシムルコトヲ得ルモノトナササルヘカラス(八〇〇頁以下參照【註二】【註三】)

此ノ如ク重疊的債務引受ニ依リテ連帶債務成立スルカ故ニ重疊的債務引受ハ保證ニアラス【註四】重疊的債務引受ト保證トハ全然其性質ヲ異ニス重疊的債務引受ニ於テハ既存ノ債務ト新ナル債務トハ其原因ヲ同フスト雖モ主タル債務ト保證債務トハ其原因ヲ同フスルコトナシ即保證人ハ債權擔保ヲ目的トシテ債務ヲ負擔スルモノニシテ保證債務其モノハ主タル債務ノ原因ト關係スル所ナシ更ニ保證債務ハ從タル債務ナリト雖モ引受人ノ負擔スル債務ハ從タル債務ニアラス即保證債務ノ成立及ヒ存續ニハ主タル債務ノ存在ヲ前提トシテ保證債務ノ物體ハ主タル債務ノ物體ニ從フ又主タル債務ノ變更アルトキハ保證債務モ亦之ニ伴フテ變更ヲ受クルモノトス然レトモ重疊的債務引受ニ在リテハ引受人ノ負擔スル債務ハ此ノ如キ附從的性質ヲ有スルモノニアラス唯引受人ノ負擔スル債務ハ其成立ニ於テ原債務ノ存在ヲ前提トシ且其當初ノ内容カ原債務ノ内容ニ從ヒテ定マルニ過キス其他ノ點ニ於テ原債務ニ對シ附從的關係ニ立ツコトナシ

【註一】 Kumulative Schuldübernahme (重疊的債務引受)ナル名稱ハ從來獨法ニ

於テ一般ニ用ヒラルト雖モ此名稱ハ此種ノ引受ヲ單純ナル債務引受ノ一種トナスノ誤解ヲ來ス處アルカ故ニ或ハ之ヲ債務加入(Schuldbeitritt)ト稱シ或ハ共同的債務引受(Schuldmitübernahme)ト稱シ強力的債務引受(lostärkende Schuldübernahme)ト稱スル等名稱一定セス

【註二】實際取引上ニ於テモ重疊的債務引受ヲ生スルハ必スシモ稀ナリトセス東京地方裁判所民事第一部判決法律新聞第八百六十五號二三頁所載及ヒ東京控訴院民事第一部判決同第八百七十號九頁所載ハ共ニ重疊的債務引受ヲ認ム

【註三】重疊的債務引受ニ依リテ連帶債務成立ストナスハ獨法ノ通説ナリ Westerkamp, Bürgschaft und Schulbeitritt S. 233 fg, Reichel, Schuldmitübernahme, S. 25 fg, Stammler S. 207, Hellwig, Verträge auf Leistung an Dritte S. 176, Planck S. 293, Urthmann S. 350, Schollmeyer S. 396, Kühlenbeck S. 366, Endemann S. 884, Anm. 3, Crome S. 350, Rehbein S. 416, Enneccerus S. 237, Matthiass S. 462, Salinger, Arch. f. B. R. B. 28 S. 81 fg.

【註四】重疊的債務引受ヲ以テ保證若クハ連帶保證トナス説ハ Blume, Jahrb. f. Dogm. B. 39 S. 426 fg, Thun, Deutsche Juristenzeitung 5 Jahrg. S. 319 等之ヲ唱フ

重疊的債務引受ノ成立

二 重疊的債務引受ノ成立 重疊的債務引受ハ左ノ方法ニ依リテ成立スルコトヲ得

(一) 或ハ債權者引受人間ノ契約ニ依リテ成立スルコトヲ得、上述セルカ如ク重疊的債務引受ニ依リ連帶債務成立スルモノトナストキハ債權者ト引受人トノ契約ニ依リテ引受人カ新ナル債務ヲ負擔スルコトヲ得ルハ明カナリ蓋連帶債務ハ債權者ト各債務者トノ獨立セル契約ニ依リテ成立スルコトヲ得ルカ故ナリ

(二) 或ハ引受人カ債權者ニ對シ債務ヲ負擔スヘキコトヲ債務者ト約スルニ依リテ重疊的ニ債務ヲ引受クルコトヲ得即債務者ト引受人トノ間ニ於ケル第三者ノ爲メニスル契約ヲ締結スルニ依リ第三者タル債權者ハ引受人ニ對シ債權ヲ取得スルモノトス債務者引受人間ニ於ケル第三者ノ爲メニスル

契約ニ依リテ重疊的債務引受カ成立スルコトハ通説ノ認ムル所ナリ【註五】
 (三) 更ニ重疊的債務引受ハ債權者債務者及ヒ引受人ノ契約ニ基キテ成立
 スルコトヲ得蓋上述セルカ如ク債權者引受人間ノ契約ニ依リテ重疊的債務
 引受カ成立スルモノトナストキハ之ニ對シ債務者カ承諾ノ意思ヲ表示スル
 モ其成立ヲ妨クヘキ理由ナキヲ以テ三面契約ニ依リテ重疊的債務引受カ成
 立スルコトヲ得ルモノトナササルヘカラス

重疊的債務引受ハ以上三種ノ契約ニ依リテ成立スルコトヲ得ルモノトス
 而シテ契約ノ成立要件ニ關シテハ一般ノ原則ニ從フ

【註五】 Stammler S. 210, Reichel, S. 147, Örmann S. 330, Kublenbeck S. 366, Rehb-
 ein, S. 416, Enneccerus, S. 237

三 債務引受ノ效力 重疊的債務引受ニ依リテ連帶債務成立ス債權者
 ハ同一ノ物體同一ノ原因ヲ有スル二箇ノ債權ヲ取得ス而シテ此二箇ノ債權
 ハ其目的ヲ同フスルカ故ニ其一箇ノ債權ニ依リテ満足ヲ受クルトキハ他ノ
 債權モ消滅スルモノトス此ノ如ク重疊的債務引受ニ依リテ連帶債務成立スル

重疊的債
 務引受ノ
 效力

カ故ニ連帶債務ニ關スル規定ヲ適用スヘシ然レトモ當事者カ連帶債務ニ關
 スル規定中強行規定ニ屬セサル規定ト異ナリタル意思ヲ有スル場合ニハ之
 ニ從フヘシ

法律上ノ
 重疊的債
 務引受

引受人相互間ニ於ケル求償權ニ關シテモ亦連帶債務ニ關スル規定ニ從フ
 四 法律上ノ重疊的債務引受 近世多數ノ立法ハ財産ノ移轉ニ伴ヒテ
 讓受人ヲシテ債務ヲ引受ケシムル場合アリ特ニ全部又ハ一部ノ財産ノ讓渡、
 相續財産ノ賣買、營業ノ讓渡等ノ場合ニ然リトス是レ主トシテ取引上ノ必要
 ニ出ツ蓋債務者ハ其財産ヲ以テ債權ノ擔保ニ供スルモノニシテ債權終局ノ
 目的ハ債務者ノ財産ニ依リテ満足ヲ受クルニ在リ故ニ若シ債務者カ其財産
 ヲ讓渡スルトキハ債權者ハ其満足ヲ受クヘキ材料ヲ奪ハレ債權者ノ權利ハ
 經濟上空虛ナル權利トナルヘシ故ニ債權者ヲ保護スルカ爲メニハ財産ノ讓
 受人ヲシテ讓渡人ノ債務ニ對シ責ニ任セシムルコトヲ要ス且債權ハ固ヨリ
 債務者其人ニ對スル權利ナリト雖モ實質的ニ論スレハ債務者ノ財産ニ對ス
 ル權利ナリト云フコトヲ得ヘシ故ニ債務ト債務者ノ財産トヲ連結シ債務ハ

財産ノ負擔トシテ財産ノ所在ニ附随スルモノトナスコトヲ要ス從テ近世ノ立法カ財産移轉ニ伴フ債務移轉ヲ認ムルハ正當ノ理由存ス然レトモ此場合ニ債務ハ財産ト共ニ全然移轉シ讓渡人ハ其債務ヲ免ルルモノトナスコトヲ得ス蓋法律ハ從來ノ債務者ニ代ヘテ他人ヲ債務者トシテ承諾スヘキコトヲ債權者ニ強フルコトヲ得サルカ故ナリ故ニ財産移轉ニ伴フ債務引受ハ免責的ナルヘカラス重疊的ナルコトヲ要ス即從來ノ債務者ハ財産ノ讓受人ト相並ヒテ債務ヲ負擔スルモノトナスコトヲ要ス然レトモ又他方ニ於テハ讓受人ハ強制的ニ債務ヲ負擔スルモノナルカ故ニ讓受人ニ損害ヲ被ラシムヘカラス故ニ讓受人ヲ保護スルカ爲メ讓受人ヲシテ其讓受ケタル財産ノ額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔セシメ且其責任ヲ負フ期間ヲ短縮スルヲ以テ公平ニ合ス【註六】

我國法ニ於テハ一般債務引受ニ關スル規定ナキト共ニ財産移轉ニ伴フ重疊的債務引受ニ關シテモ規定ヲ缺ク唯二三ノ場合ニ法律ニ依ル重疊的債務引受ヲ規定スルニ過キス例ヘハ持分ノ讓受人ハ前共有者カ共有物ニ付キ他

ノ共有者ニ對シテ負擔セル債務ヲ前共有者ト共ニ負擔シ(第二百五十四條)轉借人カ轉貸人ニ對シテ債務ヲ負擔スルト共ニ貸貸人ニ對シテ債務ヲ負擔スルカ如シ(第六百十三條)從テ重疊的債務引受ニ關スル我法典ノ規定ハ甚不備ナリト云ハサルヘカラス

【註六】近世ノ立法ニ於テ財産ノ移轉ニ伴ヒテ債務引受ヲ生スル場合ヲ認ムルモノ多シ既ニ普國國法(第十一章第一節第六百四十六條)追加第十八條)ハ年金債務ヲ負擔トスル財産ノ贈與契約ヲ規定シ又ヘッセン民法草案(第七百七條、第八百八條)バイエルン民法草案(第五條、第六條)ドレスデン民法草案(第五百八條)乃至第五百十條等ハ財産贈與ノ場合ニ於ケル債務引受ヲ規定ス更ニ獨逸民法第四百十九條ハ一般的规定ヲ設ケ契約ニ依リ他人ノ財産ヲ引受ケタル者アル場合ニハ讓渡人ノ債權者ハ從來ノ債務者ノ外ニ尙其引受人ニ對シ其引受ケタル財産ノ額ヲ限度トシテ債權ヲ行使スルヲ得ヘキコトヲ定メ相續財産ノ賣買ニ關シテハ(第二千三百七十一條)以下ニ之ヲ規定シ營業ノ讓渡ニ關シテハ(商法第二十五條)第二

十八條ニ之ヲ規定ス又瑞債務法第八十一條ハ財産又ハ營業ヲ引受ケタル者ハ當然其債務ヲ負擔スヘキモノトシ從來ノ債務者モ亦二年間之ト連帶シテ其責ニ任スヘキモノトス匈牙利民法草案第千百七十四條ハ財産ノ全部又ハ一部ヲ讓受ケタル者ハ讓渡人ノ債務ニ對シ讓受人ト共ニ連帶シテ其責ニ任スヘキモノトス

第六章 債權ノ消滅

第一節 總論

第一款 債權消滅ノ意義

債權消滅ノ意義

債權ノ消滅 (Erlöschen der Schuldverhältnisse, extinction des obligations) トハ債權カ客觀的ニ其存在ヲ失フヲ云フ債權消滅ノ原因發生スルトキハ其發生ノ時ヨリ債權ハ當然ニ消滅ス債務者ノ主張ヲ必要トセス債權ノ消滅ハ債權其モノノ消滅ナルヲ以テ左ノ場合ト區別スルコトヲ要ス

(一) 訴權ノ消滅ハ債權ノ消滅ニアラス訴權ハ訴訟法上ノ權利ナルカ故ニ訴權カ消滅スルモ債權其モノノ消滅ヲ來スコトナシ然レトモ我法典ハ自然債務ヲ認メサルカ故ニ債權ノ消滅ト訴權ノ消滅トハ畢竟同一ニ歸ス故ニ實際ノ結果ニ於テハ訴權消滅スルトキハ債權モ亦消滅スヘシ

(二) 債權ノ消滅ト債權ノ效力ノ停止トハ之ヲ區別スルコトヲ要ス債權ノ

效力ノ停止トハ債務者カ抗辯ニ依リ債權者ノ請求ニ對シ給付ヲ拒絕スルヲ云フ抗辯(Kinrede)ハ或ハ永久ニ債權ノ行使ヲ妨クルモノアリ之ヲ永久抗辯(peremptorische o. dauernde Einrede)ト稱ス或ハ債權者ノ請求ヲ一時延期セシムルニ過キサレモノアリ之ヲ延期抗辯(dilatatorische od. aufschiebende Einrede)ト稱ス其何レノ抗辯タルヲ問ハス債權ニ附著スルモ債權ハ消滅スルニアラス唯其抗辯ノ援用アリタルトキハ其債權ヲ行使スルコトヲ得サルニ過キス抗辯カ消滅スルトキハ(例ヘハ抗辯ヲ拋棄スルカ如シ)債權ハ再タヒ活動ス唯永久抗辯カ附著セル場合ニハ債權ノ效力ハ永久ニ停止セラルルカ故ニ經濟上ヨリ之ヲ見レハ既ニ債權カ消滅セルト同一ナルヘシト雖モ法律上ニ於テハ兩者ハ異なるナル

(三) 債權ノ消滅ト債權ノ變更トハ之ヲ混同スヘカラス債權ノ變更アルモ債權ハ其同一ヲ失フコトナク存続ス唯其物體若クハ主體カ變更セルニ過キス故ニ債權ノ喪失ハ債權ノ消滅ニアラス債權ノ喪失ハ單ニ債權カ其主體ト分離スルヲ云フ他ニ之ヲ取得スル者アルトキハ債權ハ消滅スルコトナシ之

ニ反シ債權ノ消滅ハ客觀的ニ債權ノ存在ヲ失ハシム

債權ハ一旦消滅シタル後ニ在リテハ契約ヲ以テ再タヒ之ヲ復活セシムルコトヲ得ス故ニ債權カ全然消滅セル場合ニハ當事者ハ同一ノ内容ヲ有スル新ナル債權ヲ發生セシムルコトヲ得ヘシト雖モ舊債權其モノニアラス從テ舊債權ニ附從スル擔保ハ存続スルコトナシ【註一】

債權ハ通常其消滅ヲ目的トス債權ハ其發生ノ時ヨリ其消滅ヲ豫期セルモノニシテ無期限ニ存在スルモノニアラス貸借委任雇傭組合等ノ債權關係ニ在リテハ多少永久ノ期間存続スルコトヲ目的トスト雖モ此等ノ債權ト雖モ無期限ニ存在スルモノニアラス債權カ消滅ヲ目的トスルハ經濟上ニ於ケル債權ノ作用ヨリ生スル結果ナリ蓋債權ハ人ノ行爲ニ對スル權利ニシテ他人ヲ通シテ外部ノ貨物ヲ取得スルヲ目的トス外部ノ貨物ヲ取得スルトキハ即債權ノ目的ハ達セラレ消滅スルモノトス此點ハ債權カ物權ト異ナル所ナリ物權ニ在リテハ貨物ハ既ニ權利者ノ支配ノ下ニ在リ債權ニ在リテハ外部ノ貨物ハ未タ權利者ノ支配ノ下ニ在ラス將來其支配ニ歸セシメンコトヲ目

的トス故ニ物權ハ不生産的ナルニ反シ債權ハ生産的ナリ物權ハ静止的ナルニ反シ債權ハ活動的ナリ物權ハ目的ニシテ債權ハ方法ナリ故ニ債權ハ自ら消滅シテ物權ヲ來サシムルヲ目的トスト云フコトヲ得ヘシ此ノ如ク債權ノ通常ノ目的バ其消滅ニ在ルカ故ニ債權ノ消滅ハ債權法ニ於テ主要ナル地位ヲ占ム

【註一】 Dernburg § 112 II, Planck zu § 366 nr. 2, Urtmann s. 253, Appel, Erlöschens und Wiederaufleben von Forderungen S. 47 之ニ反シ Kipp zu Windscheid § 47 Ann. 1 ハ一旦消滅セル債權カ復活スルコトヲ得ルモノトナス

第二欸 債權消滅ノ原因

債權消滅ノ原因ノ種類

一 總論 債權消滅ノ原因ハ之ヲ債權ヲ消滅セシムル理由ヨリ觀察シ二種ニ大別スルコトヲ得ヘシ即一ハ當事者ノ意思ニ基ク債權消滅ニシテ其最著シキ場合ハ免除ナリトス辨濟ヲ以テ法律行爲トナス見解ニ從ヘハ辨濟モ亦當事者ノ意思ニ基ク債權消滅ノ場合ニ屬スヘシ他ハ目的消滅(Zweckerlöschung)

igung)ニ基ク債權ノ消滅ニシテ目的ノ消滅ハ更ニ之ヲ目的到達(Zweckerreichung)ト給付不能トニ區別スルコトヲ得辨濟ヲ以テ債務ノ内容ノ實現ト解スルトキハ辨濟ニ因リ債權カ消滅スルハ目的到達ノ爲メナリト爲ササルヘカラス又一派ノ學說ニ從ヘハ混同ニ因リテ債權カ消滅スルハ其目的カ達セラレカ爲メナリトナス其他連帶債務者ノ一人ノ辨濟ニ因リテ他ノ連帶債務者カ債務ヲ免レ保證債務ノ辨濟ニ因リテ主タル債務カ消滅スルハ目的到達ニ基クモノトス

目的到達ト給付不能トハ之ヲ區別スルコト必シモ容易ナラサル場合アリ例ヘハ淺瀬ニ乗上ケタル船ヲ水ニ浮ハスヘキ義務ヲ負ヒタルニ滿潮ノ爲メ船ハ自ら浮上リタル場合建物ヲ壞スヘキ義務ヲ負ヘルニ落雷ノ爲メ壞滅ニ歸セル場合塔ヲ壞スヘキ義務ヲ負ヒタルモ地震ノ爲メ自ら倒壊セル場合等ニ於テ債務者ハ給付ヲ爲サント欲スルモ爲スコト能ハス從テ給付不能存ス然レトモ此等ノ場合ニ債權者ハ其目的トスル所ヲ達ス故ニ債務者カ債務ヲ免ルル理由ニ關シテハ學說一致セス或ハ給付不能ト目的到達トカ共ニ存ス

トナシ【註一】或ハ目的到達ノミ存ストナス【註二】前説ヲ以テ當ヲ得タルモノト解スヘシ蓋上述シタル場合ニハ給付不能ト目的到達トカ同時ニ存スルハ明カナルカ故ニ必シモ目的到達ノ點ノミヨリ著眼スルヲ要セス總テ給付不能トシテ論スルコトヲ得サルヘカラス是レ特ニ債權者ノ反對給付ニ及ホス効力ニ關シ差異ヲ生ス即給付不能トシテ論スルトキハ雙務契約ニ於ケル給付不能ニ關スル規定ヲ適用スルコトヲ得ヘシ

【註一】 Klein, *Übergang der Obligation durch Zweckerreichung* S. 116, *Arch. f. B. R.* B. 31. S. 216 fg

【註二】 Krickmann, *Arch. f. civilist. Prax.* B. 101 S. 254 fg, Lehmann, *Unterlassungspflicht* S. 216

債權消滅ノ原因ハ又包括的債權關係ノ消滅原因ト箇箇ノ債權ノ消滅原因トニ分ツコトヲ得箇箇ノ債權ノ消滅ハ間接ニ包括的債權關係ヲ消滅セシムル場合アリト雖モ兩者ハ必シモ一致セス法典カ債權ノ消滅原因トシテ擧クル所ハ箇箇ノ債權ノ消滅原因ナリトス

債權消滅ノ原因

二 債權消滅ノ原因 法典カ第五節債權ノ消滅ノ題下ニ債權消滅ノ原因トシテ擧クル所ハ辨濟、代物辨濟、供託、相殺、更改、免除及ヒ混同ナリトス然レトモ是レ債權消滅ノ原因ノ凡テヲ盡スモノニアラス唯此以外ノ原因ハ一般ノ法理及ヒ法典ノ他ノ規定ニ依リテ明カナルカ故ニ之ヲ掲ケサルノミ今第五節ノ規定以外ノ債權消滅ノ主ナル原因ヲ擧クレハ左ノ如シ

- (一) 法律行為ノ取消(第百二十一條以下)
- (二) 解除條件ノ成就(第百二十七條第二項)
- (三) 終期ノ到來(第百三十五條第二項)
- (四) 消滅時效ノ完成(第百六十七條以下)
- (五) 給付不能(第四百十五條後段)
- (六) 契約ノ解除(第五百四十條以下)
- (七) 主體ノ死亡 債權者若クハ債務者又ハ雙方ノ死亡ハ債權ノ一般的消滅原因ニアラス消滅ノ原因タル場合ハイ)法律ニ特別ノ規定アル場合(例ヘハ第六百五十三條、第六百七十九條(ロ)當事者カ別段ノ定メヲ爲シタル場合(ハ)

給付ノ特別ノ性質ニ基ク場合即特定ノ債權者ノミニ對シ給付ヲ爲スコトヲ要シ又ハ特定ノ債務者ノミカ給付ヲ爲スコトヲ得ル場合ニ債權者又ハ債務者カ死亡シタルトキハ債權ハ消滅ス例ヘハ教授ヲ爲シ、書ヲ描ク債務ヲ負擔セル場合ノ如シ

反對契約

(八) 反對契約 (contrarius consensus) 當事者カ債權發生ノ原因タル契約ヲ消滅セシムル契約ヲ締結シタルトキハ債權ハ消滅ス此ノ如キ契約カ有效ニ成立スルコトヲ得ルハ云フヲ俟タス或ハ反對契約ハ畢竟免除契約ニ過キス即片務契約ヨリ生セル債務ヲ消滅セシムル契約ヲ爲ス場合ニハ一箇ノ免除契約存シ雙務契約ヨリ生セル債權ヲ消滅セシムル契約ヲ爲ス場合ニハ原因關係ニ因リテ連結セラレタル二箇ノ免除契約存ストナス然レトモ免除契約ハ債權其モノヲ消滅セシムル契約ニシテ債務發生ノ原因タル契約ヲ消滅セシムル契約ニアラス此ニ云フ反對契約ハ當事者雙方ノ合意ヲ以テ契約ヲ除去スルヲ云フ契約ヲ除去スル間接ノ結果トシテ債權ハ消滅スルモノトス故ニ免除契約トハ異ナル且免除契約トナストキハ既ニ債務カ履行セラレタル後

ニ在リテハ債權ヲ消滅セシムルコトヲ得スト雖モ債權發生ノ原因タル契約ヲ除去スルモノトナストキハ債務ノ履行後ニ在リテモ尙契約ヲ除去スルコトヲ得【註三】從テ反對契約ハ當事者雙方ノ合意ヲ以テスル契約ノ解除タル性質ヲ有ス故ニ解除權ノ行使ノ場合ト同シク當事者雙方ニ不當利得ニ基ク返還請求權ヲ生ス

【註三】 Windscheid § 357 Anm. 5, Dernburg Pand. § 102 Anm. 2, Örtmann S. 252,

Demelius, Aufhebung der Schuldverhältnisse Stern, Contrarius consensus S. 23 喜頭氏

合意ニ依ル契約ノ解除(法學志林第十四卷第七號)之ニ反シ Bechmann, Kauf

B. 2 S. 471 fg, Brinz, Pandekten B. 2 S. 459 等ハ反對契約ヲ以テ免除契約ト

ナスノ見解ヲ取ル

(九) 無償原因ノ競合 (concurus duarum Incausarum causarum) 無償原因ノ競

合トハ無償契約ニ基キ債務者カ負擔セル物體ヲ債權者カ無償ニ他ノ方法ニ因リ取得スルヲ云フ例ヘハ受遺者カ受遺物ヲ第三者ヨリ贈與トシテ受クル場合ノ如シ羅馬法ニ於テハ無償原因ノ競合ニ因リテ債權ハ消滅スルモノト

無償原因ノ競合

ナセリ然レトモ近世ノ立法ニ於テハ特ニ之ヲ以テ債權消滅ノ原因トナサス
 我法典モ亦同シ從テ無償原因ノ競合ヲ以テ債權消滅ノ原因トナスカ爲メニ
 ハ特ニ其理由ナカルヘカラス而シテ其理由ニ關シテハ學說岐レ或ハ給付不
 能ニ基クモノトナシ【註四】或ハ目的到達ニ基クモノトナシ【註五】或ハ債權者カ
 債權關係ニ因リテ取得スヘキ物體ヲ他ノ方法ニ因リテ取得シタルカ爲メ債
 務者ヲシテ債務ヲ免レシムル意思ヲ有スル場合ニ於テノミ債權ハ消滅スル
 モノトナス【註六】此場合ニ給付スヘキ物體カ債權者ニ歸シタルニ止マリ更ニ
 債權者ヨリ取得シテ給付スルコトヲ得サルモノトナスヲ得サルカ故ニ給付
 不能存スルモノトナスヲ得ス【註七】故ニ本場合ニ債權消滅ノ理由ヲ求メント
 セハ目的到達ニ基クモノトナササルヘカラス

- 【註四】 Mommsen, Obligationenrecht I S. 255 fg, Titzze Unmöglichkeit 107/108, Siber,
 Rechtzwang S. 155, Schollmeyer S. 98 fg, Lesser, Inhalt der Leistungspflicht S. 125
 【註五】 Hartmann, Obligation S. 62 fg, Klein a. a. O S. 143 fg, Örtmann S. 252, En-
 necerus S. 215, Planck S. 188, Endemann S. 802 Anm 41.

【註六】 Windscheid § 343 a Anm. 6, Kuhlbeck S. 82

【註七】 五四六頁以下参照

以上債權消滅ノ原因ヲ述ヘタリ尙此以外ニ債權者カ債務者ヨリ履行ヲ受
 クルモ全ク利益ナキ場合ニハ債權ハ消滅ストナス說アリ【註八】然レトモ債權
 者カ履行ニ關スル利益ヲ失フハ其目的ヲ達セルカ爲メニアラス目的ヲ達ス
 ルコト能ハサル場合ニ生ス故ニ目的到達ヲ以テ論スルヲ得ス而シテ債權者
 カ履行ノ利益ヲ失フカ爲メニ債權消滅スルモノトナスノ根據ヲ缺クカ故ニ
 利益ノ消滅其モノヲ以テ債權消滅ノ原因トナスヲ得ス唯債權者カ履行ヲ受
 クル利益ナキニ至レル場合ニハ同時ニ給付不能存スルカ爲メ債權消滅スル
 場合アルヘシ【註八】

- 【註八】 Krückmann, Arch. f. civilist. Prax. D. 90, S. 88 fg, Lesser, Inhalt der Leis-
 tungspflicht S. 118 fg, Örtmann S. 252/253 或ハ之ニ反シ債權消滅ノ原因トナス
 者アリ (Dernburg § 68, Lehmann, Unterlassungspflicht S. 216 fg)

第二節 辨濟

第一款 辨濟ノ性質

辨濟 (solutio, Erfüllung, Paiement) [註一]ノ性質ニ關シテハ從來議論最岐ル之ニ關スル學說ヲ大別スレハ法律行為說、折衷說及ヒ非法律行為說ニ分ツコトヲ得ヘシ

(一) 法律行為說 是レ辨濟ヲ以テ法律行為トナス說ニシテ更ニ之ヲ三說ニ分ツコトヲ得ヘシ(イ)或ハ辨濟ヲ以テ契約ナリトナス此說ニ從ヘハ辨濟ハ債務者カ辨濟トシテ給付ヲ爲ス意思ヲ表示シ債權者モ亦辨濟トシテ之ヲ受領スルノ意思ヲ表示シ雙方ノ意思ノ合致ニ依リテ成立ス故ニ辨濟トシテ爲サル給付行為以外ニ辨濟契約 (Erfüllungsvortrag) 成立スルモノトナス[註二](ロ)或ハ辨濟ヲ以テ單獨行為ナリトナス此說ハ債權者カ辨濟トシテ給付ヲ受領スルノ意思ハ必要ニアラスト雖モ債務者ハ必ス辨濟ノ意思ヲ以テ給付ヲ爲スコトヲ要スルカ故ニ辨濟ハ單獨行為ナリトナス[註三](ハ)或ハ辨濟ハ場合

Rechtshung

ニ依リ契約又ハ單獨行為ナリトナス即債權者ノ給付ノ受領ヲ必要トスル場合ニハ契約ニシテ其他ノ場合ニハ單獨行為ナリトス[註四]

(二) 折衷說 此說ハ辨濟ノ性質ハ一般的ニ之ヲ定ムルコトヲ得ス債權者ノ給付ノ受領ヲ必要トスル場合ニハ辨濟ハ契約ナリト雖モ給付カ不作爲又ハ事實上ノ行為ニ依リテ爲サル場合ニハ辨濟ハ事實行為ナリトナス[註五]

(三) 非法律行為說 此說ハ辨濟其モノト辨濟トシテ爲サル給付行為トニ分チ給付行為ハ契約、單獨行為、事實行為等種種アルヘシト雖モ辨濟其モノハ法律行為ニアラス債務ノ内容ヲ實現スル行為ナリトナス[註六]

以上諸說ノ中最後ノ非法律行為說ヲ以テ當ヲ得タルモノトス他ノ學說ノ非ナル所以ヲ概論セン

先ツ法律行為說中契約說ノ非ナル所以ヲ述フレハ(一)辨濟トシテ爲サル給付ハ種種ニシテ或ハ不作爲給付タル場合アリ或ハ債務者一方ノミノ行為ニ依リテ爲サル場合アリ(例ヘハ受任者カ委任事務ヲ執行スルカ如シ)此等ノ場合ニハ辨濟ハ債務者一方ノ行為ヲ以テ爲サルカ故ニ辨濟カ契約ニア

ラサルハ云フヲ俟タス更ニ辨濟ノ成立ニ債權者ノ協力ヲ要スル場合ニ在リ
 テモ其協力カ事實上ノ行爲タルニ過キサル場合ニハ(例ヘハ肖像ヲ描カシメ、
 教授ヲ受クル場合ノ如シ)債權者ハ辨濟トシテ給付ヲ受領スル意思ヲ表示ス
 ル所ナキカ故ニ契約ハ成立セス故ニ辨濟カ契約タルヤ否ヤヲ論スル餘地ア
 ル場合ハ債權者ノ協力ヲ要シ且其協力カ法律行爲ナル場合ニ限ルモノト云
 ハサルヘカラス(二)然ラハ債權者ノ法律行爲的協力ヲ要スル場合ニ(例ヘハ辨
 濟トシテ物ヲ引渡シ、權利ヲ移轉スル場合ノ如シ)契約成立スルヤト云フニ此
 場合ニモ契約成立スルコトナシ契約說ニ從ヘハ債權者ハ辨濟トシテ給付ヲ
 受領スルノ意思ヲ表示スルコトヲ要スルカ故ニ契約カ成立ストナスト雖モ
 辨濟充當ニ關スル第四百八十八條第一項、第四百九十一條等ノ規定ニ依レハ
 債權者カ辨濟受領ノ意思ヲ表示スルコトヲ要セス債務者ノ指定又ハ法律ノ
 規定ニ從ヒテ充當セラレ債務ハ消滅スルモノトス從テ同一理由ニ依リ債權
 者ハ債務者カ辨濟トシテ爲セル給付ヲ受領スルトキハ債權者カ他ノ原因ノ
 爲メ(例ヘハ贈與若クハ消費貸借トシテ)受領スルノ意思ヲ表示スルモ辨濟ハ

有效ニ成立スルモノトナササルヘカラス故ニ辨濟ノ成立ニハ債權者カ辨濟
 トシテ給付ヲ受領スルノ意思ヲ表示スルコトヲ要セス從テ又辨濟ヲ以テ契
 約ト爲スコトヲ得(三)之ヲ實際ノ結果ヨリ見ルモ辨濟ヲ以テ契約トナスト
 キハ債務者及ヒ債權者ノ行爲能力ヲ要スルコトトナルヘシ然レトモ辨濟カ
 不作爲ナル場合、事實行爲ナル場合ニ於テ當事者ノ行爲能力ヲ要セサルハ明
 カナリ若シ辨濟ヲ以テ契約トナストキハ實際ニ於テ頗不都合ナル結果ヲ生
 スヘシ(四)更ニ辨濟カ債權ヲ消滅セシムル理論上ノ根據ヨリ見ルニ契約說ニ
 從フトキハ債權カ消滅スルハ債權者、債務者間ニ於ケル債權ヲ消滅セシムル
 合意ニ基クモノトナス然レトモ若シ辨濟ニ因リテ債權カ消滅スル理由カ當
 事者ノ合意ニ基クモノトナストキハ何故ニ給付カ債務ノ内容ニ適合スルコ
 トヲ要スルヤ其理由ヲ解スルコトヲ得ス苟モ債權者ト債務者トカ債權ヲ消
 滅セシムル契約ヲ爲スニ於テハ其契約ノミニ因リテ債權ヲ消滅セシムルコ
 トヲ得ヘク債務ノ内容ニ適合スル給付アルコトヲ要スルモノトナスヲ得ス
 代物辨濟カ債權ヲ消滅セシムル理由ハ債權者、債務者間ノ契約ニ基ク從テ契

約説ニ從フトキハ辨濟ト代物辨濟トハ區別ナキニ至ルヘシ又此説ニ從フト
 キハ辨濟ト免除トハ債權ヲ消滅セシムル理由ヲ同フスルコトトナルヘシ辨
 濟トシテ爲サルル給付カ債務ノ内容ニ適合スルコトヲ要スル點ヨリ見レハ
 辨濟カ債務消滅ノ原因タル所以ニ辨濟カ債務ノ内容ヲ實現スルモノナルカ
 爲メナリト云ハサルヘカラス

更ニ單獨行爲説ニ從ヘハ辨濟ノ成立ニハ必債務者カ辨濟意思(animus solvendi)
 即辨濟トシテ給付ヲ爲スノ意思ヲ有スルコトヲ要スルカ故ニ辨濟ヲ以テ單
 獨行爲ナリトナス然レトモ(一)辨濟トシテ爲サルル給付ノ中債務者ノ辨濟意
 思ナキ場合アリ特ニ不作爲債務ノ辨濟ニ於テ然リトス故ニ此説ニ從ヒ一般
 ニ辨濟ヲ以テ單獨行爲ト爲スヲ得ス且縱令辨濟意思存ストナスモ如何ニシ
 テ表示セラルルヤ又其意思表示カ債權者ニ到達セサルモ其效力ヲ生スヘキ
 ヤ此等ノ點ニ關シ單獨行爲説ヲ主張スル學者ハ之ヲ説明スル所ナシ(二)法典
 ノ規定ヨリ之ヲ見ルニ債務者ノ辨濟意思ハ辨濟ノ成立ニ必要ニアラス是レ
 特ニ第四百八十九條ニ於テ債務者ノ意思ナキモ法律ノ規定ニ基キ辨濟ノ充

當カ行ハルルニ依リテ見レハ明カナリ(三)且債務者カ辨濟ヲ爲ス場合ニ辨濟
 意思ヲ有スト爲スモ所謂ル辨濟意思ハ效果意思ニアラス即辨濟ナル法律行
 爲ヲ成立セシムル要件トシテ辨濟意思カ存スルコトヲ要スルニアラス不當
 利得ヲ生セサル消極的の要件トシテ辨濟意思アルコトヲ要スルニ止マル從テ
 辨濟ノ爲メニ或給付ヲ爲スコトヲ表示スルモ單ニ宣言的の效力ヲ有スルニ過
 キス法律效果ノ發生ヲ欲スル意思ノ表示ニアラス(四)若シ辨濟ヲ以テ單獨行
 爲ト爲ストキハ債務者カ行爲能力ヲ有スルコトヲ要スル結果トナリ給付カ
 事實行爲タルニ過キサレ場合ニモ尙行爲能力ヲ要スル不都合ノ結果ヲ生ス
 ヘシ(五)更ニ此説ニ從ヘハ何故ニ辨濟ニ依リテ債權カ消滅スルヤ其理由ヲ説
 明スルコトヲ得ス蓋契約説ニ從ヘハ債權者債務者雙方ノ意思ニ基キテ債權
 ハ消滅ストナスカ故ニ尙其理由存ス然レトモ單獨行爲説ニ從フトキハ債務
 者一方ノ意思ノミニ依リテ債權消滅スト爲スカ故ニ其當ヲ得サルヤ明カナ
 リ債權者ノ意思ニ基キテ債權ノ消滅スルハ或ハ之ヲ認ムルコトヲ得サルニ
 アラサルヘシト雖モ債務者一方ノ意思ニ基キテ債權カ消滅スルハ之ヲ認ム

ルコトヲ得ス

以上論スル所ニ依リ辨濟ヲ以テ法律行為トナス說ノ非ナルハ、明カナルヘシ從テ又折衷說ノ採ルヘカラス所以モ亦明カナルヘシ蓋折衷說ハ辨濟ハ場合ニ依リ法律行為又ハ事實行為タル性質ヲ有ストナスカ故ニ其說ノ一半ハ非ナルカ故ナリ且折衷說ハ論理上大ナル誤謬ヲ含ム本來辨濟ノ觀念ヲ定メントセハ辨濟ノ凡テノ場合ニ共通ナル性質ヲ抽出スルコトヲ要ス給付行為ノ如何ヲ問ハス凡テノ場合ニ共通ナル性質ニ依リテ辨濟ノ觀念ヲ定メサルヘカラス然ルニ折衷說ニ從フトキハ辨濟ノ方法タル給付行為ニ依リテ其性質ヲ定メ或場合ニハ法律行為タリ或場合ニハ事實行為タリト爲スカ故ニ辨濟ノ本質ニ關シテハ全ク説明スル所ナシト云ハサルヘカラス更ニ折衷說ニ從フトキハ辨濟カ法律行為タル場合ニハ當事者ノ意思ニ基キテ債權ハ消滅シ事實行為タル場合ニハ當事者ノ意思ニ基カス單ニ債務ノ内容ニ適合スルニ依リテ債權ハ消滅スル結果トナリ場合ニ依リ辨濟ニ因リテ債權カ消滅スル理由ヲ異ニスルコトトナルヘシ以テ折衷說ノ採ルヘカラスハ明カナ

ルヘシ

辨濟ノ正當ナル觀念ヲ得ントセハ債權ノ觀念ヨリ之ヲ定ムルコトヲ要ス債權ハ債務者ヲシテ債權ノ内容ニ從ヒ行為ヲ爲サシムル權利ナリ從テ辨濟ハ債權消滅ノ正式ノ原因ニシテ債務者ノ行為ニ依リ債權ノ内容ヲ具體的ニ實現スルヲ云フ債務ノ内容ノ實現ハ債權本來ノ目的ニシテ内容カ實現セラレルニ因リテ債權ノ目的ハ達セラレルカ故ニ債權ハ消滅スルモノトス故ニ單ニ債務者ノ行為カ客觀的ニ債務ノ内容ニ適合スルニ因リテ債權ハ消滅ス債務者カ之ニ依リテ債務ヲ消滅セシムル意思ヲ有スルヤ否ヤハ之ヲ問フコトヲ要セス又債權者カ債權ヲ消滅セシムル意思ヲ有スルヤ否ヤモ亦之ヲ問フコトヲ要セサルモノトス而シテ辨濟ハ債務ノ内容ヲ實現スル債務者ノ行為ヲ云フモノニシテ其之ヲ實現スル方法ハ之ヲ問ハス從テ辨濟トシテ爲サル給付行為ハ或ハ契約タルコトアルヘク或ハ單獨行為タルコトアルヘク或ハ事實行為タルコトアルヘシ然レトモ辨濟其モノハ法律行為又ハ事實行為トナルコトナシ【註七】

【註一】法律ハ辨濟ナル文字ノ外ニ尙履行ナル文字ヲ用ユ此二箇ノ文字ハ其意義ニ於テ異ナル所ナシ唯債權ノ效力ノ點ヨリ著眼シテ履行ト云ヒ債權消滅ノ點ヨリ觀察シテ辨濟ト稱スルニ過キス

【註二】契約說ハ獨普通法ニ於ケル通説タリ Savigny, System III S.312, Windscheid § 343 Anm. 2 b, Lohmar, causa S. 20 fg, Regelsberger, kritische Vierteljahrs. B. 15 S. 161, Henrici, Jahrb. f. Dogm. B. 14 S. 430 fg, Struckmann, Jahrb. f. Dogm. B. 15 S. 253 獨民法ニ於テ Endemann S. 795, Klein, causa solvendi S.45 fg.

【註三】Rosenberg, Jahrb. f. Dogm. B. 43 S. 221 fg, Schollmeyer S. 275 fg, Baner, Natur der Erfüllung S. 83 fg, Alexander, Natur der Erfüllung S. 55 fg, Havenstein, Erläusen der Schuldverhältnisse durch Erfüllung S. 24 fg, Margraf, Begriff der Erfüllung S. 69 fg

【註四】Hasenöhr, B. 2 S. 378 fg, Manigk, Anwendungsgebiet der Vorschriften über die Rechtsgeschäfte S. 46, Matthiass S. 46, Planck S. 209, Enneccerus, S. 163 岡松氏辨濟ノ法律上ノ性質(京都法學會雜誌第一卷第一號)

【註五】Crome §182 S. 233, Ereit, Geschäftsfähigkeit S.227 fg, Kuhlentbeck S. 272

【註六】Kohler, Jahrb.f. Dogm. B. 17 S. 261 fg, Gruchot, Lehre von der Zahlung des Gelds S. 12, Stammler S. 221 fg, Dernburg § 130 II, Landsberg § 106 S. 355 fg, Iherke, Ist die Erfüllung Rechtsgeschäft ?, Ortmann 255256, Breit, Geschäftsfähigkeit 227 fg, Kretschmar Erfüllung S. 82 fg, 123 fg, Böhmer, Erfüllungswille S. 47 fg

【註七】拙著民法研究第一卷(辨濟ハ法律行爲ナリヤ)四四一頁以下參照

第二款 辨濟者

第一項 辨濟者

債務者ハ辨濟ヲ爲スヘキ義務ヲ負フモノナルカ故ニ辨濟ヲ爲スコトヲ得ヘキハ云フヲ俟タス債務者ハ單一債務者タルト不可分債務者タルト連帶債務者タルト保證人タルトヲ問フ所ナシ

債務者ノ代理人モ亦辨濟ヲ爲スコトヲ得且債務ノ辨濟ニ關シテハ例外トシテ自己行爲ノ代理ヲ許スカ故ニ債權者ハ債務者ノ代理人トシテ辨濟ヲ爲

辨濟者

シ若クハ債務者ハ債權者ノ代理人トシテ辨濟ヲ爲シ又ハ同一人ニシテ債權者及ヒ債務者ノ代理人トシテ辨濟ヲ爲スコトヲ得(第百八條但書法典ハ「債務ノ履行」ニ付キ自己行爲ノ代理ヲ許ス旨ヲ規定スルモ精確ニ云ヘハ辨濟ノ方法タル給付行爲ニ付キ自己行爲ノ代理ヲ許スヲ云フ即辨濟トシテ爲サル給付行爲カ法律行爲タル場合ニ自己行爲ノ代理ヲ許スコトヲ云フナリ

第三者ノ辨濟

第三者モ亦辨濟ヲ爲スコトヲ得(第四百七十四條第一項)第三者ノ辨濟ハ第三者カ自己ノ名ヲ以テ他人ノ債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲スヲ云フ故ニ債務者ノ代理人トシテ辨濟ヲ爲スヲ云フニアラス(註二)第三者ノ辨濟ハ羅馬法以來各國立法ノ認ムル所ナリ(註三)蓋給付カ債務ノ内容ニ適合スルモノナルトキハ何人ヨリ其給付ヲ受クルモ債權者ニ取リテハ異ナル所ナシ即債務者ヨリ給付ヲ受クルト第三者ヨリ給付ヲ受クルト債權者ニ取リテハ同一ニシテ其目的トスル所ヲ達スルコトヲ得且他方ニ於テ債務者ハ辨濟ヲ爲シタル第三者ニ對シ償還義務ヲ負擔スルコトアリト雖モ之カ爲メニ債務者ノ本來ノ負擔ヲ重クスルニアラス寧場合ニ依リ債務者ハ之カ爲メニ利益ヲ受クルコ

トアルヘシ故ニ第三者ノ辨濟ヲ認ムルモ何等ノ不都合ノ點アルヲ見ス是レ第三者ノ辨濟ヲ認ムル所以ナリ第三者ノ辨濟ヲ認ムル結果トシテ債權者カ第三者ノ給付ヲ受領セサルトキハ債權者ハ債務者ニ對シテ遲滯ノ責ニ任ス又第三者ハ辨濟ヲ爲スコトヲ得ルカ故ニ其要件具備スルトキハ供託ヲ爲スコトヲ得ヘシ(註三)

以上述フルカ如ク第三者ハ獨立シテ辨濟ヲ爲スコトヲ得ヘク債權者又ハ債務者ノ承諾ヲ得ルコトヲ要セス然レトモ例外トシテ左ノ場合ニハ第三者ハ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス(第四百七十四條第一項但書同條第二項)

(一) 債務ノ性質カ第三者ノ辨濟ヲ許ササルトキ 是レ給付ノ性質上債務者自ラ辨濟ヲ爲スニアラサレハ債務ノ目的ヲ達スルコトヲ得サル場合ヲ云フ即給付カ債務ノ人的要素ニ重キヲ置キ債務者ノ性質、人物、技能、熟練等ヲ條件トスル場合ニ生ス例ヘハ書ヲ描キ演藝ヲ爲スカ如シ此等ノ場合ニハ債務ノ目的ヲ達スルカ爲メニハ債務者自ラ辨濟ヲ爲スコトヲ要シ第三者カ辨濟ヲ爲スモ其目的ヲ達スルコトヲ得ス法典ハ特ニ明文ヲ以テ第三者ノ辨濟

ヲ許ササル旨ヲ規定スル場合アリ例ハ勞務者第六百二十五條第二項受任者第百四條受寄者第六百五十八條第一項等ハ自ラ債務ヲ辨濟スルコトヲ要ス

(二) 當事者カ反對ノ意思ヲ表示シタルトキ 債權者債務者ノ契約ヲ以テ第三者ノ辨濟ヲ禁止シ債務者自ラ辨濟ヲ爲スヘキコトヲ定メタル場合ニハ第三者ハ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス然レトモ之カ爲メニハ必ス債權者債務者ノ契約アルコトヲ要ス債權者又ハ債務者ノ一方カ第三者ノ辨濟ヲ承諾セサルモ尙第三者ハ辨濟ヲ爲スコトヲ得而シテ第三者ノ辨濟ヲ禁止スル契約ハ必スシモ債權發生當時ニ之ヲ爲スコトヲ要セス其後ニ至リ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ又債權ノ原因タル契約ヲ締結セル當事者ノミニ限ラス承繼人タル債權者債務者間ニ於テモ第三者ノ辨濟ヲ禁スルコトヲ得ヘシ

(三) 利害關係ヲ有セサル第三者ノ辨濟ニ付キ債務者カ反對ノ意思ヲ表示シタルトキ 利害關係ヲ有スル第三者ハ債務者ノ意思ニ反スルモ尙辨濟ヲ爲スコトヲ得蓋利害關係ヲ有スル第三者ハ債務ノ辨濟ヲ爲スニ付キ自ラ

利益ヲ有スル者ナルカ故ニ債務者ノ意思ニ反スルモ辨濟ヲ爲スコトヲ得セシムル必要アルカ故ナリ然レトモ利害關係ヲ有セサル第三者ニ關シテハ債務者ノ意思ニ反シテ辨濟ヲ爲スコトヲ得セシムル必要ナシ故ニ此場合ニハ債務者ノ意思ヲ重シテ債務者ヲシテ第三者ノ辨濟ノ利益ヲ受ケシメサルコトヲ要ス是レ本規定アル所以タリ註四利害關係ヲ有スル第三者トハ債務ノ辨濟ニ付キ財産上ノ利害關係ヲ有スル者ヲ云フ故ニ債權者ノ權利ノ行使ニ依リ利益ヲ喪失シ又ハ減少セラルル虞アル者例ハ擔保財産ノ第三取得者自己ノ財産ヲ以テ債務ノ擔保ニ供シタル者債務者ノ財産ノ上ニ物權例ハ抵當權ヲ有スル者債務者ノ他ノ債權者等ノ如シ然レトモ辨濟ヲ爲スニ付キ財産上ノ利害關係ナキ者ハ債務者其人ト關係アルモ例ハ債務者ノ親族利害關係ヲ有スル者ニアラス此ニ所謂利害關係ヲ有スル第三者ハ第五百條ノ所謂辨濟ヲ爲スニ付キ正當ノ利益ヲ有スル者ト同一ノ範圍ニアラス辨濟ヲ爲スニ正當ノ利益ヲ有スル者ノ中ニハ不可分債務者連帶債務者保證人等自ラ債務ヲ負擔スル者ヲモ含ムト雖モ利害關係ヲ有スル第三者ノ中ニハ

之ヲ含マス之ニ反シ辨濟ヲ爲スニ付キ正當ノ利益ヲ有セサルモ利害關係ヲ有スル者アルヘシ

反對ノ意思表示トハ第三者ノ辨濟ヲ欲セサル意思ヲ表示スルヲ云フ其性質ハ異議ト同シク意思通知 (Willensmitteilung) ノ一種ナリトス從テ精確ニ云ヘハ意思表示ニアラス唯意思表示ニ關スル規定ヲ準用スルコトヲ得ヘシ【註五】債務者ハ何人ニ對シテ反對ノ意思ヲ表示スヘキヤニ付キ規定ヲ缺ク從テ債權者又ハ第三者ノ孰レニ對シテモ反對ノ意思ヲ表示スルコトヲ得ルモノト解スヘシ又第三者カ辨濟ヲ爲ス以前タルコトヲ要セス辨濟ヲ爲シタル後ニ於テモ反對ノ意思ヲ表示スルコトヲ得債務者カ反對ノ意思ヲ表示セルニ拘ラス第三者カ辨濟ヲ爲スモ其效力ヲ生セス又第三者カ辨濟ヲ爲シタル後債務者カ反對ノ意思ヲ表示セルトキハ既往ニ遡リ辨濟ハ其效力ヲ失フ從テ辨濟ヲ爲シタル第三者ハ不當利得請求權ニ基キテ其償還ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

以上三箇ノ場合ニハ第三者ハ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

辨濟ヲ爲シタル第三者ト債務者トノ關係ハ一ニ兩者間ニ於ケル法律關係ニ依リテ定マル兩者間ニハ委任贈與又ハ事務管理等ノ關係存スヘク第三者カ債務者ニ對スル求償權ハ此等ノ關係ニ依リテ定マル而シテ第三者ト債務者トノ間ニ於ケル法律關係ノ如何ハ辨濟ニ效力ヲ及ホスコトナシ從テ第三者カ債務者ニ對スル贈與ノ意思ヲ以テ辨濟ヲ爲シタル場合ニ債務者カ之ニ承諾ヲ與ヘサルモ辨濟ノ效力ニ影響ヲ及ホスコトナシ【註六】

【註一】或ハ第三者カ辨濟ヲ爲ス場合ニハ本人タル債務者ノ爲メニスルコトヲ示スカ故ニ債務者ノ代理人トシテ辨濟ヲ爲スモノトスル說アリ (Wieland, Arch. f. civilist. Prax.B. 95 S. 181)然レトモ第三者ハ債務者ノ名義ヲ用ユルモノニアラス又此場合ニ債務者ハ第三者ニ對シ代理權ヲ授與スルニアラサルカ故ニ代理人トシテ辨濟ヲ爲スモノトナスコトヲ得ス且其效力ニ於テモ異ナル特ニ第三者ヲ以テ債務者ノ代理人トナストキハ非債辨濟ノ場合ニハ債權者ニ對シ不當利得請求權ヲ有スル者ハ債務者ニシテ辨濟ヲ爲シタル第三者ニアラサル結果ヲ生スヘシ (Ortmann S. 80)

【註二】 Windscheid § 342 Anm. 22, 普國國法第一部第十六章第四十三條、第四十九條、第五十一條、佛民法第千二百三十六條、獨民法第二百六十七條

【註三】 第三者ノ辨濟ヲ以テ債務者ノ辨濟ト同一ノ性質ヲ有ストナスハ從來ノ定説ニシテ是レニ債務ノ目的ハ債務者ノ辨濟ニ依ルト同シク第三者ノ辨濟ニ依リテ達スルコトヲ得ルモノトナスニ基ク然レトモ既ニ述ヘタルカ如ク辨濟ヲ以テ債務ノ内容ヲ實現スル債務者ノ行為ナリト解スルトキハ第三者ノ辨濟ハ固有ノ意義ニ於ケル辨濟ニアラスト云ハサルヘカラス蓋辨濟ハ債務ノ内容ノ實現ナルカ故ニ債務者ノミ之ヲ實現スルコトヲ得ルモノトス第三者ハ債務ヲ負擔スル者ニアラサルカ故ニ債務ノ内容ヲ實現スルコト能ハス從テ第三者ハ辨濟ヲ爲スコトヲ得サルモノトナササルヘカラス故ニ第三者ノ辨濟ハ債務者ノ辨濟ト其性質ヲ同フセス即固有ノ辨濟ニアラス唯客觀的ニ第三者ノ給付ハ債務者ノ給付ト同シク債權ノ目的ヲ達スルコトヲ得ルカ故ニ法律カ債務者ノ辨濟ト同一ノ效力ヲ生セシムルニ過キス (Kretschmar, Erfüllung S. 125 fg)

拙著民法研究第一卷四四三頁參照

【註四】 佛民法ニ於テハ第四百七十四條第三項ノ如キ例外規定ヲ缺ク從テ第三者ハ債務者ノ意思ニ反シテ辨濟ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤニ關シ學說岐ル獨民法第二百六十七條第二項ハ債務者カ異議ヲ述ヘタルトキハ債權者ハ第三者ノ給付ヲ拒ムコトヲ得ルモノトナス我法典ハ利害關係ヲ有セサル第三者ノミカ債務者ノ意思ニ反シテ辨濟ヲ爲スコトヲ得サルモノトス此規定ハ債權者ト第三者トカ債務者ノ意思ニ反シテ債務者ノ交替ニ因ル更改ヲ爲スコトヲ得サルト(第五百十四條)同一趣旨ニ出ツ然レトモ之ヲ我法典カ免除ヲ以テ單獨行為トナシ債權者一方ノ意思表示ノミヲ以テ債務ヲ免除スルコトヲ得ルモノトナセル第五百十九條ノ規定ト對スレハ條理一貫セス債務者ノ意思ヲ問フ所ナク債務ヲ免除スルコトヲ得ルモノトセハ第三者カ辨濟ヲ爲シ又ハ債務者ノ交替ニ因ル更改ヲ爲ス場合ニ在リテモ債務者ノ意思ヲ問フコトヲ要セサルモノトナササルヘカラス若シ又第三者ノ辨濟又ハ更改ノ場合ニ債務者ノ意思

ニ反スルコトヲ得サルモノトセハ免除ノ場合ニモ債務者ノ意思ニ反シテ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトナササルヘカラス

【註五】拙著民法研究第一卷三八九頁以下

【註六】Ortmann S. 81, Kahlenbeck S. 82

第二項 辨濟者ノ能力

辨濟ヲ爲スニ辨濟者ノ行爲能力ヲ要スルヤ否ヤハ一般的ニ之ヲ云フコトヲ得ス辨濟ノ方法トシテ爲サル給付行爲ノ性質ニ依リテ之ヲ定メサルヘカラス辨濟カ事實行爲ニ依リテ爲サル場合ニハ行爲能力ヲ必要トセス例ヘハ演劇ヲ爲シ勞働ヲ爲スカ如シ之ニ反シ辨濟カ法律行爲ニ依リテ爲サル場合ニハ一般ノ規定ニ從ヒ行爲能力ヲ必要トス從テ辨濟トシテ權利ヲ讓渡スル場合ニハ辨濟者カ處分能力ヲ有スルコトヲ要ス若シ處分能力ヲ有セサル者カ辨濟トシテ讓渡行爲ヲ爲シタル場合ニハ其讓渡行爲ヲ取消スコトヲ得【註二】而シテ一般的ニ讓渡能力ヲ有セサル者ハ未成年者(第四條)及ヒ禁治

辨濟者ノ能力

產者(第九條)ニシテ準禁治產者及ヒ妻ハ不動産及ヒ重要ナル動産ニ關スル權利ニ付キ讓渡能力ヲ有セス(第十二條第三號、第十四條第一號)從テ此等ノ無能力者カ法定代理人、保佐人又ハ夫ノ同意ヲ得スシテ讓渡行爲ヲ爲シタルトキハ之ヲ取消スコトヲ得而シテ其取消ノ結果トシテ一旦債權者ニ移轉シタル權利ハ既往ニ遡リテ當然辨濟者ニ復歸ス(第二百一十一條)故ニ辨濟トシテ物ヲ引渡セル場合ニハ取消ノ結果所有權ハ辨濟者ニ復歸スルヲ以テ辨濟者ハ其所有權ニ基キテ其物ノ取戻ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス然レトモ若シ此原則ヲ貫キ無條件ニ取戻ヲ許ストキハ債權者ハ頗ル不利益ヲ受クルコトアルヘシ即辨濟者ノ無條件ノ取戻ヲ許ストキハ債權者ハ辨濟ヲ受クヘキ時期ニ辨濟ヲ受クルヲ得サルノミナラス後日ニ至リ辨濟者カ無資力ト爲リタルトキハ債權者ハ遂ニ辨濟ヲ受クルコトヲ得サル虞アリ故ニ法典ハ一種ノ留置權ヲ認メ辨濟者カ更ニ有效ナル辨濟ヲ爲スニアラサレハ辨濟トシテ引渡シタル物ヲ取戻スコトヲ得サルモノトセリ(第四百七十六條)尙第四百七十六條ハ辨濟者カ更ニ有效ナル辨濟ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニノミ適用アルカ

故ニ第四百七十五條ト同シク債權カ特定物ノ給付ヲ物體トスル場合ニハ適用ナシ從テ特定物ノ給付ノ場合ニハ辨濟者ハ無條件ニ之ヲ取戻スコトヲ得ルモノトナササルヘカラス【註二】

行爲無能力者カ辨濟ノ爲メ爲シタル讓渡行爲ハ本人又ハ法定代理人カ之ヲ追認セル場合ニハ之ヲ取消スコト能ハサルニ至ルカ故ニ辨濟ハ有效ノモノトシテ其效力ハ確定ス(第百二十二條)更ニ債權者カ辨濟トシテ受ケタル物ヲ善意ニテ消費シ又ハ讓渡シタル場合ニ於テモ亦其辨濟ハ有效ノモノトシテ其效力確定ス(第四百七十七條)此規定ノ適用アルカ爲メニハ二箇ノ要件ヲ具フルコトヲ必要トス

(イ) 債權者カ辨濟トシテ受ケタル物ヲ消費シ又ハ讓渡セルコトヲ要ス消費トハ物理的ニ物ヲ處分スルヲ云フ讓渡トハ其物ノ所有權ヲ他人ニ讓渡スルヲ云フ故ニ其物ノ上ニ他物權(例ヘハ質權)ヲ設定スル場合ハ之ヲ含マス

(ロ) 債權者カ善意ナリシコトヲ要ス即債權者ハ辨濟者カ讓渡能力ナキコトヲ知ラサリシコトヲ要ス而シテ單ニ辨濟トシテ物ヲ受領セシ時ノミナラ

ス消費又ハ讓渡ノ時ニ善意ナリシコトヲ要ス然レトモ善意ナルヲ以テ足り其善意カ過失ニ基カサリシコトヲ要セス善意ハ債權者之ヲ證明スルコトヲ要ス

以上ノ要件ヲ具フルトキハ辨濟ハ其效力確定シ取消スコトヲ得サルモノトス然レトモ精確ニ云ヘハ辨濟トシテ爲サレタル物ノ所有權讓渡行爲カ取消スコトヲ得サルコトトナリ從テ辨濟ノ效力確定スルモノトス此ノ如ク讓渡行爲ヲ取消スコトヲ得サルカ故ニ一般原則ノ例外ヲ爲スモノトス是レ畢竟善意ノ債權者ヲ保護スルノ目的ニ出ツ【註三】【註四】

辨濟者カ無能力者ナル場合ニハ債權者カ善意無過失ナルモ第百九十二條ニ依リテ所有權ヲ取得スルコトヲ得ス蓋第百九十二條ハ讓渡人カ無權利者ナル場合ニノミ適用アルモノナルカ故ナリ【註五】唯債權者カ時効ニ因リテ所有權ヲ取得セル場合ニハ債權ハ目的ヲ達スルニ因リテ消滅スヘシ

【註一】 辨濟ヲ取消スト云フハ辨濟其モノヲ取消スニアラス辨濟トシテ爲サレタル給付行爲ヲ取消スヲ云フ是レ先ニ辨濟ノ性質ヲ論スルニ當

リ述ヘタル所ナリ辨濟ヲ以テ法律行爲ト爲ス說ニ從フトキハ如何ナル場合ニ於テモ辨濟者ハ行爲能力ヲ有スルコトヲ要スル結果トナルヘシ

【註二】債權カ特定物ノ給付ヲ物體トスル場合ニ於テモ無能力者カ爲シタル辨濟ハ尙之ヲ取消スコトヲ得ルハ疑ヲ容レヌ然レトモ此場合ニハ其特定物以外ニ於テハ給付スヘキ物ナキカ故ニ第四百七十六條ノ所謂ル有效ナル辨濟ヲ爲スコトヲ得ス從テ此場合ニ辨濟者ハ無條件ニ其給付セル物ヲ取戻スコトヲ得ルヤ又ハ債權者ハ其取戻ヲ拒ムコトヲ得ルヤ此問題ニ關シテハ多少疑ナキニアラスト雖モ本場合ニハ第四百七十六條ヲ適用スルヲ得サルカ故ニ一般ノ原則ニ從ヒ辨濟者ハ讓渡行爲ヲ取消シタル結果トシテ其給付シタル物ヲ取戻スコトヲ得ルモノトナササルヘカラス

【註三】債權者カ辨濟トシテ受ケタル物ヲ善意ニテ消費セル場合ニ辨濟ヲ取消スコトヲ得サルモノトナスハ佛民法(第一千二百三十八條第二項)ノ認ムル所ニシテ此規定ハ佛法學者ノ一般ニ非難スル所ナリ蓋債權者カ

善意ナル場合ニ於テモ尙無能力者ヲ保護スルコトヲ要シ債權者カ辨濟トシテ受ケタル物ノ消費ニ因リ利益ヲ得タル場合ニハ之ヲ償還スヘキモノトナスコトヲ要ス無能力者タル辨濟者ノ不利益ニ於テ債權者カ利得スヘキ理由ナシトナス (Laurent t. 17 n. 509, Baudry-Lacrinierie et Barde t. 13 n. 1431, Planiol t. 2 n. 408) 我法典ニ於テモ亦同一ニ論スルコトヲ得ヘシ第四百七十七條ニ依リ債權者ハ保護ヲ受クヘシト雖モ無能力者ハ不利益ヲ被ルニ至ルヘシ

【註四】第四百七十七條但書ノ規定ハ第四百七十六條ノ場合ニ適用ナシ蓋此場合ニハ第四百七十五條ニ於ケルカ如ク辨濟者以外ニ物ノ所有者タル第三者ナキカ故ニ所有者ヨリ其物ヲ追奪セララルコトナク且債權者カ其物ヲ第三者ニ讓渡スルモ第三者ヨリ損害賠償ノ請求ヲ受クルコトナキカ故ナリ

【註五】拙著民法研究第一卷六一〇頁以下、富井氏法學協會雜誌第三十一卷第二號九頁、反對乾氏法學協會雜誌第三十一卷第九號三〇頁

第三項 辨濟者ノ處分權

辨濟者ノ處分權

辨濟カ權利ノ移轉ニ依リテ爲サルル場合ニハ辨濟者ハ辨濟ノ物體タル權利ヲ處分スル權利ヲ有スルコトヲ要ス。辨濟者カ處分權ヲ有セサルトキハ其權利ヲ債權者ニ移轉スルコトヲ得サルカ故ニ辨濟ノ效力ヲ生スルコトナシ。從テ辨濟者カ其移轉スヘキ權利ヲ有セサル場合ニ辨濟ノ效力ヲ生セサルノミナラス縱令其權利ヲ有スルモ之ヲ處分スル權能ヲ有セサルトキハ辨濟ノ效力ヲ生セス故ニ例ヘハ債務者カ差押ヲ受ケ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニハ其財產ヲ處分スル權能ヲ失フカ故ニ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス。辨濟者カ處分權ヲ有スルコトヲ要スルハ單ニ辨濟トシテ所有權ヲ移轉スル場合ノミナラス其他ノ權利ヲ設定移轉スル場合ニ適用アリ。辨濟トシテ他人ノ物ヲ引渡シタル場合ニ關スル第四百七十五條ノ規定ハ單ニ辨濟者カ處分權ナキ一場合タルニ過キサレカ故ニ此規定ハ狭キニ失ス。然レトモ此規定ハ尙他ノ處分權ナキ辨濟ノ場合ニ準用スルコトヲ得ヘシ。以下第四百七十五條ノ規定ニ

付キ説明スヘシ

辨濟者カ他人ノ物ヲ引渡シタル場合ニハ其物ノ所有權ヲ債權者ニ移轉スルコトヲ得サルカ故ニ辨濟ハ其效力ヲ生セス〔註一〕而シテ此場合ニハ債權者カ其物ノ占有ヲ保持スヘキ法律上ノ原因ナキヲ以テ辨濟者ハ不當利得請求權ニ基キテ其占有ノ返還ヲ請求スルコトヲ得蓋此場合ニ辨濟者ハ所有者ニアラサルカ故ニ所有權ニ基キ占有ノ回復ヲ請求スルコトヲ得ス。又占有ノ侵奪ナキカ故ニ占有回收ノ訴ニ依ルコトヲ得ス。然レトモ債權者カ辨濟者ヨリ其物ノ占有ヲ取得スヘキ原因ナキヲ以テ辨濟者ハ債權者ニ占有ノ不當利得(Condictio possessionis)トシテ其返還ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス〔註二〕此ノ如ク辨濟者ハ取戻請求權ヲ有スト雖モ無條件ニ其物ヲ取戻スコトヲ得ルモノトナストキハ債權者ハ有效ナル辨濟ヲ受クルコトヲ得サル危險アルカ故ニ法律ハ債權者ヲ保護シ一種ノ留置權ヲ認メ辨濟者カ更ニ有效ナル辨濟ヲ爲スニアラサレハ其物ヲ取戻スコトヲ得サルモノトセリ(第四百七十五條)有效ナル辨濟トハ他ノ同種ノ物ヲ給付スルヲ云フ故ニ辨濟者ハ他ノ同種ノ物ヲ

第三編 債權 第一部 債權總論 第六章 債權ノ消滅 第二節 辨濟

給付シテ始メテ先ニ引渡シタル物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得テ債權者ハ辨濟者カ他ノ物ヲ給付セサル以上ハ先ニ引渡ヲ受ケタル物ヲ返還スルコトヲ要セス【註三】

第四百七十五條ハ辨濟者カ有效ナル辨濟ヲ爲スコトヲ得ル場合ニアラサレハ適用ナキカ故ニ債權カ種類物ノ給付ヲ物體トスル場合ニアラサレハ同條ヲ適用スルヲ得ス蓋債權カ特定物ノ給付ヲ物體トシ債務者ハ必ス其物ヲ給付スルコトヲ要スル場合ニハ他ノ物ヲ給付シテ先ニ引渡シタル物ヲ取戻スコトヲ得サルカ故ニ同條ヲ適用スルノ餘地ナキカ故ナリ故ニ債權カ特定物ノ給付ヲ物體トスル場合ニ其物カ辨濟者ノ所有ニ屬セサルトキハ辨濟者ハ有效ナル辨濟ヲ爲ササルモ尙債權者ニ引渡シタル物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

上述スルカ如ク辨濟者カ他人ノ物ヲ引渡スモ辨濟ハ其效力ヲ生セス然レトモ例外トシテ辨濟カ有效ナル場合アリ

(一) 債權者カ辨濟トシテ受ケタル物ヲ善意ニテ消費シ又ハ讓渡シタル場

合 此場合ニハ辨濟ハ有效ニ成立ス(第四百七十七條)本規定ノ適用アルニハ二箇ノ要件ヲ具フルコトヲ要ス

(イ) 債權者カ辨濟トシテ受ケタル物ヲ消費シ又ハ讓渡セルコトヲ要スルハ先ニ無能力者ノ辨濟ニ付キ述ヘタルト同シ

(ロ) 債權者カ善意ナリシコトヲ要ス善意ノ意義ハ無能力者ノ辨濟ノ場合ト異ナリ債權者カ辨濟トシテ受ケタル物カ辨濟者ニ屬セサルコトヲ知ラザリシコトヲ云フ其他ノ點ニ付キテハ無能力者ノ辨濟ニ付キ述ヘタルト同シ以上ノ要件ヲ具備スルトキハ辨濟ハ有效ナリトス然レトモ此場合ニ債權者ハ其物ノ所有權ヲ取得スルコトナキカ故ニ辨濟ノ要件ヲ缺ク故ニ法律ノ擬制ヲ以テ辨濟ヲ有效ト看做スモノト云ハサルヘカラス是レ畢竟善意ノ債權者ヲ保護スルカ爲メニ外ナラス【註四】

(二) 所有者カ辨濟者ノ處分ニ同意ヲ與ヘタル場合 即辨濟者カ辨濟トシテ他人ノ物ヲ讓渡セル場合ニ其所有者カ讓渡ニ關シ同意ヲ與ヘタルトキハ其讓渡ハ有效ト爲ルカ故ニ辨濟モ亦有效ナリトス【註五】

(三) 債權者カ他ノ原因ニ基キ辨濟トシテ受ケタル物ノ所有權ヲ取得セル場合 特ニ債權者カ第九十二條ノ規定スル善意取得ニ基キ又ハ時効ニ因リ所有權ヲ取得セル場合ニハ目的到達ニ因リテ債權ハ消滅ス〔註六〕而シテ所有者ハ辨濟者ニ對シ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ルニ止マル

辨濟者カ辨濟トシテ他人ノ物ヲ給付セル場合ニ其物ノ所有者ハ其權利ヲ失フコトナシ債權者カ善意ニテ其物ヲ消費シ又ハ讓渡セルカ爲メ辨濟カ有^レ效ト看做サルル場合ニ於テモ所有者ノ權利ハ影響ヲ受クルコトナシ從テ所有者債權者辨濟者ノ間ニ種種ノ法律關係ヲ生ス(二)辨濟者ノ給付セル物カ債權者ノ占有ニ在ル間ハ所有者ハ所有權ニ基キ其物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得縱令債權者ハ第四百七十五條ニ依リ辨濟者ニ對シ返還ヲ拒絶スルコトヲ得ル場合ニ於テモ所有者ニ對シテハ返還スルコトヲ要ス此場合ニ債務カ有償契約ニ基クモノナルトキハ辨濟者ハ債權者ニ對シテ權利欠缺ニ對スル擔保義務ヲ負フ(二)債權者カ辨濟トシテ受領セル物ヲ第三者ニ讓渡セル場合ニハ所有者ハ現ニ其物ヲ占有スル者ニ對シ其返還ヲ請求スルコトヲ得ヘシ從

テ此場合ニ債權者カ讓受人ニ對シ權利欠缺ニ對スル擔保義務ヲ負フカ爲メ讓受人ヨリ賠償ノ請求ヲ受ケタルトキハ債權者ハ更ニ辨濟者ニ對シテ賠償ヲ爲スコトヲ得第四百七十七條但書(三)若シ又債權者カ其物ヲ消費シタルトキハ所有者ハ債權者ニ對シ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得而シテ其賠償ニ應シタル債權者ハ更ニ辨濟者ニ對シテ賠償ヲ爲スコトヲ得(同條但書)

【註一】 佛民法第千二百三十八條第一項ハ辨濟カ有效ナルカ爲メニハ辨濟者カ其引渡シタル物ノ所有權ヲ有スルコトヲ要スルモノトナス而シテ佛法ニ於テハ債權契約ト共ニ所有權ハ移轉スルモノトナス主義ヲ採ルカ故ニ辨濟者ハ契約締結當時ニ所有者タルコトヲ要ス從テ辨濟當時ニ於テ辨濟者カ所有權ヲ有スルコトヲ要ストノ規定ハ果シテ適用ノ餘地アリヤ否ヤニ關シ議論岐レ或ハ適用ナシトシ第千二百三十八條ヲ非難スル學者アリ(Toullier, t. VII n. 6, Marcadé t. IV n. 632)然レトモ通説ハ之ニ反シ尙同條ハ適用アルモノトナシ特ニ債權カ種類物ノ給付ヲ物體トスル場合及ヒ特定物ノ給付ヲ物體トスルモ所有權ノ移轉ヲ延期セル場

合ニ於テハ尙辨濟者ハ辨濟ノ當時所有權ヲ有スルコトヲ要スルカ故ニ同條ノ適用アリトナス (Laurent, t. 17 n. 493, Baudry-Lacantinerie et Barde t. 13 n. 1407) 我國法ニ在リテモ佛法ト同シク特定物ノ給付ノ場合ニハ債權契約締結ト共ニ所有權ハ移轉スルモノトナス學說ヨリスレハ同一ノ問題ヲ生スヘシ然レトモ吾人ハ債權カ特定物ノ給付ヲ物體トスル場合ト雖モ所有權ハ必スシモ債權契約締結ト共ニ移轉スルモノニアラストナスカ故ニ辨濟者ハ辨濟當時ニ所有權ヲ有スルコトヲ要スルモノトナス (拙著民法研究第二卷二五頁參照)

【註二】辨濟トシテ他人ノ物ヲ引渡シタル債務者カ債權者ニ對シ其物ノ取戻ヲ請求スルコトヲ得ルハ佛法ニ於テ一般ニ認メラルル所ナリト雖モ取戻權ノ根據ニ關シテハ學者ノ說ク所必スシモ明カナラス或ハ債務者ハ所有者ニ對シ損害賠償ヲ爲スヘキ義務ヲ負フ故ニ債務者ヲ保護スルカ爲メニ取戻權ヲ認ムルモノトナシ或ハ債務者ノ取戻ニ依リ所有者ハ直接ニ債務者ヨリ其物ヲ取得スルコトヲ得ルノ結果トナルカ故ニ債

務者ノ取戻ヲ認ムルハ畢竟所有者ノ利益ノ爲メナリトナス (Laurent t. 17 n. 499, Baudry-Lacantinerie et Barde t. 13 n. 1417) 然レトモ是レ唯辨濟者ノ取戻權ヲ認ムルモ不當ノ結果ヲ生セサルコトヲ云フニ止マリ取戻權ノ法理上ノ根據ヲ明カニスル所ナシ取戻權ノ根據ハ占有ノ不當利得ニ基クモノト解スルニ依リテ始メテ之ヲ明カニスルコトヲ得ヘシ
 【註三】佛民法第千二百三十八條ハ單ニ辨濟者カ給付スヘキ物ノ所有者ハ不辨人タルコトヲ要スル旨ヲ規定スルニ止マリ我第四百七十五條ノ如ク債權ニ付シテ者ノ留置權ヲ認メス然レトモ一般ノ學說ニ於テハ債權者ハ辨濟者カ他ノ物ヲ提供セル場合ニ始メテ引渡ヲ受ケタル物ヲ返還スルヲ以テ足レリトナス (Baudry-Lacantinerie et Barde, t. 13 n. 1418, Zachariae-Crome, B. II § 296 Anm. 12, Crome, Grundlehre des französischen Obligationenrechts § 24 Anm. 26)

【註四】第四百七十七條ノ規定ハ佛民法第千二百三十八條第二項ニ倣ヘルモノニシテ佛法學者ノ說ニ從ヘハ此規定ハ債權者カ善意ニテ辨濟トシテ受ケタル物ヲ消費セル場合ニハ其物ノ所有權ヲ取得セル場合ニ於

此ノ規定ハ債權者カ善意ニテ辨濟トシテ受ケタル物ヲ消費セル場合ニハ其物ノ所有權ヲ取得セル場合ニ於

ケルト同一ノ處分ヲ爲セルモノナルカ故ニ債權者自ラ辨濟ノ無效ヲ主張スルヲ得ストノ理由ニ基クモノトナス (Pothier, obligation n. 497, Laurent t. 17 n. 498) 然レトモ債權者カ辨濟トシテ受ケタル物ヲ善意ニテ消費又ハ讓渡セルカ爲メ辨濟ヲ有效トナスヘキ理由ナシ辨濟者自ラ其給付セル物ノ所有權ヲ有セサルカ故ニ其給付ヲ受ケタル債權者ハ縱令善意ナリトスルモ消費又ハ讓渡ノ爲メニ所有權ヲ取得スルコトヲ得ス從テ又辨濟ヲ以テ有效トナスコトヲ得ス債權者カ辨濟トシテ受ケタル物ノ所有權ヲ取得セサルトキハ辨濟ハ絶對的ニ無効ナリ佛法學者ノ云フカ如ク善意ニテ其物ヲ消費セル債權者カ辨濟ノ無効ヲ主張スルコトヲ得サルモノトナスヲ得ス故ニ同條カ辨濟ヲ以テ有效トナスハ全ク法律ノ擬制ニ基クモノニシテ理論ヨリ云ヘハ同條ノ規定ハ當ヲ得タルモノト云フヲ得ス且之ヲ實際上ノ理由ヨリ云フモ同條ノ規定ヲ設クル必要アルヲ見ス債權者カ辨濟トシテ受ケタル物ヲ善意ニテ消費シ又ハ讓渡セル場合ニ在リテモ第四百七十七條ノ規定ニ依ラス一般ノ規定ヲ適用シ辨

濟ヲ無効トナスヲ以テ足ル蓋辨濟カ無効ナルトキハ債權者ハ辨濟者ニ對シ再タヒ履行ヲ請求シ又ハ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ヘク之ニ因リテ第三者ニ對シテ爲シタル損害賠償ヲ償フコトヲ得ルカ故ナリ此ノ如ク解スルトキハ特ニ擬制ヲ用ヒテ無効ノ辨濟ヲ有效ト認ムルヲ要セサルノミナラス第四百七十七條但書ニ於テ第三者ニ對シテ損害賠償ヲ爲シタル債權者ノ求償權ヲ認ムルコトヲ要セス

【註五】非權利者カ他人ノ權利ヲ處分セル場合ニ權利者カ其處分ニ對シ同意ヲ與フルトキハ其處分カ有效ナルハ獨民法第八十五條ノ規定スル所ナリ我國法ニ於テハ此ノ如キ規定ヲ缺クト雖モ同一ニ論スルコトヲ得ヘシ

【註六】獨普通法ニ於テハ債權者カ辨濟トシテ受ケタル物體ヲ時効ニ因リテ取得セル場合ニハ辨濟カ成立スルモノトナス (Windscheid § 312 Anm. 3) 然レトモ此場合ニ債權者ハ給付行爲其モノニ因リテ所有權ヲ取得セルモノニアラサルカ故ニ直ニ辨濟ヲ以テ有效ナリトナスヲ得ス故ニ此

場合ニ債權ヲ消滅セシムルハ目的到達ニ基クモノトナササルヲ得ス佛
 法ニ在リテハ時效及ヒ占有ノ善意取得ノ場合ニ債權者ハ辨濟ノ無効ヲ
 主張スルコトヲ得ルヤ否ヤニ關シ議論岐ル或ハ此場合ニハ債權者ハ既
 ニ所有權ヲ取得スルカ故ニ無効ヲ主張スルノ利益ナキカ故ニ之ヲ主張
 スルコトヲ得ストナシ(Aubry et Rau t. 4 p. 256 note 17)或ハ債權者ハ尙其無
 效ヲ主張スルコトヲ得ルモノトナス(Laurent t. 17 n. 496, Baudry-Lacantinerie
 et Barde t. 13 n. 1412)

第四項 留保ヲ以テ爲ス辨濟

留保ヲ以
 テ爲ス辨
 濟

債務者カ債務ノ成立ヲ留保シテ辨濟ヲ爲ス場合ニ其留保ハ種種ノ意義ニ
 用ヒラル之ヲ約スレハ四箇ノ意義ニ解スルコトヲ得ヘシ【註一】

(一) 或ハ債務者ハ債務カ成立スルヤ否ヤ疑アル場合ニ辨濟ヲ爲スモ若シ
 債務カ事實成立セサリシトキハ不當利得請求權ニ基キ其返還ヲ請求スヘキ
 コトヲ留保スル場合アリ此場合ニ留保ヲ爲スハ債務者カ辨濟ヲ爲スニ際シ

債務ノ不成立ヲ知リタルモノト認メラルルコトヲ避クル目的ニ出ツ

(二) 或ハ留保ヲ以テ解除條件ト爲ス場合アリ即留保ヲ以テ爲ス辨濟ハ效
 カヲ生スルモ債務ノ不成立カ確定シタルトキハ其效力ヲ失フモノトナス從
 テ此見解ニ從ヘハ辨濟ノ效力ヲ不確定ノ狀態ニ置クモノニシテ債權者カ債
 務ノ成立ヲ證明スルコトヲ得サル場合ニハ辨濟ハ無効トナリ債務者ハ不當
 利得請求權ニ基キ其給付ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

(三) 或ハ債務者ノ留保ニ依リ債務ノ成立ノ承認ヲ除外スル場合アリ蓋債
 務者カ債務ノ辨濟ヲ爲ス場合ニハ同時ニ債務成立ノ事實ノ承認ヲ爲スモノ
 トス而シテ其承認ハ宣言の效力ヲ有スルニ止マリ創設の效力ヲ有スルコト
 ナシト雖モ債務者ハ債務ノ成立ヲ承認スルカ故ニ債務不成立ノ場合ニ辨濟
 トシテ爲シタル給付ノ返還ヲ請求スルニ當リテハ債務者自ラ債務ノ不成立
 ヲ證明セサルヘカラス債務者カ留保ヲ爲スハ即債務成立ノ承認ヲ除外スル
 カ爲メニシテ之ニ依リ債務ノ不成立ヲ證明スル不利益ヲ免レントスルニ外
 ナラス

(四) 或ハ債務者ノ留保ニ對シ債權者カ承諾ヲ與フルニ依リテ債務者ノ援用スル凡テノ抗辯ノ對抗ヲ受クヘキコトヲ承諾スル契約成立スル場合アリ此ノ如ク留保ハ種種ノ意義ヲ有シ學者ニ依リ其意義ニ關シ見解ヲ異ニスト雖モ留保ノ意義ハ必スシモ其一ニノミ固定スルコトヲ要セス各場合ノ解釋ニ依リテ當事者カ何レノ意義ニ依リタルヤヲ定ムヘシ【註二】

債務者カ留保ヲ以テ辨濟ヲ爲ス場合ニ債權者ハ辨濟ヲ受領スルコトヲ要スルヤ否ヤニ關シテハ議論岐ル債務者ハ第一ノ意義ニ於テ留保ヲ爲スコトヲ得ルハ云フヲ俟タス蓋債務者カ此意義ニ於ケル留保ヲ爲スコトヲ返還ヲ請求スルニハ自ラ債務ノ不成立ヲ證明スルコトヲ要シ債權者ハ不利益ヲ蒙ルコトナク從テ留保ヲ爲スコトヲ要スル結果ニ於テハ留保ヲ爲ササルト相同シキカ故ナリ又第四ノ意義ニ從ヘハ債權者債務者間ニ留保ニ關スル契約存ストナスカ故ニ其效力ヲ認めサルヘカラス之ニ反シ債務者ハ第二及ヒ第三ノ意義ニ於ケル留保ヲ爲スコトヲ得サルモノト云ハサルヘカラス(一)債務者ノ留保カ解除條件タル場合ニハ債權者ハ辨濟ヲ受領スルコトヲ要セス蓋債務者

カ債務ノ成立ヲ承認セスシテ條件附ニ辨濟ヲ爲シタル場合ニハ辨濟ノ效力ハ全ク確定セルモノト云フコトヲ得ス從テ債權者ハ確實ナル法律上ノ地位ヲ有セス債權者ハ此ノ如キ不利益ヲ受クルコトヲ要セサルカ故ニ留保ヲ以テスル辨濟ハ固有ノ辨濟ニアラス從テ債權者ハ其辨濟ノ受領ヲ拒ムコトヲ得ルモノトス(二)留保カ債權成立ノ承認ヲ除外スル意義ヲ有スル場合ニ關シテモ亦債權者ハ辨濟ヲ受領スルコトヲ要セス蓋此場合ニ債務者ハ債務ノ成立ヲ承認セサルカ故ニ債權者ハ辨濟ヲ受領スルモ完全ニ權利ヲ取得スルヲ得ス而シテ債務者ハ單ニ債權者カ債權ヲ有セサルコトヲ主張スルヲ以テ足リ債權ノ不成立ヲ證明スルコトヲ要セス債權者ニ於テ債權ノ成立ヲ證明スルコトヲ要スルニ至ル故ニ債權者ハ辨濟ヲ受領スルコトヲ要セサルモノトナササルヘカラス【註三】

【註一】留保ハ必スシモ債務者カ之ヲ爲スノミニ限ラス債權者モ亦留保ヲ爲ス場合アリ即債權者カ債務ノ辨濟タルヘキ效力ヲ除外シ尙給付ノ訴ヲ提起スヘキコトヲ留保スル場合アリ然レトモ是レ實際ニ於テ生ス

ルコト稀ナルカ故ニ殆之ヲ論スル者ナシ

【註二】留保ノ意義ニ關スル各種ノ見解ニ關シテハ Liebknacht, Vorbehalt-zahlung und Eventualaufrechnung S. 1 fg 參照

【註三】是レ通説トシテ認メラルル所ナリ Liebknacht S. 66 fg, Dernburg § 1 13 IV, Örtmann zu § 362 Nr. 6, Eccius, Gruchots Beiträge B. 42. S. 30, Planck zu § 362 Nr. 8, Kneecerus § 283 II Kahlenbeck S. 271, Rehbein II S. 270

或ハ之ニ反シ留保ヲ以テ爲ス辨濟ト雖モ債務者ハ現實ニ給付ヲ爲スカ故ニ固有ノ辨濟タリ債權者ハ之ヲ受領スルコトヲ要ス唯債權者ハ債務成立ノ確認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ルニ過キストナス者アリ (Stölzel, Schulung f. d. zivilistische Prax. B. 2 S. 97 fg, Endemann S. 797)

第三款 辨濟受領者

辨濟受領者

辨濟ハ法律行爲ニ依リテ爲サルル場合タルト事實行爲ニ依リテ爲サルル場合タルトヲ問ハス又債權者ノ協力ヲ要スル場合タルト辨濟者一方ノ行爲

債權者

ニ依リテ爲スコトヲ得ル場合タルトヲ問ハス必ス其辨濟トシテ爲サルル給付ヲ受クル者ナカルヘカラス辨濟者一方ノ行爲ヲ以テ辨濟ヲ爲ス場合ニハ債權者ノ協力ヲ要セスト雖モ尙其辨濟ノ利益ヲ受クル者アルコトヲ要ス辨濟受領ノ權限ヲ有スル者ハ第一ニ債權者タルハ云フヲ俟タス然レトモ債權者カ有效ニ辨濟ヲ受領スルコトヲ得ルカ爲メニハ左ノ要件ヲ具備スルコトヲ要ス

債權者ノ行爲能力

(一) 債權者カ行爲能力ヲ有スルコトヲ要スルヤ否ヤハ辨濟其モノニ依リテ之ヲ定ムルコトヲ得ス辨濟ノ方法タル給付行爲ノ性質ニ依リテ之ヲ定メサルヘカラス【註二】即債務者一方ノ行爲ノミヲ以テ給付ヲ爲スコトヲ得ル場合例ヘハ委任事務ヲ執行シ、勞務ヲ爲シ、不作爲債務ヲ履行スルカ如シ又ハ債權者カ事實上ノ行爲ニ依リ協力ヲ爲スコトヲ要スルニ過キサレ場合例ヘハ教授ヲ受ケ、治療ヲ受クルカ如シニハ債權者カ行爲能力ヲ有スルコトヲ要セサルハ明カナリ債權者ノ法律行爲的協力ヲ要スル場合ニ(例ヘハ辨濟トシテ債務者カ債權者ニ權利ヲ移轉スル場合ノ如シ)始メテ債權者カ行爲能力ヲ有

スルコトヲ要スルヤ否ヤノ問題ヲ生ス而シテ通説ニ從ヘハ債權者カ給付ヲ受領スルニ依リ債權ノ消滅ヲ來スカ故ニ辨濟ノ受領ハ債權ノ處分ナリ從テ債權者ハ處分能力ヲ有スルコトヲ要スルモノトナス【註二】然レトモ債權者ノ辨濟受領ヲ以テ債權ノ處分トナスコトヲ得ス蓋既ニ述ヘタルカ如ク辨濟ハ債務ノ内容ノ實現ナルカ故ニ債權者カ債務者ヨリ債務ノ内容ニ適合セル給付ヲ受領セル以上ハ縱令債權者カ債權ヲ消滅セシムル意思ヲ有セサルモ尙債權ハ消滅ス若シ辨濟ノ受領ヲ以テ債權ノ處分ナリトセハ債權者カ債務ヲ消滅セシムル意思ヲ有スルコトヲ要ス然ルニ此ノ如キ意思アルコトヲ要セサルカ故ニ辨濟ノ受領ヲ以テ債權ノ處分トナスコトヲ得ス且若シ辨濟ノ受領カ債權ノ處分タルノ理由ヲ以テ行爲能力ヲ要スルモノトセハ債權者カ辨濟ノ成立ノ爲メニ事實行爲的協力ヲ爲ス場合ニ在リテモ尙辨濟ノ受領ハ債權ノ處分ナルヘキカ故ニ債權者ノ行爲能力ヲ要スルモノト解スルコトヲ要スルニ至ルヘシ故ニ辨濟ノ受領ヲ以テ債權ノ處分トナスノ非ナルハ明カナリ此ノ如ク辨濟ノ受領ハ債權ノ處分ニアラサルカ故ニ無能力者ト雖モ辨濟

受領ノ能力ヲ有ス固ヨリ辨濟ヲ受領スルノ結果トシテ債權ハ消滅スヘシト雖モ債權者ハ之カ爲メニ不利益ヲ被ルモノトナスヲ得ス蓋未タ辨濟ナキ間ハ債權者ハ給付ヲ取得スルコトヲ得ヘキ權利ヲ有スルニ過キス辨濟ニ依リテ現實ニ給付ヲ取得スルカ故ニ從來ノ地位ニ比シ利益ヲ受クルモノ不利益ヲ受クルコトナシ故ニ未成年者カ辨濟受領ノ能力ヲ有スルモノトナスモ第四條ノ規定ニ抵觸スル所ナシ若シ未成年者カ辨濟受領ノ能力ヲ有セサルモノトナストキハ例ヘハ現實ノ贈與ハ之ヲ受領スル能力ヲ有スルモ債權契約タル贈與契約ノ辨濟ハ之ヲ受領スル能力ヲ有セサル不都合ノ結果ヲ生スヘシ故ニ未成年者ハ辨濟受領ノ能力ヲ有スルモノトナササルヘカラス唯我法典ハ第十二條第一號及ヒ第十四條第一號ニ於テ準禁治產者妻カ元本ヲ領收スルニハ保佐人夫ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノトナス元本ノ領收ハ即元本ノ辨濟ノ受領ナリ然レトモ同意權者ノ同意ヲ要スルハ元本領收カ債權ノ處分ナルカ爲メニアラス無能力者カ其領收セル元本ヲ散逸消盡スルコトヲ防カンカ爲メナリ【註三】而シテ元本ノ消盡ヲ防クノ必要ハ未成年者ニ付テモ相

同シキカ故ニ此等ノ規定ヲ準用シ未成年者カ元本ヲ領收スルニモ亦法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノト解スヘシ

(二) 債権カ差押ヲ受ケタルトキハ其債権者ハ債務者(即第三債務者)ヨリ辨濟ヲ受クルコトヲ得ス又第三債務者ハ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス(民事訴訟法第五百九十八條)從テ此規定ニ違反シ第三債務者カ自己ノ債権者ニ辨濟ヲ爲スモ其辨濟ハ差押債権者ニ對シテハ無効ナリトス從テ差押債権者ハ尙第三債務者ニ對シ辨濟ヲ請求スルコトヲ得(第四百八十一條)民事訴訟法第六百條)然レトモ此場合ニ差押債権者ハ第三債務者カ自己ノ債権者ニ對シテ爲シタル辨濟ニ因リテ受ケタル損害ノ限度ニ於テノミ第三債務者ニ對シテ辨濟ヲ請求スルヲ得ルモノトス從テ第三債務者カ自己ノ債権者ニ辨濟ヲ爲スモ差押債権者カ損害ヲ被ラサル場合ニハ其辨濟ハ債権者ニ對シテ有效ナリトス
差押債権者カ既ニ自己ノ債権者ニ辨濟ヲ爲シタル第三債務者ニ對シ辨濟ヲ請求スルトキハ第三債務者ハ二重ニ辨濟ヲ爲スノ結果ヲ生ス而シテ債権者ハ第三債務者ノ二重ノ辨濟ニ因リテ自ラ辨濟ヲ受クルノミナラス差押債

権者ニ對シテ負擔スル債務ヲモ免レ不當ニ利得スルノ結果ヲ生スルカ故ニ第三債務者ハ不當利得請求權ニ基キ債権者ニ對シ求償ヲ爲スコトヲ得(第四百八十一條第二項)

(三) 債権者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其財産ヲ管理スル權利ヲ失フカ故ニ債務ノ辨濟ヲ受領スルコトヲ得ス(舊商法第九百八十五條)

【註一】拙著民法研究第一卷四二八頁以下

【註二】Planck zu § 107 Nr. 1, Enneccerus § 14 2 II 1 b

【註三】Laurent t. 5 n. 368, Baudry-Lacantinerie t. 5 n. 992, Planiol t. 1. n. 2130

以上債権者ニ關シ述ヘタリ債権者以外ニ於テ辨濟受領ノ權限ヲ有スル者ハ左ノ如シ

(一) 債権者ノ代理人 債権者ノ法定代理人ハ原則トシテ辨濟受領ノ權限ヲ有ス(第五十三條)第八百八十四條)第九百二十三條等任意代理人カ辨濟受領ノ權限ヲ有スルヤ否ヤハ各場合ニ於ケル授權ノ範圍ニ依リテ之ヲ定ムヘシ代理人ノ權限ノ定メナキ場合ニハ第三百三條ニ依リ辨濟受領ノ權限ヲ有ス

債権者ノ代理人

ルモノト解スヘシ蓋既ニ論セルカ如ク辨濟ノ受領ハ處分行爲ニアラス財産ヲ保存スル行爲ナルカ故ナリ固ヨリ辨濟ノ受領ニ因リテ債權ハ消滅スト雖モ其消滅ニ因リテ債權者ハ其目的ヲ達シ債權ハ現實ノ財産ニ變スルカ故ニ債權者ハ辨濟ノ受領ニ因リテ寧其財産ヲ保存スルモノトナササルヘカラス故ニ權限ノ定メナキ代理人ハ第三百三條第一號ニ依リ辨濟ヲ受領スルコトヲ得ルモノト解スヘシ

代理權ヲ有セサル第三者カ辨濟ヲ受領セル場合ニ後ニ至リ債權者カ之ヲ追認セルトキハ辨濟ハ其效力ヲ生ス(第一百十三條以下)

(二) 質權者、差押債權者 債權上ニ質權ヲ有スル者ハ直接ニ其債權ノ取立ヲ爲スコトヲ得第三百六十五條債權ヲ差押ヘタル者モ亦債權ノ取立ヲ爲スコトヲ得(民事訴訟法第六百條)又債權者ハ代位權(第四百二十三條)ニ基キ辨濟ヲ受領スルコトヲ得

(三) 第三者タル辨濟受領者 當事者カ債權發生當時又ハ其後ニ至リ契約ヲ以テ第三者ヲ辨濟受領者ト定メタル場合ニハ其第三者ハ辨濟受領ノ權

質權者、差押債權者

第三者タル辨濟受領者

限ヲ有ス【註四】【註五】

【註四】羅馬法ニ於テ *Solutiois causa adjectus* ヲ認メ債務者ハ債權者以外ノ第三者ニ辨濟ヲ爲シ債務ヲ免ルルコトヲ得ルモノトセリ (*Windscheid* § 3 42 Anm. 34, *Stadthagen, Solutiois causa adjectus* S. 7 fg) 近世ノ立法ニ於テモ之ニ關スル規定ヲ設ケタルモノナキニアラサルモ多クハ其必要ナシトシテ規定ヲ設ケス然レトモ當事者ノ契約ヲ以テ債務者カ第三者ニ辨濟ヲ爲スコトヲ得ルモノトナスハ實際ニ於テ生スルコト必スシモ稀ナリトセス (*Hellwig, Verträge auf Leistung an Dritte* S. 75)

【註五】ヘルウイツヒハ此種ノ契約ヲ第三者ノ爲メニスル契約ト區別シ第三者ニ權限ヲ與フル契約 (*ermächtigende Verträge auf Leistung an Dritte*) ト稱ス蓋此種ノ契約ニ在リテハ第三者ハ直接ニ諾約者ニ對シ權利ヲ取得スルニアラス單ニ給付ヲ受領スルノ權限ヲ取得スルニ過キササルカ故ナリ (*Verträge auf Leistung an Dritte* S. 42 fg) 此種ノ契約カ代理權授與ノ契約ト異ナル所ハ代理權授與ニ在リテハ債權者一方ノ行爲ニ依リテ代理人ニ對

シ辨濟受領ノ權限ヲ撤回スルコトヲ得ト雖モ(第六百五十一條)此種ノ契約ニ在リテハ債權者ハ自由ニ其授與セル辨濟受領ノ權限ヲ奪フコトヲ得サル點ニ在リ(第五百三十八條)

受取證書
ノ持參人

(四) 受取證書ノ持參人 受取證書ハ債務ノ辨濟ヲ證明スル書面タルニ過キス從テ受取證書ヲ所持スルカ爲メニ直ニ辨濟受領ノ權限ヲ有スルモノトナスコトヲ得然レトモ法典ハ取引ノ實際上ノ必要ヨリシテ受領證書ノ持參人ハ辨濟受領ノ權限ヲ有スルモノト看做セリ(第四百八十條)蓋債權者カ辨濟ヲ受領スル前ニ豫メ受取證書ヲ作成シ之ト引換ニ辨濟ヲ受領スルハ日常行ハルル所ニシテ債務者ハ受取證書ノ持參人カ辨濟受領ノ權限アルモノト信シ安シテ之ニ辨濟ヲ爲スヲ常トス然ルニ若シ其持參人カ受領ノ權限ヲ有セサルカ爲メ之ニ爲シタル辨濟ヲ無効ナリトシ更ニ再タヒ辨濟ヲ爲スヘキモノトナストキハ債務者ニ不測ノ損害ヲ被ラシメ取引ノ安全ヲ害スルコトナシトセス且受取證書ヲ作成セル債權者ハ第三者カ其受取證書ヲ濫用スルノ危險ヲ負擔スルモノト云フコトヲ得ヘシ故ニ受取證書ノ持參人ニ

爲シタル辨濟ハ持參人カ正當ノ權限ヲ有スルト否トニ拘ラス有效ナルモノトセリ然レトモ辨濟カ有效ナリト看做サルルハ法律ノ擬制タルニ過キス又持參人ハ使者タルニ過キサレモノニシテ此規定アルカ爲メ法律ニ依リ辨濟受領ノ代理權ヲ取得スルモノニアラス(註七)又受取證書ハ此規定アルカ爲メニ權限證書(Legitimationspapier)タル性質ヲ有スルモノトナスヘカラス

受取證書ノ持參人カ辨濟受領ノ權限アリト看做サルルカ爲メニハ

(一) 受取證書ハ真正且適法ノモノタルコトヲ要ス受取證書ハ其證書ヲ作成スル權限ヲ有スル者カ之ヲ作成セルコトヲ要ス即受取證書ハ真正ノモノタルコトヲ要シ偽造變造ノモノナル場合ニハ縱令辨濟者カ善意ナルモ其辨濟ハ效力ヲ生セス(註八)然レトモ受取證書ハ必スシモ債權者ノ名義ヲ以テスルコトヲ要セス辨濟受領ノ權限アル代理人又ハ自己ノ名義ニ於テ辨濟ヲ受領スル權限ヲ有スル者カ受取證書ヲ作成セル場合ニモ適用アリトス(註九)

(二) 持參人カ受取證書ヲ所持スル原因ハ之ヲ問ハス故ニ債權者カ受取證書ヲ直接ニ持參人ニ交付セルコトヲ要セス持參人カ債權者又ハ適法ニ受取

證書ヲ所持セル者ヨリ不法ニ受取證書ヲ取得スルモ關スル所ニアラス例へハ受取證書ヲ拾得シ、奪取セル場合ニ於テモ適用アリトス【註一〇】

(三) 辨濟者カ受取證書ノ持參人カ辨濟受領ノ權限ナキコトヲ知ラサリシコトヲ要ス即辨濟者カ持參人ノ受領ノ權限ナキコトヲ知リタルトキ又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラサリシトキハ第四百八十八條ノ適用ナク從テ持參人ハ權限ヲ有セサルモノトス(同條但書)例へハ債權者カ特ニ辨濟者ニ對スル通知ニ因リ權限ナキコトヲ知リ又ハ其通知ノ書面ヲ受取リタルモ之ヲ讀マサリシカ爲メ權限ナキコトヲ知ラサリシ場合ノ如シ此等ノ場合ニハ辨濟者ヲ保護スヘキ理由ナキヲ以テ持參人ハ辨濟受領ノ權限ヲ有セス從テ其辨濟ハ無効ナリトス而シテ辨濟者ノ惡意又ハ過失ハ辨濟ノ無効ヲ主張スル者之ヲ證明スルコトヲ要ス

以上ノ要件ヲ具フルトキハ受取證書ノ持參人ハ辨濟受領ノ權限ヲ有スルモノト看做サル而シテ單ニ債務者カ辨濟ヲ爲ス場合ノミナラス第三者カ辨濟ヲ爲ス場合ニ於テモ同シク適用アルモノトス然レトモ持參人ハ受取證書

ノ内容ニ從ヒ受領ノ權限アリト看做サル從テ受取證書ニ記載セラルル給付ヲ受領スル權限ヲ有シ且受取證書ニ記載セラルル日附ニ從ヒ受領ノ權限ヲ有スルニ過キササルモノトス【註一一】

【註六】 受取證書ノ持參人カ辨濟受領ノ權限アリト看做スノ規定ハ普國國法ニ於テ之ヲ認メ獨舊商法ニ於テモ又之ヲ認メ更ニ獨民法第三百七十條ニ之カ規定ヲ設ク

【註七】 Düringer-Hachenburg, H. G. B. B. 1 S. 318 Anm. 24ニ反シ Schollmeyer zu S. 370 Nr. 1, Isay, Geschäftsführung S. 232ハ此規定ニ依リテ受取證書ノ持參人ハ代理權ヲ取得スルモノトナス

【註八】 Ortmann zu § 370 1 b, Kuhlenbeck Nr. 1, Planck zu § 370, Staub, Exkurs zu H. G. B. § 58 Anm. 19,

【註九】 Biermann, Giessener Festgabe f. Darndurg S. 93, Müller-Erbach, mittelbare Stellvertretung S. 37, Ortmann zu § 370, Nr. 1 d 反シ Rosenberg, Stellvertretung im Prozess S. 543

【註一〇】 Isay, Geschäftsführung S. 232, Ortmann zu § 370 Nr. 1 c, Kuhlenbeck

Nr. 2, Zitelmann, Grundriss S. 122, Rehbain Bem. 7 zu §§ 362—371,

【註一一】 Keyssner, Festgabe f. Koch S. 139 fg, Ortmann zu § 370 Nr. 3

債權ノ準
占有者

(五) 債權ノ準占有者 債權ノ準占有者トハ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ債權ヲ行使スル者ヲ云フ(第二百五條)債權ノ準占有者モ亦一般占有ニ於ケルト同シク權利ニ伴フ場合ト然ラサル場合トアリ準占有者カ真正ノ債權者ナル場合ニ之ニ爲シタル辨濟カ有效ナルハ云フヲ俟タス之ニ反シ準占有者カ真正ノ債權者ニアラサル場合ニ之ニ辨濟ヲ爲スモ無効ナリトス然レトモ辨濟者カ善意ナル場合ニ於テモ其辨濟ヲ無効トシ更ニ再タヒ真正ノ債權者ニ辨濟ヲ爲スコトヲ要スルモノトナスハ辨濟者ニ對シ酷ナルノミナラス取引ノ安全ヲ害スル結果ヲ生スヘシ特ニ債權ノ準占有者カ真正ノ債權者ニアラサルコト明カナラサル場合ニハ債務者ハ債務ノ辨濟ヲ強制セラルルモ之ヲ拒ムコトヲ得ス故ニ法律ハ之ヲ保護シ債權ノ準占有者ニ對シテ爲シタル辨濟ヲ以テ有效ナリトス(第四百七十八條【註一二】)

債權ノ準占有者ニ對スル辨濟カ有效ナルカ爲メニハ

(一) 債權ノ準占有者ニ對シテ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス例ヘハ相續權ナキ者カ相續人ナリト稱シ相續財産ニ屬スル債權ヲ行使スル場合ノ如シ債權ノ準占有者ナリヤ否ヤハ各場合ニ之ヲ決スヘク單ニ債權證書ヲ所持スルカ爲メ直ニ債權ノ準占有者ト云フコトヲ得ス

(二) 辨濟者カ善意ナリシコトヲ要ス即辨濟者ハ準占有ノ瑕疵ヲ知ラザリシコトヲ要ス準占有者カ真正ノ債權者ニアラサルコトヲ知ラサル場合ニ於テノミ準占有者ニ對スル辨濟ハ有效ナリトス蓋辨濟者カ惡意ナル場合ニハ之ヲ保護スヘキ理由カキヲ以テナリ而シテ單ニ善意ナルヲ以テ足り過失アルモ關スル所ナシ

以上ノ要件存スル場合ニ於テハ債權ノ準占有者ニ對シテ爲シタル辨濟ハ有效ナリトス而シテ真正ノ債權者カ準占有者ニ對スル辨濟ニ因リテ何等ノ利益ヲ得ル所ナキモ其辨濟ハ有效ニシテ債權者ハ再タヒ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ス然レトモ真正ノ債權者ハ不當利得請求權ニ基キ準占有者ニ對シ其償還ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

【註一二】第四百七十八條ハ佛民法第千二百四十條ニ倣ヘルモノニシテ佛民法ノ規定ハボチエーノ所説ニ基ク此規定ハ廣キニ失シ辨濟者ヲ保護スルコト厚キニ過ク果シテ實際取引上ノ必要ニ合スルヤ否ヤ疑ナキ能ハス

(六) 以上掲ケタル以外ノ者ニ辨濟ヲ爲スモ其效力ヲ生セス然レトモ辨濟受領ノ權限ヲ有セサル者ニ爲シタル辨濟ハ債權者カ之ニ因リテ利益ヲ受ケタル限度ニ於テ有效ナリトス(第四百七十九條)本來辨濟受領ノ權限ヲ有セサル者ニ對シテ爲シタル辨濟ハ其效力ナキカ故ニ債務者ハ再タヒ辨濟ヲ爲ササルヘカラス唯其受領者ニ對シ不當利得請求權ニ基キ償還ヲ請求スルコトヲ得ルニ止マル然レトモ若シ此場合ニ債權者カ辨濟受領ノ權限ヲ有セサル者ニ對スル辨濟ニ因リテ自ラ利益ヲ受ケタルトキハ此ノ如キ煩雜ナル手續ヲ爲スコトヲ要セス債權者カ受ケタル利益ノ限度ニ於テ辨濟ノ效力ヲ認ムルヲ以テ實際ノ便宜ニ合ス故ニ法典ハ實際上ノ理由ニ基キ此規定ヲ設ケタリ債權者カ利益ヲ受ケタル原因ハ之ヲ問ハス例ヘハ債權者カ辨濟受領者ヲ

辨濟受領ノ權限ナシキ者ニ爲シタル辨濟

相續シ若クハ辨濟受領者カ債權者ヲ相續シ又ハ辨濟ヲ受領セル者カ其受領セル給付ヲ債權者ニ引渡シ其給付カ偶然債權者ニ歸屬セル場合ノ如シ【註一三】

【註一三】本規定ハ佛民法第千二百三十九條第二項ニ倣ヘルモノナリ獨普通法ニ於テモ辨濟受領ノ權限ナキ者ニ爲ス辨濟カ有效ナル場合ヲ認メ(Windscheid § 342 Anm. 6)又獨民法モ第二百六十二條第二項ニ於テ受領ノ權利ナキ者ニ對スル辨濟カ效力ヲ生スル場合ヲ認ム

【註一四】第四百七十八條ハ辨濟受領ノ權限ヲ有セサル者ニ對スル給付ヲ以テ辨濟ナリトナシ之ニ因リテ債權者カ利益ヲ受ケタル範圍ニ於テハ債權消滅ノ效力ヲ有スルモノトナスト雖モ辨濟受領ノ權限ナキ者ニ對シテ辨濟ヲ爲スコトヲ得ルモノトナスヲ得ス從テ此場合ニ債權消滅ノ效力ヲ生スル所以ハ辨濟アリタルカ爲メニアラス第三者ノ給付受領ニ因リテ債權者カ利益ヲ受ケ其目的ヲ達スルカ爲メナリトナササルヘカラス

第四款 辨濟ノ物體

辨濟ノ物體

辨濟ノ物體トハ債務者カ辨濟スヘキ物體ヲ云フモノニシテ給付ノ物體ノ謂ヒニ外ナラス從テ辨濟ノ物體ハ各債權關係ニ依リテ定マル

債務者ハ債務ノ本旨ニ從ヒテ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス(三七頁以下參照)而シテ債務者カ辨濟スヘキ物體カ債務ノ本旨ニ從フモノナリヤ否ヤハ各場合ニ當事者ノ意思ヲ解釋シテ之ヲ定ムヘク法典ハ特ニ之ニ關スル一般的规定ヲ設クル所ナシ唯債權ノ物體カ特定物ノ引渡ナル場合ニ關シ規定ヲ設ケ辨濟者ハ其引渡ヲ爲スヘキ時ノ現狀ニ於テ其物ヲ引渡スコトヲ要スルモノトナス(第四百八十三條【註】)是レ債務ノ本旨ニ從ヒテ辨濟ヲ爲スコトヲ要スル原則ヨリ生スル當然ノ結果ナリ引渡ヲ爲スヘキ時トハ履行期ヲ云フ辨濟者ハ履行期ニ於ケル現狀ニ於テ引渡スコトヲ要スルカ故ニ債權發生ノ時ニ於ケル現狀ニ於テ引渡スコトヲ要セス債權ノ物體カ特定物ノ引渡ナル場合ニハ債務者ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ物體ヲ保存スルコトヲ要スルカ故

ニ(第四百條債務者カ注意義務ヲ盡セル以上ハ物體カ不利益ナル變化ヲ生スルモ債務者ハ之ニ對シテ其責ニ任スルコトヲ要セス其不利益ヲ受ケタル現狀ニ於テ引渡スコトヲ以テ足ル之ニ反シ物體カ利益アル變化ヲ生シタルトキハ債務者ハ利益的變化ヲ生シタル現狀ニ於テ物體ヲ引渡スコトヲ要ス債務者カ遲滯ニ在ル場合ニハ債務者ハ遲滯ノ效果トシテ事變ニ對シテモ其責ニ任スルコトヲ要スルカ故ニ事變ニ因リテ物體ニ不利益的變化ヲ生シタル場合ニハ債務者ハ之ニ對シ其責ニ任スルコトヲ要ス(五〇二、五〇三頁參照)之ニ反シ履行期後ニ於ケル利益的變化ハ債權者ノ利益ニ歸ス蓋履行期ニ債權者ニ物體ヲ引渡シタルトキハ債權者ハ同一ノ利益ヲ得タルヘキカ故ナリ

【註一】第四百八十三條ノ規定ハ佛民法第千二百四十五條ニ基ク

第五款 辨濟ノ費用

辨濟ノ費用

辨濟ノ費用トハ辨濟ヲ爲スニ必要ナル費用ヲ云フ例ハ運送費、荷造費、測量費、爲替料、關稅等ノ如シ何人カ辨濟ノ費用ヲ負擔スヘキヤハ先ツ當事者ノ

意思ヲ解釋シテ之ヲ定ムヘシ若シ當事者ノ意思ニ依リテ之ヲ定ムルコトヲ得サルトキハ債務者之ヲ負擔スヘキモノトス(第四百八十五條)蓋辨濟ハ債務者ノ行爲ニ依リテ爲サルモノナルカ故ニ債務者カ之ヲ負擔スヘキモノトナササルヘカラス特ニ我法典ハ持參債務主義ヲ取り債務者ハ債權者ノ住所ニ到リ辨濟ヲ爲スヘキモノトナスカ故ニ債務者自ラ辨濟ノ費用ヲ負擔スヘキモノトナスコトヲ要ス然レトモ債權者カ住所ノ移轉其他ノ行爲ニ因リテ辨濟ノ費用ヲ増加シタルトキハ其増加額ハ債權者之ヲ負擔ス(同條但書)即債務者ハ債權發生當時ニ於ケル債權者ノ住所ニ於テ辨濟ヲ爲スカ爲メニ要スル費用ヲ負擔スルニ止マル債權者カ後ニ至リ住所ヲ移轉シ之カ爲メニ辨濟ノ費用ヲ増加シタルトキハ債權者之ヲ負擔スヘキモノトス蓋債務者ハ債權發生當時ニ於ケル債權者ノ住所ニ於テ辨濟ヲ爲スノ費用ノミヲ負擔スヘキモノトナスヲ以テ當事者ノ意思ニ合スルカ故ナリ其他債權者ノ行爲ニ因リテ辨濟ノ費用ヲ増加シタル場合ニ於テモ(例ヘハ履行ノ場所以外ニ運送スヘキコトヲ依頼シ特別ノ荷造ノ方法ヲ依頼シタル場合ノ如シ)債權者ハ其

増加額ヲ負擔スヘキモノトス

【註一】第四百八十五條ノ規定モ亦佛民法第千二百四十八條ニ倣ヘルモノナリ

第六款 辨濟ノ證明

第一項 受取證書ノ交付

受取證書ノ性質

一 受取證書ノ性質 受取證書ノ性質ニ關シテハ學說種種ニ岐ル其重ナルモノニアリ

(一) 證據方法說(Beweismitteltheori) 是レ古クヨリ認メラレタル說ニシテ今日ニ於テモ通說タリ此說ハ受取證書ヲ以テ單純ナル證據方法トナスモノニシテ之ニ依リ辨濟ノ事實ヲ證明スルニ過キササルモノトナス從テ債權者カ受取證書ヲ交付スル行爲ハ觀念表示(Wissenserklärung)ニシテ意思表示ニアラス即債權ヲ處分スルカ如キ行爲ヲ含ムコトナシ而シテ受取證書ハ辨濟ニ關スル證據方法タルニ過キササルカ故ニ債權者ハ更ニ他ノ有力ナル證據方法ヲ

以テ受取證書ノ效力ヲ奪フコトヲ得ヘク又裁判官ハ自由ナル裁量ニ依リ受取證書ノ證據力ヲ定ムルコトヲ得ルモノトス【註一】

(二) 承認契約説 (Anerkennungsvertragstheorie) 此説ニ從ヘハ受取證書ノ授受ニ因リテ債務ノ不存在ヲ承認スル契約成立スルモノトナス即無因ナル消極的承認契約成立スルモノトナス從テ債務ハ辨濟ニ依リテ消滅スルニアラスシテ受取證書ノ授受ニ依リテ成立スル契約ニ因リテ消滅ス換言スレハ受取證書ノ授受ニ因リテ債務ヲ消滅セシムル處分契約成立スルモノトス而シテ此處分契約ハ無因契約ナルカ故ニ實際辨濟アリタルト否トヲ問ハス處分契約ノミニ依リテ債務ハ消滅スルモノトス【註二】

(三) 證據契約説 (Beweisvertragstheorie) 此説ニ從ヘハ受取證書ノ授受ニ依リテ證據契約成立スルモノトナス即債權者カ債務者ニ對シ債權カ辨濟ニ因リテ消滅セルコトヲ爭ハサル旨ヲ約スルモノトナス從テ此説ハ債權ノ消滅ニ關スル問題ト證據ニ關スル問題トヲ分離シ後者ノミヲ以テ契約ノ内容トナス證據契約ノ結果トシテ將來債權者カ債務者ニ對シ履行ヲ請求スル場合

ニハ債務者ハ辨濟ヲ爲シタルヲ證明スルコトヲ要セス證據契約即受取證書ノ授受ニ基キ其證明ノ義務ヲ免レタルコトヲ主張スルコトヲ得ルモノトス

【註三】【註四】

以上諸説ノ中第一説トシテ述ヘタル證據方法説ヲ以テ正當トス蓋受取證書ヲ以テ辨濟ノ證據方法トナスハ通常當事者ノ意思ニ合シ取引ノ實際ニ適スルノミナラス第四百八十六條ノ解釋ヨリ云フモ當ヲ得タルモノナルカ故ナリ

第二説ハ當事者ノ意思ニ合セス蓋當事者ハ通常ノ場合ニ於テハ受取證書ノ授受ニ依リ債務ノ不存在ヲ承認スルノ效力ヲ附スル意思ヲ有スルモノニアラサルカ故ナリ又取引ノ實際ニ於テモ受取證書ハ單ニ證據方法トシテ之ヲ見ルニ過キス第二説ニ從フトキハ受取證書ノ授受ヲ以テ處分行爲トナスカ故ニ債權者カ反對ノ證明ヲ爲スモ受取證書ノ效力ヲ破ルコトヲ得サルノ結果トナル是レ實際取引上ノ觀念ニ合スルモノト云フヲ得ス且此説ハ辨濟者カ辨濟受領者ニ對シテ受取證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得ル旨ヲ定ムル

第四百八十六條ノ規定ト一致セス假ニ第二說ニ從ヒ受取證書ノ授受ニ依リ承認契約カ成立スルモノトナスモ此見解ハ單ニ債務者自ラ直接ニ債權者ニ對シ辨濟ヲ爲ス場合ニノミ適用スルコトヲ得ルニ止マル蓋債權者債務者間ニ在リテハ債務不存在ノ承認契約ヲ締結スルコトヲ得ヘシト雖モ債權者ト債務者以外ノ辨濟者辨濟受領者間ニ於テ承認契約ヲ締結スルコトヲ得ルモノトナスヲ得サルカ故ナリ且又辨濟者カ辨濟受領者ニ對シ自己ノ權利トシテ請求スルコトヲ得ヘキモノハ證據方法ナラサルヘカラス債務不存在ヲ承認スル契約ノ締結ヲ請求スル權利アリト爲スコトヲ得ス更ニ受取證書ハ辨濟アリタル後ニ於テモ辨濟者ハ其交付ヲ請求スルコトヲ得債權消滅後ニ在リテハ債權ノ處分ハ存シ得ヘカラサルカ故ニ若シ第二說ニ從ヒ受取證書ノ授受ヲ以テ債權ノ處分契約トナストキハ辨濟後ニ於ケル受取證書ノ交付ハ認ムルコトヲ得サル結果トナルヘシ固ヨリ受取證書ノ形式ニ依リテ消極的債務承認契約若クハ免除契約カ成立スルコトアルヘシ然レトモ受取證書ノ授受其モノニ依リテ此等ノ契約カ成立スルモノトナスヲ得ス承認免除等ハ

受取證書ノ形式ノ下ニ存スル他ノ契約ニ基キテ生セルモノトナササルヘカラス從テ此ノ如キ契約ヲ認ムルカ爲メニハ特ニ當事者ノ意思表示アルコトヲ要ス

第三說ノ證據契約說モ亦第二說ト同シク當事者ノ意思ニ合セス蓋當事者カ受取證書ヲ授受スル場合ニ債務ノ不存在其モノニ關スル所ナク單ニ債務不存在ノ證據ニ關スル契約ヲ締結スルコトハアリ得ヘカラス且當事者ハ受取證書ヲ以テ債務不存在ヲ證明スル方法ニ供スル意思ヲ有スヘシト雖モ受取證書ノ授受ニ依リ債務ノ不存在カ證明セラレ之ヲ爭ハサル義務ヲ負フノ意思ヲ有スルコトハ之ヲ認ムルコトヲ得ス更ニ證據契約カ訴訟法上有效ニ成立スルコトヲ得ルヤ否ヤ爭アル所ニシテ當事者カ證據ニ關シ契約ヲ爲スコトヲ得サルモノトナスハ今日ノ通説タリ故ニ此點ヨリ論スルモ受取證書ノ授受ニ依リ證據契約成立ストナスハ非ナリ〔註五〕

以上述フル所ニ依リ第一說ヲ以テ當ヲ得タルモノトナササルヘカラス唯稍疑問トナルハ債權者カ辨濟ヲ受領スル以前ニ債務者ニ交付セル受取證書

ノ性質ナリトス債權者ハ未タ辨濟ヲ受領セサルモ將來之ヲ受領スヘキコトヲ豫期シテ受取證書ヲ交付スルコト稀ナリトセス第二説ヲ唱フル學者ハ曰ク若シ受取證書ノ交付ヲ以テ單ニ證據方法ヲ供セルモノトナシ法律行爲トナササルトキハ豫メ交付セラレタル受取證書ハ何等價值ナキ結果トナル蓋此場合ニハ未タ辨濟ナシトノ反證ニ依リ受取證書ハ容易ニ其效力ヲ奪ハルルカ故ナリト然レトモ辨濟以前ニ豫メ受取證書ヲ交付シタル場合ニ在リテモ尙證據方法タル性質ヲ失フモノニアラス反對ノ證明アルマテハ受取證書ハ尙辨濟ノ證據タル效力ヲ有ス唯此場合ニ其證據力ヲ奪フカ爲メニハ受取證書ノ交付ノ時期マテニ辨濟ナカリシコトヲ證明スルヲ以テ足レリトセス後ニ至リテモ辨濟ナカリシコトヲ證明スルコトヲ要ス此ノ如ク受取證書ノ證據力ヲ擴張スルハ辨濟者カ豫メ受取證書ヲ交付セル意思ニ合ス之カ爲メニ受取證書ヲ以テ證據方法ニアラストナスコトヲ得ス

【註一】普國國法(第一部第十六章第八十六條)奧國民法(第一千四百二十六條)等ハ受取證書カ辨濟ノ證據方法タルコトヲ定ム學說ニ於テハ Puchta, Pandekten § 287, Vangerow, Leitfaden I. S. 194, Erlow, Gegenstandsrecht S. 185 fg, Beckb, Beweislast S. 221 fg, Breit, Geschäftsfähigkeit S. 203, Cosack § 102 VIII 2, Cromme S. 239 fg, Kipp zu Windscheid S. 833, Dernburg § 115 III, Ortmann zu § 363 Nr. 6, Kuhlenbeck Nr. 3, Schullmeyer Vorbem. zu § 368, Vonschoth, Gruchots Beiträge B. 49 S. 22 fg

【註二】此説ハ Bähr, Anerkennung als Verpflichtungsgrund S. 255 fg ノ提唱スル所ニシテ Dernburg, Pandekten § 54, Brinz, Pandekten II S. 291, Endermann § 141 S. 798, Collatz, Jahrb. f. Dogm. B. 40 S. 127, Dillo, Quittung S. 8 fg 等々ニ從フ

【註三】Brunn, Zeitschr. f. Rechtsgeschichte B. 1 S. 94 fg, Planck zu § 368 Nr. 5 e, Laemann, Arch. f. B. R. B. 31 S. 58 fg

【註四】以上三説ノ外受取證書ハ場合ニ依リ種種ノ性質ヲ有スルトナス折衷説アリ此説ニ從ヘハ受取證書ハ或ハ證據方法タルコトアリ或ハ免除契約若クハ債務不存在ノ承認ヲ含ムコトアリ場合ニ依リテ異ナルモノトナヌ (Windscheid § 412 b, Arndtz, Pandekten § 267) 其他 Exner, Grünhuts Zeits.

B. 22 S. 670 fg. 受取證書ハ場合ニ依リ免除辨濟ノ表示受領ノ確認ノ三箇ノ性質中其一ヲ有スルモノトナシ Bekker, Pandekten § 109 ハ受取證書ハ五箇ノ性質ヲ有スルモノトナス

【註H】 Wach, Arch.f. civilist. Prax. B. 64 S. 216, Bulow, Geständnisrecht

受取證書
交付ノ義務

二 受取證書交付ノ義務 辨濟受領者ハ辨濟者ニ對シテ受取證書ヲ交付スヘキ義務ヲ負フ(第四百八十六條)蓋債務ノ辨濟アリタリヤ否ヤハ辨濟者其責ニ任ス故ニ若シ債權者カ惡意若クハ錯誤ノ爲メ二重ニ辨濟ヲ請求スル場合ニ辨濟者カ其證明ヲ爲スコト能ハサルトキハ再タヒ辨濟ヲ爲ササルヘカラサルニ至ルヘシ固ヨリ辨濟者ハ辨濟ヲ爲スト共ニ債權證書ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ルカ故ニ(第四百八十七條)債權者ハ債權ノ存在ヲ證明スルコトヲ得サル結果トナルヘシト雖モ債權證書ハ或ハ之ヲ紛失スルコトアルヘク又縱令辨濟者カ債權證書ヲ有スルモ或ハ詐欺強迫ニ因リテ之ヲ得タルモノトナシ債權者ハ其他ノ方法ヲ以テ債務ノ辨濟ナキコトヲ證明スル場合ナシトセス且債權證書ハ債務ノ全部ノ辨濟アリタル場合ニアラサレハ之ヲ返

還スルコトヲ要セス故ニ辨濟者ハ辨濟受領者ニ對シ受取證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得ルモノトセリ【註六】而シテ債務者カ辨濟セル場合タルト第三者カ辨濟セル場合タルト問ハス辨濟受領者ハ受取證書ヲ交付スヘキ義務ヲ負フ又全部ヲ辨濟セル場合タルト一部ヲ辨濟セル場合タルト問フ所ナシ又金錢債務ノ辨濟ノミナラス凡テノ債務ノ辨濟ノ場合ニ受取證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得更ニ即時ニ現金ノ支拂ヲ爲ス場合ニ於テモ受取證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

辨濟者ハ辨濟受領者ニ對シ給付ト引換ニ受取證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得蓋辨濟ヲ爲シタル後ニアラサレハ其交付ヲ請求スルコトヲ得サルモノトナストキハ辨濟者カ辨濟ヲ爲シタル後債權者カ再タヒ履行ヲ請求スル場合ニ辨濟者ハ辨濟ヲ爲シタルコトヲ證明スルコトヲ得ス其請求ニ應スルノ已ムヲ得サルコトアルヘキカ故ナリ故ニ第五百三十三條ヲ準用シ辨濟者ハ給付ト引換ニ受取證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得ルモノト解スヘシ【註七】尙辨濟者ハ辨濟後ニ於テモ尙辨濟受領者ニ對シ訴ニ依リ受取證書ノ交付ヲ請

求スルコトヲ得ヘシ

【註六】辨濟受領者ノ受取證書交付ノ義務ハ獨普通法 Windscheid § 344 Anm
② 普國國法第一部第十六章第八十六條、第一百一條、奧民法第千四百二十六
條、佛民法第千二百五十條、第千二百五十五條、第千二百五十六條、獨民法第
三百六十八條、瑞債務法第八十八條等一般立法ノ認ムル所ナリ

【註七】我法典ハ契約不履行ノ抗辯(第五百三十三條)ヲ認ムルニ止マリ獨
民法第二百七十三條ニ於ケルカ如ク廣ク留置權トシテ規定スル所ナシ
給付義務ト受取證書交付義務トハ雙務契約ヨリ生セルモノニアラサル
カ故ニ直ニ第五百三十三條ヲ適用スルコトヲ得ス然レトモ此場合ニ於
テモ辨濟者ハ受取證書ノ交付ト引換ニ給付ヲ爲スヲ以テ足ルトナスニ
アラサレハ受取證書交付ノ請求權ヲ認メタル目的ヲ達スルコトヲ得サ
ルニ至ルヘシ故ニ第五百三十三條ヲ準用スルコトヲ得ルモノト解スヘ
シ

三 受取證書ノ形式及ヒ内容 受取證書ノ形式ニ關シテハ法律ノ規定

受取證書
ノ形式及
ヒ内容

ヲ缺クカ故ニ慣習若クハ當事者ノ意思ニ從ヒ受取證書トシテ認メ得ルヲ以
テ足ル必スシモ辨濟受領者自ラ署名セルコトヲ要セス又其用紙ハ獨立ノ書
面タルト債權證書ニ之ヲ記載スルト帳簿ニ記入スルト間フ所ナシ又私署證
書若クハ公正證書ヲ以テスルコトヲ得辨濟者カ公正證書ヲ以テスヘキコト
ヲ請求シタルトキハ辨濟受領者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

受取證書ニ記載スヘキ事項ハ當事者ノ定ムル所ニ依ル然レトモ辨濟受領
ノ事實ヲ證明スルニ必要ナル事項ヲ記載スルコトヲ要ス例ヘハ辨濟セル金
額、債權者、債務者ノ氏名、受領ノ年月日等ノ如シ受取證書ニ記載セル事項中ニ
矛盾アル場合ニハ裁判所ハ其裁量ニ從ヒ何レノ記載カ確實ナルヤヲ定ムヘ
シ之カ爲メニ直ニ受取證書ヲ無効ナリトナスヘカラス

四 受取證書作成ノ費用 受取證書ノ作成ニ要スル費用例ヘハ用紙、印
紙稅、公證費用等ハ何人カ之ヲ負擔スヘキヤニ關シ從來ノ學說及ヒ立法ハ種
種ニ岐ル【註八】或ハ受取證書ノ交付ハ債權者ノ義務ナルカ故ニ其費用モ亦債
權者之ヲ負擔セサルヘカラストナシ或ハ債務者カ自己ノ利益ノ爲メ債權者

受取證書
作成ノ費
用

ニ對シ受取證書ノ交付ヲ請求スルモノナルカ故ニ債務者之ヲ負擔スヘシト
ナス我法典ハ之ニ關シ直接ノ規定ヲ缺ク然レトモ受取證書ノ交付ハ辨濟受
領者ノ義務ナルカ故ニ其作成ノ費用モ亦負擔スルモノトナササルヘカラス
又我國一般ノ慣習モ亦債權者カ之ヲ負擔スルモノトス

【註八】 普埃等ノ立法ハ受取證書作成ノ費用ノ負擔ニ關スル規定ヲ缺ク
索遜民法バイエルン民法草案ニ於テハ之カ規定ヲ設ク獨民法第三百六
十九條ハ債務者之ヲ負擔スヘキモノトナス尙學說ニ關シテハ Reinhold,
Quittungskosten und Quittungspflicht S. 5 fg 參照

佛法ノ通說ハ受取證書作成ノ費用ヲ以テ債務辨濟ノ費用トナシ第千
二百四十八條(我民法第四百八十五條ニ該當ス)ニ從ヒテ債務者カ之ヲ負
擔スヘキモノトナス(Baudry-Lacantinerie et Barde t. 13 N. 1512)

第二項 債權證書ノ返還

一 債權證書ノ性質 債權證書トハ債權ノ成立ヲ證明スル書面ヲ云フ

債權證書
ノ性質

債權ノ成立ハ他ノ方法ニ依リテ之ヲ證明スルコトヲ得ヘシト雖モ債權證書
ハ最モ有力ナル證據方法ナルカ故ニ其成立ト同時ニ債務者ハ債權者ニ債權
證書ヲ交付スルヲ通常トス然レトモ債權證書ハ必スシモ獨立ノ書面タルヲ
要セス例ヘハ消費貸借ヲ成立セシムルカ爲メ金錢若クハ他ノ物品ノ受領ヲ
證明スル書面ナルモ同時ニ債權ノ成立ヲ證明スルニ足ルモノナルトキハ債
權證書タルヲ得ヘシ又債權證書カ同時ニ設權證券ナル場合ニ於テモ債權證
書タル性質ヲ失フモノニアラス從テ尙債權證書トシテ第四百八十七條ノ適
用アルモノト解スヘシ

二 債權證書返還ノ義務 債權證書ハ債權ノ成立ヲ證明スルモノナル
カ故ニ既ニ債權カ辨濟ニ因リテ消滅セル以上ハ債權證書ハ債權者ニ不用ナ
ルノミナラス或ハ債權者ハ其手ニ在ル債權證書ヲ利用シ再タヒ辨濟ヲ請求
スルノ危險ナシトセス故ニ辨濟者ハ債權證書ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ル
モノトス固ヨリ辨濟者ハ辨濟ノ證明ノ爲メ受取證書ノ交付ヲ請求スルコト
ヲ得ト雖モ受取證書ノミニテハ或ハ之ヲ紛失シ辨濟ノ事實ヲ證明スルコト

債權證書
返還ノ義務

能ハサル場合ナシトセス故ニ法律ハ受取證書交付ノ請求ト共ニ債權證書返還ノ請求ヲ認メタリ(第四百八十七條)〔註二〕債權證書返還請求權ノ根據ニ關シテハ學說岐ルト雖モ法律ノ規定ニ基クモノト解スルヲ正當トス即特ニ第四百八十七條ノ規定アルカ爲メニ辨濟者ハ債權證書返還ノ請求權ヲ有スルモノトス〔註三〕蓋契約成立ノ當時債務者カ債權者ニ債權證書ヲ交付スルニ依リテ證書ノ所有權ハ債權者ニ歸スルモノニシテ債權カ辨濟セラレルモ尙依然トシテ債權者ハ債權證書ノ所有權ヲ有ス辨濟者カ辨濟ヲ爲シタルカ爲メ當然證書ノ所有權ヲ取得スルコトナシ從テ辨濟者ハ所有權ニ基キ其占有回復ヲ請求スルコトヲ得ルモノトナスヲ得ス故ニ債權證書返還請求權ハ法律ノ特別ノ規定ニ基クモノトナササルヘカラス或ハ債權證書ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ルハ不當利得請求權ナリトシ債權ノ辨濟ニ因リテ債權證書ヲ交付シタル原因ナキニ至ルカ故ニ債務者ハ其債權證書ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ルモノトナス說アリ〔註三〕然レトモ債權證書ハ有價證券ニアラサルカ故ニ證書其モノハ價格ヲ有セス從テ債權者カ債權證書ヲ有スルモ債務者ノ損失

ニ於テ利得セルモノトナスコトヲ得ス且不當利得請求權ナリトセハ債務者ニ證書返還請求權ヲ認ムルコトヲ要ス然ルニ第四百八十七條ノ規定ニ依レハ第三者ト雖モ辨濟ヲ爲シタルトキハ債權證書ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ルモノトナスカ故ニ返還請求權ヲ以テ不當利得ニ基クモノトナスコトヲ得ス更ニ此說ニ從フトキハ債務者ハ債權者ノミニ對シ債權證書ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ルニ止マリ第三者カ其證書ヲ取得スルモ其返還ヲ請求スルコトヲ得サル結果トナルヘシ〔註四〕

債權證書ハ債務者カ辨濟ヲ爲セル場合ノミナラス第三者カ辨濟ヲ爲セル場合ニ於テモ其返還ヲ請求スルコトヲ得又債權者ニ辨濟ヲ爲ス場合ノミナラス其他ノ辨濟受領ノ權限ヲ有スル者ニ辨濟ヲ爲ス場合ニ於テモ其返還ヲ請求スルコトヲ得又第三者カ債權證書ヲ占有スル場合ニハ其者ニ對シ證書ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ヘシ蓋法典ハ返還義務者ニ關シ制限スル所ナキカ故ニ債權者ノミニ限ルコトヲ要セス且債權證書ノ返還ノ請求ヲ認ムルハ辨濟ノ證明ノ爲メナルカ故ニ債權證書ヲ有スル者ニ對シテハ其何人タルヲ

問ハス其返還ヲ請求スルコトヲ得ルモノトナササルヘカラス【註五】

債權證書ハ受取證書ト異ナリ債權ノ全部ヲ辨濟スルニアラサレハ其返還ヲ請求スルコトヲ得ス蓋一部辨濟アリタルニ過キサレバ場合ニハ債權者ハ尙債權證書ヲ必要トスルカ故ナリ從テ一部辨濟ノ場合ニハ受取證書ノ交付ノミヲ請求スルノ外ナシ而シテ全部辨濟ノ場合ニハ受取證書交付ノ場合ト同シク第五百三十三條ヲ準用シ辨濟者ハ債權證書ノ返還ト引換ニ給付ヲ爲スヲ以テ足ル債權證書ノ返還ナキ間ハ辨濟ヲ拒ムコトヲ得又辨濟者ハ辨濟後ニ至リ訴ヲ以テ債權證書ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ルハ云フヲ俟タス

法典ハ單ニ辨濟ノ場合ノミニ付キ債權證書返還ノ義務ヲ規定スト雖モ其他ノ原因例ヘハ代物辨濟相殺更改免除其他契約ノ無効取消解除給付不能等ノ原因ニ基キ債權カ消滅セル場合ニ於テモ債務者ハ債權證書ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ルモノト解スヘシ

【註一】債權證書返還義務モ亦普國國法第一部第十六章第二百五條、第二百二十六條以下、埃民法第四百二十八條、獨民法第三百七十一條、瑞債務

法第八十八條等ノ認ムル所ナリ

【註二】 Hedemann, Jahrb.f. Dogm. B. 48 S. 65 fg, Reichel, Schuldmitübernahme S. 4

78

【註三】 Örtmann zu § 371 Nr. 3

【註四】 Hedemann a. a. O. S. 67

【註五】 Hedemann a. a. O. S. 70 fg, Enneccerus S. 173

第七款 辨濟ノ充當

第一項 辨濟ノ充當ノ意義

債務者カ同一債權者ニ對シ同種ノ物體ヲ有スル數箇ノ債務ヲ負擔シ又ハ一箇ノ債務ノ辨濟トシテ數箇ノ給付ヲ爲スヘキ場合ニ於テ辨濟トシテ提供セラレタル給付カ全債務ヲ消滅セシムルニ足ラサルトキハ其給付ヲ以テ何レノ債務ニ充當スヘキヤヲ定ムルコトヲ要ス(第四百八十八條、第四百九十條)若シ此場合ニ辨濟ヲ充當スヘキ債務ヲ定ムルコト能ハサルトキハ辨濟ハ有

辨濟ノ充當ノ意義

效ニ成立スルコトヲ得サル結果トナルヘシ而シテ債務中或ハ利息附ノモノト然ラサルモノト、期限附ノモノト然ラサルモノト、擔保附ノモノト然ラサルモノトアル場合ニ於テハ辨濟者ノ提供セル給付ヲ以テ何レノ債務ノ辨濟ニ充當スヘキヤハ當事者ノ利害ニ重大ナル關係ヲ有ス是レ法典ニ辨濟ノ充當ニ關スル規定アル所以ナリ【註一】

辨濟充當 (Verrechnung von Zahlungen, imputation des paiements)ノ問題ヲ生スルニハ左ノ條件存スル場合ナルコトヲ要ス

(一) 債務者カ同一債權者ニ對シテ數箇ノ債務ヲ負擔スルコトヲ要ス即同一ノ債權者債權者間ニ獨立ノ原因ニ基キテ生セル數箇ノ債權存スルコトヲ要ス其債權ハ當初ヨリ債權者債務者間ニ生セルモノタルト又ハ後ニ至リ他人ヨリ讓受ケタルトハ關スル所ナシ又一箇ノ包括的債權關係ヨリ數箇ノ獨立セル債權ヲ生セル場合ニ於テモ亦同シ例ヘハ數箇ノ貸金債權ノ辨濟カ延滞スル場合ノ如シ而シテ凡テノ債權ハ必スシモ辨濟期ニ在ルコトヲ要セス債務者カ利益ヲ拋棄シテ辨濟期前ニ辨濟ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ足ル

(二) 數箇ノ債務ノ物體カ同種ナルコトヲ要ス即各給付ノ性質カ同一ナルコトヲ要ス各債權ノ給付カ性質ヲ異ニスルトキハ給付其モノニ依リテ何レノ債務ニ對シ辨濟ヲ爲セルヤヲ定ムルコトヲ得ルカ故ニ辨濟充當ノ問題ヲ生セス從テ充當ノ問題ヲ生スルニハ各債權ノ物體カ同種ナルコトヲ要ス然レトモ必スシモ金錢其他代替物ノ給付ヲ物體トスル場合ノミニ限ラス不代替物又ハ行爲ヲ物體トスル場合ト雖モ同種タル以上ハ同シク辨濟充當ノ問題ヲ生ス例ヘハ債務者カ二箇ノ各別ノ契約ニ於テ特定セス單ニ馬一頭ヲ給付スヘキコトヲ約シ書工カ二箇ノ各別ノ契約ニ於テ一幅ノ畫ヲ描クヘキコトヲ約スルカ如シ

(三) 辨濟トシテ提供セラレタル給付カ全債務ヲ辨濟スルニ足ラサルコトヲ要ス提供セラレタル給付カ全債務ヲ辨濟スルニ足ルトキハ全債務カ消滅スルカ故ニ辨濟充當ノ問題ヲ生セス全債務ヲ辨濟スルニ足ラサル場合ニ於テノミ辨濟ノ充當ノ問題ヲ生ス且給付ハ必スシモ數箇ノ債務中其一箇ノ債務ノ額ヲ超過スルコトヲ要セス一箇ノ債務ノ額ニ充タサル場合ニ於テモ充

當ニ關スル規定ノ適用アリ

以上述ヘタル條件存スル場合ニハ辨濟者ノ提供シタル給付ヲ以テ何レノ債務ノ辨濟ニ充當スヘキヤノ問題ヲ定ムル必要ヲ生ス

一箇ノ債務ノ辨濟トシテ數箇ノ給付ヲ爲ス場合ニ於テモ若シ辨濟トシテ提供セラレタル給付カ其債務ノ全部ヲ消滅セシムルニ足ラサルトキハ又同シク辨濟充當ノ問題ヲ生ス例ヘハ一箇ノ債務ヲ分割シテ數回ニ辨濟スル場合ノ如シ此場合ニハ數箇ノ債務存スル場合ニ於ケル辨濟充當ニ關スル規定ヲ準用スヘキモノトス(第四百九十條)

【註一】辨濟ノ充當ニ關スル規定ハ從來各國立法ノ認ムル所ナリ獨普通法(Windscheid § 343)普國國法第一部第十六章第五百十條、第五百十一條、埃民法第一千四百十五條、第一千四百十六條、佛民法第一千二百五十三條、獨民法第三百六十六條、第三百六十七條、瑞債務法第八十五條以下

第二項 辨濟充當ノ方法

辨濟充當ノ方法

辨濟ノ充當ハ先ツ辨濟者、辨濟受領者ノ契約ニ依リテ之ヲ定ムヘク當事者ノ契約ナキ場合ニハ法律ノ規定ニ依ル而シテ法律ハ先ツ間接ニ辨濟ヲ充當スルノ方法ヲ定メ當事者ノ一方ニ指定權ヲ與ヘ以テ其充當ヲ指定セシムルモノトナシ之ニ依リ充當スルコト能ハサル場合ニ法律ハ直接ニ充當ノ順位ヲ定ム以下此三箇ノ充當方法ニ付キ説明スヘシ

契約上ノ充當

(一) 契約上ノ充當 辨濟者、辨濟受領者ハ契約ニ依リ辨濟ヲ充當スヘキ債務ヲ定ムルコトヲ得蓋第四百八十八條以下ノ規定ハ任意規定タルニ過キサルヲ以テナリ然レトモ當事者ノ契約ハ給付ノ時マテニ爲サルコトヲ要ス蓋給付アリタルトキハ第四百八十九條ノ適用ニ依リテ辨濟ハ充當セラレ當事者カ契約ニ依リテ充當ヲ定ムル餘地ナキニ至ルカ故ナリ

當事者ノ契約ハ直接ニ辨濟ヲ充當スル效力ヲ生ス從テ當事者ハ其契約ノ定ムル所ニ從ヒテ充當スヘキ義務ヲ負フニ止マラス辨濟者ノ給付ハ契約ノ定ムル所ニ從ヒ當然ニ充當セラレルモノトス辨濟者ハ給付ヲ爲スニ際シ辨濟充當ノ契約ニ違反シ單獨ニテ充當スヘキ債務ヲ指定スルモ其效力ヲ生セ

ス蓋辨濟充當ノ契約ニ依リテ第四百八十八條ニ規定スル辨濟者ノ指定權ハ消滅スルカ故ナリ故ニ債權者ハ其提供ヲ拒ムモ受領遲滯ノ責ニ任スルコトナシ【註一】

充當ノ指定

(二) 充當ノ指定 當事者カ契約ヲ以テ辨濟ノ充當ヲ定メサル場合ニハ法律ハ當事者ノ一方ニ指定權ヲ認メ之ニ依リテ充當ヲ指定セシム指定權ヲ有スル者ハ左ノ如シ

(一) 辨濟者 辨濟者ハ第一ニ辨濟ノ充當ヲ指定スルノ權利ヲ有ス指定權カ何人ニ屬スルヤハ從來各國立法ニ依リ異ナル【註二】我法典ハ一般ノ立法ニ從ヒ辨濟者カ第一ノ指定權ヲ有スルモノトス(第四百八十八條第一項)蓋辨濟ハ辨濟者ノ行爲ナルカ故ニ辨濟者先ツ指定ノ權利ヲ有スルモノトナササルヘカラス辨濟者ハ債務者タルト第三者タルト問ハス指定權ハ形成權ノ一種ニシテ辨濟受領者ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ行使スルコトヲ要ス指定ノ意思表示ハ明示又ハ默示タルコトヲ得指定ハ一旦之ヲ爲シタル後ハ之ヲ撤回スルコトヲ得ス然レトモ指定ハ給付ト同時ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

給付以前ニ在リテハ未タ辨濟充當ノ問題ヲ生セサルカ故ニ指定ヲ爲スコトヲ得ス又辨濟者カ給付ヲ爲シタル後ニ在リテモ亦指定ヲ爲スコトヲ得ス蓋給付ノ時ニ指定ヲ爲サス且辨濟受領者カ其受領ノ時ニ指定ヲ爲ササルトキハ第四百八十九條ニ依リテ辨濟ハ充當セラレ指定ヲ爲スコトヲ得ヘキ餘地ナキニ至ル且給付後ニ於テ何レノ債務ニ充當スヘキヤ確定セス尙辨濟者カ自由ニ確定スルコトヲ得ルモノトナストキハ債權者ニ不利益ヲ與フルコト尠ナカラサルカ故ナリ辨濟者ハ給付ノ時ニ指定ヲ爲スコトヲ要スルカ故ニ給付ヲ爲スニ當リ一定ノ期間内ニ指定ヲ爲スヘキコトヲ留保スルコトヲ得ス然レトモ當事者ノ契約ヲ以テ辨濟者カ給付ノ後ニ於テ指定ヲ爲スヘキコトヲ定ムルヲ得ヘシ蓋第四百八十九條ハ任意規定ナルヲ以テ當事者ノ契約ヲ以テ之ト異ナリタル定メヲ爲スコトヲ得ルカ故ナリ

辨濟者ノ指定ハ辨濟受領者ヲ拘束ス辨濟受領者ハ其指定以外ノ債務ノ辨濟ニ充當スヘキコトヲ主張スルコトヲ得ス辨濟受領者カ辨濟者ノ指定ニ從ハサラントセハ給付其モノノ受領ヲ拒絕スルノ外ナシ然レトモ其拒絕ニ依

リ債権者ハ受領遲滞ノ責ニ任ス之ニ反シ辨濟受領者カ給付ヲ受領スル以上ハ縱令辨濟者カ他ノ債務ノ辨濟ニ充當スヘキ意思ヲ表示スルモ效力ナク辨濟者ノ指定セル債務ハ消滅ス

(二) 辨濟受領者 辨濟者カ辨濟ヲ充當スヘキ債務ヲ指定セサルトキハ辨濟受領者指定權ヲ有ス蓋辨濟者カ指定權ヲ行使セサルトキハ之ヲ拋棄セルモノト解スルコトヲ得ヘキカ故ニ法律ハ辨濟受領者ニ指定權ヲ與ヘタリ(第四百八十八條第二項辨濟受領者ノ指定モ辨濟者ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス且其指定ハ辨濟受領ノ時ニ之ヲ爲スコトヲ要ス蓋辨濟ノ受領ニ依リ辨濟ハ完成シ債權ハ消滅スヘキカ故ニ遅クモ辨濟受領ノ時ニ辨濟ヲ充當スヘキ債務カ確定スルコトヲ要ス且給付受領ノ時ニ指定ナキ以上ハ第四百八十九條ノ規定ニ依リテ充當セラレ辨濟受領者カ充當ヲ指定スルノ餘地ナキニ至ルカ故ナリ

辨濟受領者ノ指定ハ辨濟者ヲ拘束ス然レトモ辨濟受領者ノ指定後辨濟者カ其充當ニ對シテ直ニ異議ヲ述ヘタルトキハ其指定ハ效力ヲ生セス(同條第

法律上ノ充當

二項但書)是レ辨濟者ニ第一位ノ指定權ヲ與ヘタル主旨ヲ貫徹センカ爲メニ外ナラス

(三) 法律上ノ充當 以上ニ依リ辨濟ノ充當ヲ定ムルコト能ハサルトキハ法律ハ直接ニ充當ノ順位ヲ定ム(第四百八十九條)法律ハ當事者雙方ノ利益ヲ斟酌セリト雖モ主トシテ債務者ノ利益ヲ顧慮シテ充當ノ順位ヲ定ム其順位左ノ如シ【註三】

(一) 總債務中辨濟期ニ在ルモノト辨濟期ニ在ラサルモノトアルトキハ辨濟期ニ在ルモノヲ先ニス 是レ主トシテ債務者ノ利益ノ爲メニ定メタルモノナリ蓋債務カ辨濟期ニ在ル場合ニハ債務者ハ遲滞ノ責ニ任スルカ故ニ速ニ之ヲ消滅セシムルヲ利益トスルカ故ナリ

(二) 總債務カ辨濟期ニ在ルトキ又ハ辨濟期ニ在ラサルトキハ債務者ノ爲メニ辨濟ノ利益多キモノヲ先ニス 是レ又債務者ノ利益ノ爲メニ定ム債務者ノ爲メニ辨濟ノ利益多キモノトハ債務者ニ最負擔多キ債務ヲ云フニ外ナラス單ニ債務者ノ爲メニ利益多キヤ否ヤニ依リテ充當ノ順位ヲ定ムルコ

トヲ要シ債務中何レカ先ニ辨濟期ニ在ルヤ又ハ其何レカ先ニ辨濟期ニ至ルヘキヤハ之ヲ問フ所ナシ辨濟ノ利益多キモノヲ先ニスルカ故ニ例ハ通常ノ債務ヨリモ手形債務ヲ先ニシ、無利息債務ヨリモ利息附債務ヲ先ニシ、低利ノ債務ヨリモ高利ノ債務ヲ先ニシ、違約金ヲ附セサル債務ヨリモ之ヲ附シタル債務ヲ先ニシ、無擔保ノ債務ヨリモ擔保附ノ債務ヲ先ニ充當スルコトヲ要ス擔保ハ債務者自ラ供セル場合ノミナラス第三者カ供セル場合ト雖モ無擔保ノ債務ニ比スレハ債務者ニ取リテ負擔重シ蓋債務者ハ擔保ヲ供セル第三者ニ對シ償還義務ヲ負擔スルコトアルヘキカ故ナリ故ニ第三者ノ供セル擔保ヲ附シタル債務モ之ヲ先ニ辨濟スルコトヲ要ス

(三) 債務者ノ爲メニ辨濟ノ利益相同シキトキハ辨濟期ノ先ツ至リタルモノ又ハ先ツ至ルヘキモノヲ先ニス 例ハ同利率ノ利息附ノ債務ニシテ共ニ辨濟期ニ在リ又ハ共ニ未タ辨濟期ニ至ラサル場合ノ如シ此場合ニ辨濟期到來ノ前後ニ依リ充當ノ順位ヲ定メ債權發生ノ前後ニ依ラス是レ當事者雙方ノ利益ニ合シ且早ク時効ニ罹ルヘキモノヲ先ニ辨濟スヘキモノトナシ

證據湮滅ノ虞ヲ防カンカ爲メナリ

(四) 辨濟ノ利益相同シク且辨濟期同一ナルトキハ債務ノ辨濟ハ各債務ノ額ニ應シテ之ヲ充當ス 此場合ニハ先ツ何レノ債務ニ充當スヘキヤヲ定ムルコトヲ得サルカ故ニ各債務ノ額ニ應シテ分配スヘキモノトス之ニ依リテ當事者間及ヒ第三者間例ハ擔保ヲ設定セル第三者、保證人等ノ如シニ公平ヲ保ツコトヲ得ヘシ

(四) 元本、利息、費用ノ充當ノ順位 以上述ヘタル所ハ元本債務ノ充當ニ關ス債務者カ一箇又ハ數箇ノ債務ニ付キ元本ノ外利息及ヒ費用ヲ拂フヘキ場合ニ於テ辨濟者カ其全部ヲ消滅セシムルニ足ラサル給付ヲ爲シタルトキハ又辨濟ヲ充當スヘキ債務ヲ定ムル必要アリ此場合ニハ其給付ヲ以テ第一ニ費用第二ニ利息第三ニ元本ニ充當スルコトヲ要ス(第四百九十一條第一項)費用トハ訴訟費用、辨濟費用其他債權者カ立替ヘタル費用ノミナラス債務者カ特ニ引受ケタル費用(例ハ和解ノ費用)ヲモ含ム唯費用ハ元本債務其モノニ關シテ生セルモノナルコトヲ要ス費用ハ一時的ノモノナルカ故ニ最モ先

元本利息
費用ノ充
當ノ順位

ニ其辨濟ニ充當スヘキモノトセリ利息ハ元本ノ果實ニシテ債權者ノ通常ノ
 収入ナルカ故ニ元本ニ先チテ充當スヘキモノトナスヲ適當トス利息ハ約定
 利息、法定利息共ニ之ヲ含ム

以上ノ充當ノ順位ハ數箇ノ元本債務存シ且各元本債務カ利息債務及ヒ費
 用債務ヲ伴フ場合ニモ適用アリ(第四百九十一條第一項)從テ此場合ニハ先ツ
 凡テノ債務ニ關スル費用ニ充當シ次ニ凡テノ利息債務ニ充當シ而シテ後元
 本債務ニ充當スヘキモノトス

費用、利息及ヒ元本ノ充當ノ順位ハ當事者ノ契約ニ依ルノ外之ヲ變更スル
 コトヲ得ス即第四百八十八條ヲ準用スル所ナキカ故ニ此三者ノ順位ニ關シ
 テハ辨濟者又ハ辨濟受領者ハ指定權ヲ有セス蓋此三者ノ經濟上ノ性質ヨリ
 論シ第一費用、第二利息、第三元本ノ順位ヲ以テ充當セラルヘキモノトナスハ
 公平ニ合ス特ニ辨濟者カ其順位ヲ變更シ費用、利息ニ先チテ元本ニ充當スル
 コトヲ得ルモノトナスハ當ヲ得タルモノト云フヲ得ス是レ法典カ費用、利息
 元本ノ充當ニ關シテ當事者ノ指定ヲ認メサル所以ナリ

上述スルカ如ク費用、利息、元本ノ順位ヲ以テ充當スト雖モ尙費用相互間、利
 息相互間、元本相互間ニ於ケル充當ノ順位ヲ定ムルコトヲ要ス此場合ニハ第
 四百八十九條ノ法定ノ順位ニ從フヘキモノトス(第四百九十一條第二項【註四】)

【註一】債務者カ辨濟充當契約ニ違反シテ充當ヲ指定スルモ無効ニシテ
 此場合ニハ尙契約ノ定ムル所ニ從ヒ充當セラルルモノトナスヲ通説ト
 ス(Kisch, Grinhuts Zeits. B. 29 S. 352, Rehbain Erl. 15 zu § 362 fg, Schollmeyer S.
 287, Dernburg II § 117 II 1)之ニ反シ或ハ此場合ニ債權者ハ債務者ノ指定
 ニ反シ當初ノ充當契約ノ定ムル所ニ從ヒ充當スルコトヲ得サルモノト
 ナス其理由トスル所ハ債務者ハ充當契約ノ定ムル債務ニ充當スルカ爲
 メニ給付ヲ提供セルモノニアラサルカ故ナリトナス故ニ此說ニ從フト
 キハ債權者ハ遲滞ノ責ニ任スルコトナクシテ給付ノ受領ヲ拒ミ且債務
 者ニ對シ契約違反ニ基キテ生セル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ルニ
 止ル(Planck S. 219, Schollmeyer S. 287)此說ハ當事者ノ充當契約ハ單ニ其契
 約ノ定ムル所ニ從ヒテ充當スヘキ義務ヲ生スルニ過キストナスカ爲メ

ナリ然レトモ當事者ノ充當契約ハ直接ニ充當ノ效力ヲ生スルモノト解
スヘキモノナルカ故ニ此說ハ採ルコトヲ得ス

【註二】 獨普通法ノ通說ニ從ヘハ第一ニ債務者カ充當ヲ指定スルノ權利
ヲ有スルモノトス然レトモ其指定ノ效力ニ關シテハ議論岐レ或ハ指定
ハ債權者ヲ拘束スルモノトナシ(Henrici, Jahrb. f. Dogm. B. 14 S. 428, fg. St-
ruekmann B. 25 S. 1 fg) 或ハ債權者ハ債務者ノ指定ニ對シ異議ヲ述フルコ
トヲ得ルモノトナス(Windscheid § 343) 佛民法第千二百五十三條、獨民法第
三百六十六條第一項等モ亦債務者ニ第一ノ指定權ヲ認ム之ニ反シ普國
國法第一部第十六章第百五十條、埃民法第千四百十五條等ハ當事者ノ合
意ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトナス

【註三】 法律上ノ充當ノ順位ニ關シテハ各國ノ立法ニ於テ多少異ナル獨
普通法ニ於テハ(一)辨濟期ニ在ル債務(二)債務者ニ負擔重キ債務(三)先ニ發
生セル債務ノ順位ヲ以テ充當シ(四)凡テノ要件相同シキ場合ニハ各債務
ノ額ニ應シテ分割スヘキモノトス獨民法第三百六十六條モ之ト同一ノ

規定ヲ設ク唯債權者ニ辨濟不確實ナル債務ヲ第二位ニ置ク其他各國立
法ノ規定ニ關シテハ Berner, Verrechnung von Zahlungen 參照

【註四】 第四百九十一條第二項ノ規定ノ意義ハ明白ヲ缺ク或ハ元本、利息
及ヒ費用ノ何レニ充當スヘキヤヲ第四百八十九條ニ依リテ定ムヘキモ
ノト解スヘキカ如シ然レトモ此ノ如ク解スルトキハ第四百九十一條第
一項ハ全ク適用ナキ結果トナルヘシ故ニ本文述フルカ如ク費用相互間
利息相互間、元本相互間ノ充當ノ順位ヲ定メタルモノト解スルノ外ナカ
ルヘシ

第三節 代物辨濟

第一款 代物辨濟ノ性質

代物辨濟 (datio in solutum, Hingabe an Erfüllungszustand) トハ債務者カ債權者ノ承
諾ヲ得テ債務ヲ消滅セシムルカ爲メ其負擔シタル給付ニ代ヘテ他ノ給付ヲ
爲スヲ云フ(第四百八十二條) 債權者ハ債務者カ其負擔シタル給付以外ノ給付

代物辨濟
ノ性質

ヲ受領スルコトヲ要セスト雖モ之ヲ受領スルコトヲ妨ケス債權者カ他ノ給付ノ受領ニ依リ債務カ消滅スヘキコトヲ承諾シタルトキハ之ニ因リテ債務ハ消滅ス代物辨濟ハ債務者カ本來ノ給付ヲ爲スコト能ハサル場合ニ自己ノ便宜ノ爲メニ之ヲ爲スヲ通常トス然レトモ又債權者カ本來ノ給付ヲ欲セサルカ爲メ他ノ給付ニ代ヘンコトヲ希望シ代物辨濟ヲ約スルコトナシトセス又債權者ハ債務者カ本來ノ給付ヲ爲スコト能ハサルニ至ルヲ恐レ他ノ給付ヲ以テ満足スル場合アルヘシ

代物辨濟ノ性質ニ關シテハ從來議論岐ル

(一) 或ハ代物辨濟ヲ以テ辨濟ノ性質ヲ有ストナシ若クハ辨濟ノ變態ニ過キストナス〔註〕代物辨濟ト辨濟トヲ全然同一視スル說ヲ取ル者ハ稀ナリト雖モ代物辨濟ヲ以テ辨濟ノ變態ニ過キストナスノ說ハ從來一般ニ認メラルル所ニシテ各國ノ法典モ亦代物辨濟ニ關スル規定ヲ辨濟ニ關スル規定中ニ設クルヲ常トス代物辨濟ハ債權者ニ實質的満足ヲ與フル點ニ於テハ辨濟ト同シ從テ經濟上ノ作用ニ於テハ兩者ハ相似タリト雖モ兩者ノ法律上ノ性質

ハ異ナル代物辨濟ハ本來ノ給付ノ履行ニアラサルカ故ニ辨濟ニアラサルハ明カニシテ兩者カ同一ノ性質ヲ有セサルハ云フヲ俟タス且兩者ハ債務ヲ消滅セシムル理由ニ於テ異ナル既ニ述ヘタルカ如ク辨濟ハ債務ノ内容ノ實現ニシテ債務者ノ給付カ客觀的ニ債務ノ内容ニ適合スルニ依リテ債務ハ消滅ス之ニ反シ代物辨濟ハ債務ノ内容ノ實現ニアラス債務者カ代物辨濟トシテ爲ス給付ハ本來ノ給付ニアラス從テ債務ハ單ニ給付ノミニテハ消滅セス更ニ債權者カ債務ヲ消滅セシムヘキコトヲ承諾スルコトヲ要ス即債權者債務者間ニ債務消滅ニ關シ合意アルコトヲ要ス此ノ如ク兩者ハ債權消滅ノ理由ヲ異ニスルト共ニ其性質ヲ異ニス辨濟カ債務ノ内容ヲ實現スル債務者ノ行爲タルニ反シ代物辨濟ハ契約ナリトス

(二) 或ハ代物辨濟ヲ以テ雙務契約トナシ賣買若クハ交換ナリトナス然レトモ賣買交換ハ債務發生ノ原因タル契約ナルカ故ニ債務ノ消滅ヲ目的トスル代物辨濟ト其性質ヲ同フスルヲ得サルハ云フヲ俟タス故ニ一派ノ學者ハ賣買若クハ交換ト相殺トカ同時ニ成立スルモノトナス例ヘハ本來ノ金錢給

付ニ代ヘテ馬一頭ヲ給付シ代物辨濟ヲ成立セシムル場合ニハ債權者ハ債務者ヨリ馬ヲ購買スル契約ヲ締結シ之ニ基キテ代金支拂ノ債務ヲ負擔シ此金錢債務ト當初ノ金錢債權トヲ相殺スルモノトナス【註二】然レトモ此見解カ當事者ノ意思ニ合セサルハ明カナリ當事者ハ代物辨濟ニ因リテ債務ヲ消滅セシムル意思ヲ有スルノミニシテ債務ヲ發生セシムル意思ヲ有スルコトナシ且代物辨濟ヲ爲スニ當リテハ賣買交換等ノ如ク貨物ヲ交換スルノ意思ヲ有スルコトナシ故ニ賣買交換トハ根本的ニ其性質ヲ異ニス要スルニ此見解ハ賣買交換等ノ契約ヲ假設シ徒ニ法律關係ヲ複雑ナラシムルニ過キス

【三】或ハ代物辨濟ヲ以テ獨立セル一種ノ契約トナシ債權者カ本來ノ給付ニ代ヘテ他ノ給付ヲ受領シ之ニ因リテ債權ヲ消滅セシムル契約ナリトナス換言スレハ債務者ノ反對給付ニ對シテ債權者カ既存ノ債權ヲ拋棄スル契約ナリトナス【註三】

第三說ハ代物辨濟ノ性質ヲ明カニスルニ最適ス此說ニ從ヒ代物辨濟ノ性質ヲ述フレハ左ノ如シ

- (一) 代物辨濟ハ要物契約ナリ代物辨濟ノ成立ニハ單ニ當事者ノ意思表示ノミヲ以テ足レリトセス債務者ハ現實ニ給付ヲ爲スコトヲ要ス即債務者ハ本來ノ給付ニ代ヘテ他ノ給付ヲ現實ニ爲スコトヲ要ス【註四】
- (二) 代物辨濟ハ有償契約ナリ債務者カ本來ノ給付ニ代ルヘキ他ノ給付ヲ爲スニ對シ債權者ハ債權ヲ拋棄スルコトヲ要ス而シテ債權ヲ拋棄スルコトモ一ノ給付ナルカ故ニ雙方ノ當事者ハ各出捐ヲ爲スモノト云フコトヲ得ヘシ故ニ代物辨濟ハ有償契約タル性質ヲ有ス【註五】
- (三) 代物辨濟ハ債務ノ消滅ヲ目的トスル契約ナリ之ニ因リテ債務ハ全ク消滅ス故ニ代物辨濟カ成立セル後ニ在リテハ債權者ハ再タヒ本來ノ給付ニ立戻リテ請求スルコトヲ得ス

【註一】 Windscheid § 342 Anm. 10

【註二】 Schliemann, Haftung des Cedenten S. 49 fg 尙此見解ニ關シテハ Römer, Leistung an Zahlungsverstätt S. 4 fg 24. fg 參照

【註三】 Schollmeyer S. 281 Berndorff, Annahme an Erfüllungsstatt S. 8, Hartmann,

Annahme an Erfüllungsstatt S. 9 fg,

【註四】 Schollmeyer S. 281 Kuhlbeck S. 281, Grome S. 262, Stammler S. 229, Bern-
dorf S. 8, Krismann, Juristische Natur der Hingabe an Erfüllungsstatt S. 13 fg

【註五】 Römer, a a O. S. 63 Anm. 34, Berndorf, S. 21, erismann S. 15, Melcher, L-
eistung an Erfüllungsstatt und Leistung erfüllungshalber S. 39

第二款 代物辨濟ノ要件

代物辨濟
ノ要件

代物辨濟ノ成立ニハ左ノ要件ヲ具フルコトヲ要ス

(一) 代物辨濟ニ因リテ消滅スヘキ債権カ存在スルコトヲ要ス其債権ノ物
體ノ如何ハ之ヲ問フ所ナシ即債権ノ物體カ物ノ給付タルト權利ノ移轉タル
ト行爲タルトニ關スル所ナク代物辨濟ヲ約スルコトヲ得又債権ノ物體カ物
ノ給付ナル場合ニ代替物ノミナラス不代替物ノ給付ヲ物體トスル場合ニ於
テモ代物辨濟ヲ約スルコトヲ得若シ債権カ存在セサル場合ニ錯誤ニ因リテ
代物辨濟トシテ給付ヲ爲シタルトキハ不當利得ノ原則ニ基キテ之カ償還ヲ

請求スルコトヲ得

(二) 債務者ハ本來ノ給付ト異ナリタル給付ヲ現實ニ爲スコトヲ要ス故ニ
現實ニ給付ヲ爲サス單ニ債務者ニ本來ノ給付ニ代ヘテ他ノ給付ヲ爲スコト
ヲ得ヘキ權利ヲ與フルニ過キサル場合ニハ任意債務ニシテ代物辨濟ニアラ
ス【註六】而シテ現實ニ爲サル給付ハ本來ノ給付ト異ナレルモノタルコトヲ
要ス本來ノ給付ト異ナル所僅ニシテ辨濟トシテ認ムヘキモノナル場合ニハ
代物辨濟ニアラス本來ノ給付ノ物體カ特定物ナル場合ニ他ノ物體ヲ給付ス
ヘキコトヲ約スル場合ニハ代物辨濟タルハ明カナリ種類債権ニ在リテ種類
ヲ異ニシ若クハ品質ヲ異ニスル物體ヲ給付スル場合ニ於テ代物辨濟ハ成立
スルコトヲ得ヘシ而シテ本來ノ給付ニ代ルヘキ給付ハ其種類ヲ問ハス物ノ
給付タルト權利ノ移轉タルト行爲タルト問フ所ナシ唯本來ノ給付ニ代ヘテ
新ナル債務ヲ負擔スルニ因リテ代物辨濟カ成立スルコトヲ得ルヤ否ヤハ議
論岐ル此問題ニ付テハ新ニ負擔セラレル債務カ有因債務タル場合ト無因債
務タル場合トニ區別スルコトヲ要ス而シテ有因債務ヲ負擔スル場合ニハ代

物辨濟ハ成立スルコトヲ得ス例ヘハ債務者カ賣買ヨリ生セル債務ヲ履行スルニ代ヘテ消費貸借上ノ債務ヲ負擔スルモ代物辨濟ハ成立スルコトナシ蓋此場合ニ新ナル債務ハ消費貸借ヲ原因トスルモノナルカ故ニ若シ第五百八十八條ノ規定ナキトキハ賣買ヨリ生セル債務ヲ消滅セシムル契約ト共ニ消費貸借ヲ締結スルコトヲ要シ代物辨濟ノ成立ヲ認ムルコトヲ得サルカ故ナリ之ニ反シ既存ノ債務ノ履行ニ代ヘテ無因債務例ヘハ手形上ノ債務ヲ負擔スル場合ニハ代物辨濟ハ成立ス蓋無因債務ヲ負擔スルハ一箇ノ給付ナルカ故ニ債務者カ本來ノ給付ニ代ヘテ無因債務ヲ負擔スル場合ニハ代物辨濟成立スルモノトス或ハ此場合ニ更改成立ストナス説アリト雖モ非ナリ蓋更改ニ在リテハ新ナル債務ハ更改契約其モノニ因リテ生スルコトヲ要シ他ノ行為ニ因リテ新債務ヲ負擔スルモ更改ハ成立スルコトヲ得ス故ニ例ヘハ既存ノ債務ノ履行ニ代ヘテ手形ヲ振出ス場合ニ於テハ新ナル債務ハ手形行為ニ基キテ生ス從テ此場合ニ更改ノ成立ハ之ヲ認ムルヲ得ス之ニ反シ代物辨濟ハ他ノ獨立セル行為ニ因リ新ナル債務ヲ負擔スルニ依リテ成立スルコトヲ

得唯其新ナル債務ノ負擔カ給付タル性質ヲ有スルコトヲ要ス故ニ既存ノ債務ノ履行ニ代ヘテ無因債務ヲ負擔スル場合ニハ代物辨濟成立スルモノトナササルヘカラス〔註二〕此ノ如ク新ナル給付ハ其種類ヲ問ハサルト共ニ又本來ノ給付ト同一ノ價值ヲ有スルコトヲ要セス

(三) 代物辨濟ノ成立ニハ債權者ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス債權者ハ本來ノ給付ト異ナリタル給付ヲ受領スルコトヲ要セス之ヲ拒絕スルモ受領遲滞ノ責ニ任スルコトナシ從テ本來ノ給付ト異ナリタル給付ニ因リテ債務消滅ノ效果ヲ生セシムルカ爲メニハ債權者ノ同意アルコトヲ要ス換言スレハ債權者債務者間ニ債權ヲ消滅セシムヘキ合意アルコトヲ要ス

代物辨濟ハ第三者ト雖モ之ヲ約スルコトヲ得ルヤ此點ニ關シ直接ノ規定ヲ缺ク第四百八十二條ハ債務者ナル文字ヲ用ユルカ故ニ債務者ノミカ代物辨濟ヲ約スルコトヲ得ルモノト解スヘキカ如シ然レトモ單ニ文字解釋ノミニ依リテ之ヲ定ムルヲ得ス既ニ第三者ノ辨濟ヲ認ムルニ於テハ第三者ノ代物辨濟ヲモ認ムルヲ得サルヘカラス債權者ハ第三者ノ本來ノ給付ト異ナリ

タル給付ニ因リテ債權ヲ消滅セシムヘキコトヲ承諾スルヲ得サル理由ナシ又債務者ヨリ云ヘハ第三者ノ辨濟ニ因リテ債務ヲ免ルルモ代物辨濟ニ因リテ債務モ免ルルモ異ナル所ナシ故ニ第三者ト雖モ代物辨濟ヲ約スルコトヲ得ルモノト解スヘシ而シテ辨濟ハ債務ノ性質上債務者自ラ給付ヲ爲スコトヲ要スル場合ニハ第三者ハ之ヲ爲スコトヲ得スト雖モ代物辨濟ハ債務者自ラ給付ヲ爲スコトヲ要スル場合ト雖モ第三者ハ之ヲ約スルコトヲ得【註三】

【註一】二〇九頁註一參照

【註二】拙著民法研究第一卷四八二頁以下參照

【註三】獨民法第三百六十四條第一項ニ於テハ特ニ債務者ナル文字ヲ用ヒサルカ故ニ通説ハ第三者ト雖モ代物辨濟ヲ爲スコトヲ得ルモノト解ス Planck § 364 Nr. 1, Grome § 187 I 2, Rehbein § 364 Nr. 25, Schollmeyer § 367 Nr. 2

第三款 代物辨濟ノ效力

代物辨濟ノ效力

代物辨濟ニ因リテ債務ハ當然ニ消滅ス【註一】從テ之ニ從タル擔保モ亦消滅ス【註二】

代物辨濟トシテ給付セル物體ノ瑕疵ニ對シ債權者ハ如何ナル救濟方法ヲ有スルヤ即債務者カ代物辨濟トシテ移轉セル權利カ第三者ニ屬セル場合又ハ給付セル物ニ瑕疵アル場合ニ債務者ハ之ニ對シ如何ナル責任ヲ負フヤニ關シ法典ハ規定ヲ缺ク然レトモ代物辨濟ハ有償契約ナルカ故ニ賣主ノ擔保義務ニ關スル規定ヲ準用スルコトヲ得ルモノト解スヘシ【註三】

【註一】羅馬法ニ於テハ代物辨濟ノ效力ニ關シ議論岐レ或ハ債務ハ當然消滅スルモノトナシ或ハ債務者ハ惡意ノ抗辯ニ依リテ始メテ債務ヲ免ルルモノトナス儒帝ニ至リ前說ヲ採ルニ至レリ(Windscheid § 342 Anm. 10, Römer S 64.) 近世ノ立法モ亦之ニ從フ

【註二】第四百八十二條ハ代物辨濟ハ辨濟ト同一ノ效力ヲ生ストナスト雖モ必スシモ兩者ハ同一ノ效力ヲ生スルモノニアラス特ニ破産ノ場合ニ異ナル即支拂停止後又ハ支拂停止前三十日以内ニ破産者カ爲シタル

期限ニ至リタル債務ノ辨濟ハ有效ナリト雖モ代物辨濟ハ財團ニ對シテ無効ナリトス(破産法第九百九十條)

【註三】代物辨濟トシテ給付セラレタル物體カ第三者ヨリ追奪セラレタル場合ニ債權者カ如何ナル救濟方法ヲ有スルヤニ關シ獨普通法ニ於テハ學說種種ニ岐レ或ハ債權者ハ本來ノ給付ヲ請求スルコトヲ得ルモノトナシ或ハ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ルモノトナシ或ハ本來ノ給付又ハ損害賠償ノ中一ヲ請求スルコトヲ得ルモノトナス通說ハ最後ノ見解ヲ採ル(Windscheid § 342 Anm. 14 參照)獨民法第三百六十五條ハ債務者ハ賣主ト同一ノ擔保義務ヲ負フ旨ヲ規定ス

第四款 辨濟ノ爲メニスル給付

辨濟ノ爲メニスル給付 (Leistung erfüllungshalber) トハ債權者ニ満足ヲ得セシムルカ爲メニ本來ノ給付ト異ナリタル給付ヲ爲スヲ云フ債務者ハ本來ノ給付ヲ爲スコト能ハサル場合ニ辨濟ノ目的ノ爲メニ他ノ給付ヲ爲スコトアリ

辨濟ノ爲メニスル給付

此場合ニハ代物辨濟ト異ナリ債權者ヲシテ辨濟ヲ得セシムル方法トシテ給付ヲ爲スモノナルカ故ニ債務ハ直ニ消滅セス債權者カ實際其給付ヨリ満足ヲ受クルニ因リテ債務ハ消滅ス例へハ債務者カ金錢債務ヲ負擔スル場合ニ馬一頭ヲ給付シ債權者カ其馬ヲ賣却シテ債務ノ支拂ニ充ツルカ如シ

辨濟ノ爲メニスル給付ハ債權者債務者ノ契約ニ依リテ成立ス契約ノ性質ニ關シテハ議論岐レ或ハ代物辨濟トナス說アリト雖モ辨濟ノ爲メニスル給付ニ依リテ債務ハ直ニ消滅スルコトナキカ故ニ代物辨濟ニアラサルハ明カナリ故ニ辨濟ノ爲メニスル給付ハ之ヲ獨立セル種類ノ契約ト解スルヲ正當トス【註二】辨濟ノ爲メニスル給付ハ債務者ノ給付ニ依リテ始メテ成立スルカ故ニ要物契約タリ而シテ之ニ基キ債權者ハ其給付ヨリ債權ノ満足ヲ受クヘキ義務ヲ負フカ故ニ片務契約タル性質ヲ有ス

辨濟ノ爲メニスル給付ハ債務者カ新ニ債務ヲ負擔スルニ因リテ之ヲ爲ス場合多シ特ニ債務者カ從來ノ債務ヲ辨濟スル目的ヲ以テ手形ヲ振出す場合多シ然レトモ債務者カ新ニ債務ヲ負擔スル場合ニハ代物辨濟トシテ之ヲ爲

ス場合アリ故ニ代物辨済ナリヤ又ハ辨済ノ爲メニスル給付ナリヤハ各場合ニ當事者ノ意思ヲ解釋シテ之ヲ定ムヘシ【註二】債務者カ辨済ノ爲メニ新ニ債務ヲ負擔スルニ因リテ新債務ハ舊債務ト共ニ並存ス而シテ債權者ハ先ツ何レノ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ要スルヤハ當事者ノ意思解釋ノ問題ナリト雖モ先ツ新債務ノ履行ヲ請求スヘキモノトナスヲ以テ通常當事者ノ意思ニ合ス而シテ債權者カ新債務ニ因リテ満足ヲ得タル範圍ニ於テ舊債務ハ消滅スルモノトス

【註一】辨済ノ爲メニスル給付ノ性質ニ關シテハ種種ノ見解アリ或ハ辨済ノ著手ナリトシ(Salpius, Novation und Delegation S. 499 fg)或ハ條件附辨済ナリトシ(Schliemann, Haftung des Cedenten S. 53)或ハ代物辨済ナリトシ(Fick, Arch f. deutschen Wechselrecht und Handelsrecht B. VII S. 129, Grünhut, Wechselrecht B. II S. 113)或ハ條件附代物辨済ナリトス(Schauberg, Goldschmidts Zeits. B. XI S. 193 fg)或ハ以上ノ諸説ニ反シ獨立ノ種類ノ契約ナリトス(Dröner, Hingabe erfüllungshalber S. 14, Melcher a. a. O. S. 57)

【註二】獨民法第三百六十四條ハ推定規定ヲ設ケ債務者ハ債權者ニ満足ヲ與フル目的ヲ以テ新ナル債務ヲ負擔スル場合ニ疑アルトキハ履行ニ代ヘテ債務ヲ負擔スルモノト認ムヘカラサル旨ヲ定ム

第四節 供託

第一款 供託ノ性質

●供託 (depositio, Hinterlegung, consignation) ハ債權消滅ノ一原因ニシテ債務者カ辨済ノ物體ヲ供託所ニ供託スルニ因リテ債權ハ消滅ス供託ニ因リ債權ヲ消滅セシムルハ公平ノ觀念ニ基ク蓋債務ノ履行ハ債務者ノ行爲ノミニテ之ヲ爲スコトヲ得ス債權者ノ協力ヲ要スル場合アリ此場合ニ債權者カ協力ヲ爲スコトヲ欲セス又ハ債務者カ債權者ノ協力ヲ得ルコト不能ナルカ若クハ困難ナル場合ニハ債務者ハ頗ル不利益ナル地位ニ在リ固ヨリ此等ノ場合ニハ通常債權者ハ受領遲滞ノ責ニ任スルカ故ニ債務者ハ不履行ニ因リテ生スヘキ一切ノ責任ヲ免ル然レトモ債務者ハ尙債務ヲ免ルルコトヲ得サルカ故ニ債

債權消滅ノ原因
供託

務者ハ債權者ノ請求ニ應シ何時ニテモ履行ヲ爲スカ爲メニ準備ヲ爲ササルヘカラス又債務ニ附從セル擔保ハ消滅セス違約金約款ハ其效力ヲ失ハス此ノ如ク債務者ハ不利益ノ地位ニ在ルカ故ニ法律ハ債務者ヲシテ債權者ノ協力ヲ要セス其債務ヲ免ルルコトヲ得セシムルカ爲メ辨濟ノ代用方法トシテ供託ノ方法ヲ設ク【註一】【註二】

【註一】供託ハ種種ノ目的ノ爲メニ爲サルルモノニシテ或ハ債權消滅ノ目的ノ爲メニ之ヲ爲ス場合アリ今此ニ論スル第四百九十四條乃至第四百九十八條ノ規定ハ即之ニ屬ス其他第三百七十八條、第五百七十八條、商法第二百八十六條、第三百四十五條等モ亦債務消滅ノ目的ノ爲メニ供託ヲ爲ス場合ナリトス或ハ債權擔保ノ目的ノ爲メニ之ヲ爲ス場合アリ第三百六十七條第二項、第四百六十一條第二項、商法第六十八條、第四百七十八條、第四百七十九條乃至第四百八十一條、民事訴訟法第八十七條、第五百五條第二項、第五百十三條、第五百七十九條、第六百七條等ノ如シ或ハ保管ノ目的ノ爲メニ之ヲ爲ス場合アリ例ヘハ商法第二百八十九條ノ如シ

供託ハ其目的ヲ異ニスルニ從ヒ其法律上ノ性質モ亦異ナル今論スル所ハ債務消滅ノ目的ヲ有スル供託ナリトス

【註二】羅馬法ニ於テハ債權者カ受領遲滯ニ在ル場合ニハ債務者ハ給付ノ物體ヲ拋棄シ債務ヲ免ルルコトヲ得ルモノトセリ然レトモ拋棄ハ第三者ヲシテ其物體ヲ先占セシメ或ハ徒ニ之ヲ暴殄スルノ結果ヲ生スルニ過キサカ故ニ單ニ債權者一己ノ不利益ノミナラス國家經濟上ノ點ヨリ見ルモ不利益ナリ故ニ羅馬法ニ於テモ後代ニ至リ動産ニ關シ供託ノ制度ヲ認ムルニ至レリ近世ノ立法ハ一般ニ供託ノ制度ヲ認ム獨普通法(Windscheid § 347)普國國法第一部第十六章第二百十三條以下、奧民法第一千四百二十五條、佛民法第一千二百七十五條以下、獨民法第三百七十二條以下、瑞債務法第九十二條

供託ノ性質

供託ハ寄託ト第三者ノ爲メニスル契約トヲ包含スル私法上ノ行爲ナリ之ヲ説明スレハ

(一) 供託ハ私法上ノ行爲ナリ 供託ハ供託者供託所間ノ契約ニシテ私

法上ノ行爲タリ蓋供託ヨリ生スル效力ヨリ見ルトキハ供託ヲ以テ私法上ノ契約トナササルヘカラス特ニ供託ニ因リテ債權者ハ供託所ニ對シ供託物ノ交付ヲ請求スルノ權利ヲ取得ス此請求權カ私法上ノ請求權タルハ明カナルカ故ニ供託ヲ以テ私法上ノ契約トナササルヲ得ス若シ供託ヲ以テ公法上ノ法律關係トナストキハ供託物ノ交付ヲ請求スル債權者ノ權利ハ之ヲ認ムルコトヲ得ス又供託者カ供託ヲ撤回シ供託物ノ取戻ヲ請求スルノ權利モ亦私法上ノ權利タルハ明カニシテ此點ヨリ見ルモ供託ヲ以テ私法上ノ契約トナササルヘカラス【註三】

【註三】 通説ハ供託ヲ以テ私法上ノ契約ナリトス之ニ反シ少數ノ學者ハ供託ヲ以テ公法上ノ法律關係トナス説ヲ唱フ即行政法學者レーニング(Löning, Haftung des Staates für die rechtswidrigen Handlungen seiner Beamten S. 131)及ヒオットハイヤー(O. Meyer, Deutsches Verwaltungsrecht II § 51 Anm 6)供託ヲ以テ公法上ノ關係ナリトシ更ニ獨民法ニ於テハエンデマン(Endemann, § 143 Anm 48)及ヒコッペン(Kopf, Rechtsverhältnis zwischen der öffentlichen

公法關係
説

Hinterlegungsstelle und an der Hinterlegung Beteiligten)ハ公法上ノ法律關係説ヲ

唱フ今供託ヲ以テ公法上ノ法律關係トナス説ノ根據ニ付キ概評スレハ
 (一) 或ハ國家カ供託ヲ受クルハ全ク公益ノ爲メニスルモノニシテ之ニ因テ財産上ノ利益ヲ得ルノ目的ヲ有セス故ニ供託ヲ以テ公法上ノ法律關係トナササルヘカラストナス(Kopf, § 3920)然レトモ國家カ公益ノ爲メニ行動スルヤ又ハ財産上ノ利益ヲ得ルカ爲メニ行動スルヤニ依リテ公法上ノ法律關係ナリヤ又ハ私法上ノ法律關係ナリヤヲ定メントスルハ恰モ公益私益ノ標準ニ依リテ公法私法ノ區別ヲ爲スト同シク非ナリ國家カ公益ノ爲メニ私人ト法律關係ニ立ツ場合ニ於テ私法上ノ法律關係ヲ生スル場合アリ例ヘハ國家ノ經營スル鐵道カ私法上ノ契約ニ基キ營業ヲ爲ス場合ニ其賃金低廉ニシテ殆収益ヲ得サルモ尙鐵道ト乗客トノ關係ハ私法上ノ法律關係タルヲ失ハサルカ如シ之ニ反シ國家カ自己ノ財産上ノ利益ノ爲メニ私人ト法律關係ニ立ツ場合ニ於テ公法上ノ法律關係ヲ生スル場合アリ例ヘハ有償的ニ國家ノ營造物ヲ公法上ノ關係

ニ於テ使用セシムル場合ニハ尙公法上ノ法律關係タル性質ヲ有スルカ如シ故ニ供託カ一面公益ノ目的ヲ有スルカ爲メニ直ニ公法上ノ法律關係トナスコトヲ得ス

(二) 或ハ國家カ供託所ノ設備ヲ爲シ供託セラレタル物體ヲ受領シ之ヲ保管スルハ公法上ノ義務ヲ盡スモノナルカ故ニ供託ハ公法上ノ法律關係ナリトナス(Endmann, S. 818 Anm. 6.)此說ハ其所説明カナラスト雖モ供託所カ供託物ヲ受領シ之ヲ保管スル義務ヲ以テ供託所カ國家ノ機關トシテ爲スヘキ職務上ノ義務ヲ云フモノナリトセハ供託ノ性質ヲ定ムルニ關係スル所ナシ供託所カ職務上ノ義務ヲ爲スカ爲メニ供託所ト供託者債權者トノ間ニ於ケル供託カ公法上ノ法律關係トナルコトナシ

(三) 或ハ供託所ハ供託ヲ承諾スヘキ義務ヲ負ヒ其承諾ヲ強制セラル此ノ如キ強制ハ契約ノ觀念ニ反スルカ故ニ供託カ契約タル性質ハ之ヲ認ムルコトヲ得ストナシ以テ供託ヲ公法上ノ法律關係トナス契約締結ノ強制存スルモ契約ノ觀念ニ反スルコトナシ縱令契約ヲ締結スヘキ法

律上ノ義務ヲ負フモ契約ノ締結ハ自由意思ニ基クモノナルカ故ニ契約ハ有效ニ成立ス故ニ供託所カ供託ヲ承諾スヘキ義務ヲ負フモ之カ爲メニ供託カ私法上ノ契約タルニ妨クル所ナシ且此ノ如キ契約ノ強制ハ他ニモ存スル所ニシテ例ヘハ鐵道カ一般人ニ對シ運送契約ヲ締結スヘキ義務ヲ負フモ尙運送契約タルヲ失ハサルカ如シ(Beer, Hinterlegung zum Zwecke der Befreiung von Schulverbindlichkeit S. 50 fg.)

(四) 供託カ公法上ノ法律關係ナリトセハ其法律關係ハ如何ナル性質ヲ有スヘキヤ此點ニ關シ公法關係說ヲ主張スル學者ノ説明詳細ヲ缺ク或ハ供託ヲ以テ公法上ノ契約ナリトナス(Löning a. a. O. S. 31 fg.)然レトモ公法上ノ契約ナル觀念ヲ認ムルコトヲ得ヘキヤ否ヤニ關シテハ爭アリ學者ハ通常官吏ノ任命、歸化等ヲ以テ公法上ノ契約ナリトス供託ヲ以テ此等ノ契約ト同一ノ性質ヲ有スルモノトナスヲ得サルハ明カナリ公法上ノ契約ハ其效力トシテ公法上ノ權利義務ヲ發生スルモノナラサルヘカラス然レトモ供託ニ依リ供託者及ヒ債權者カ取得スル權利ハ私權ナ

ルカ故ニ供託ヲ以テ公法上ノ契約ナリトナスヲ得ス或ハ供託ヲ以テ營造物ノ公法上ノ使用ナリトナス(O. Meyer, a. a. O. S. 323, Kopf a. a. O. S. 47)若シ供託ヲ以テ公法的性質ヲ有スルモノト解スヘキモノトセハ此見解ヲ以テ正當トスヘキカ如シ然レトモ我國法上ニ於テ供託所ハ公ノ營造物ニアラス我國法ニ於テハ金錢及ヒ有價證券ノ供託ニ關シテハ金庫ヲ以テ供託所トナシ其他ノ物品ノ供託ニ關シテハ司法大臣ノ指定セル倉庫營業者ナリトナス(供託法第一條第五條)又法令ニ別段ノ定ナキ場合ニ於テハ裁判所ハ辨濟者ノ請求ニ因リ供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ヲ爲スコトヲ要スルモノトス(第四百九十五條第二項)此等ノ供託所カ營造物ニアラサルハ明カナリ且又營造物ノ使用ハ或ハ公法上ノ使用タル場合アリ或ハ私法上ノ使用タル場合アリ而シテ一箇ノ營造物ニシテ此兩種ノ使用方法ヲ認ムルヲ通常トス故ニ供託ヲ以テ營造物ノ使用ト爲スモ公法上ノ使用ノミニ制限スヘキ理由ナシ

上述スルカ如ク供託ヲ以テ公法上ノ關係トナス說ノ根據トスル所ハ

薄弱ナルノミナラス公法上ノ關係トナス見解ハ實際ニ於テ種種不當ナル結果ヲ生ス特ニ供託所ノ義務不履行ニ對スル國家ノ責任及ヒ供託者債權者ニ對スル法律上ノ保護方法ニ關シ供託ヲ公法上ノ法律關係ト解スルト私法上ノ法律關係ト解スルトニ依リ全ク其結果ヲ異ニス即供託ヲ以テ公法上ノ關係トナストキハ供託所ノ行爲ニ因リ供託者債權者カ損害ヲ被ムルモ國家ハ之ニ對シテ責任スルコトナシ從テ供託所カ過失ニ因リ供託物ヲ滅失毀損セル場合ニ供託所ハ不法行爲上ノ損害賠償ノ責任ニ任スヘシト雖モ國家ハ之ニ對シ責任スルコトナシ蓋供託所ト供託者トノ關係ヲ以テ私法上ノ關係トナササルカ故ニ民法第四十四條第一項ヲ準用シ國家ニ責任ヲ負ハシムルコトヲ得サルカ故ナリ更ニ供託ヲ以テ公法上ノ關係トナストキハ供託者又ハ債權者ハ公力ノ保護ニ依リテ其權利ヲ主張スルノ方法ヲ缺ク蓋公法上ノ關係トナストキハ供託所カ其供託物ヲ返還セサル場合ニハ民事訴訟ニ依リテ之ヲ訴求スルヲ得ス(Endemann, S. 819, Kopf S. 11 fg S. 49 fg)而モ我國法ニ在リテハ行政

訴訟又ハ訴訟ニ依リテ其保護ヲ求メントスルモ行政訴訟又ハ訴訟ヲ許ス列記事項ニ屬セサルカ故ニ此方法ニ依ルコトヲ得サルカ故ナリ然レトモ供託者又ハ債權者ニ民事訴訟ニ依ル保護方法ヲ認メサルハ當ヲ得タルモノト云フヲ得ステニ司法大臣ノ指定セル供託所若クハ裁判所ノ指定セル供託所カ保管ヲ爲ス場合ニ供託者ニ對シ民事訴訟ニ依ル保護方法ヲ認ムルコトヲ要スルハ明カナリ

(二) 供託ハ寄託契約ナリ 供託ハ第一ニ辨濟ノ物體ノ保管ヲ目的トス即供託ヲ爲スハ債權者ヲシテ供託所ヲ通シテ辨濟ノ物體ヲ取得スルヲ得セシムルカ爲メナリ而シテ之カ爲メニハ其物體ヲ債務者ノ占有ヨリ離シ安全ニ保管セシムルコトヲ要ス故ニ供託ハ寄託契約ヲ含ムモノトナササルヘカラス供託法第一條ハ明カニ供託所カ供託物保管ノ義務ヲ負フ旨ヲ定ム故ニ供託ノ目的ニ反セサル限リハ寄託ニ關スル第六百五十七條以下ノ規定ヲ適用スルコトヲ要ス【註四】

【註四】 Hellwig, Verträge auf Leistung an Dritte S. 444, Dernburg § 124 II, Ebnec-

cerus § 290, Planck S. 230, Schollmeyer S. 300, Crome § 189 Anm. 30, Ortmann S. 270, Kuhnbeck S. 295, Müller, Jahrb. f. Dogm. B. 41 S. 470, Rosenberg, Jahrb. f. Dogm. B. 43 S. 233

(三) 供託ハ第三者ノ爲メニスル契約ナリ 供託ハ寄託契約タル性質ヲ有スルト共ニ第三者ノ爲メニスル契約タル性質ヲ有ス第四百九十四條ハ辨濟者ハ債權者ノ爲メニ辨濟ノ物體ヲ供託スヘキ旨ヲ規定ス債權者ノ爲メニ供託ヲ爲ストハ供託物ヲ債權者ニ交付スルコトヲ目的トスルヲ云フモノニシテ債權者ハ之ニ基キテ直接ニ供託物ノ交付ヲ請求スル權利ヲ取得ス故ニ供託ハ第三者ノ爲メニスル契約タル性質ヲ有スルモノト云ハサルヘカラス第三者タル債權者カ供託物ノ交付ヲ請求スル權利ヲ取得スル所以ハ供託ヲ以テ第三者ノ爲メニスル契約トナスニアラサレハ他ニ之ヲ説明スルノ方法ナシ【註五】或ハ第三者ノ爲メニスル契約ハ單ニ第三者ノ利益ノ爲メニ締結セラルルコトヲ要ス然ルニ供託ハ債務者ノ利益ノ爲メニスルモノナルカ故ニ第三者ノ爲メニスル契約タルヲ得スト説ク者アリ【註六】然レトモ契約締結者

ノ利益カ同時ニ存スルコトアルモ之カ爲メニ第三者ノ爲メニスル契約タルノ性質ヲ失フコトナシ蓋第三者ノ爲メニスル契約タルニハ當事者ノ一方カ第三者ニ給付ヲ爲スヘキ義務ヲ負フヲ以テ足り第三者ノミニ利益ヲ享受セシムルモノタルコトヲ要セサルカ故ナリ

債權者ハ供託ニ因リテ直ニ供託物ノ交付ヲ請求スル債權ヲ取得スルモノニシテ其利益ヲ享受スル意思ヲ表示スルコトヲ要セス債權者ハ供託アルコトヲ知ラサルモ尙債權ヲ取得ス債權者カ直ニ供託所ニ對シ債權ヲ取得スルハ供託ノ目的ヨリ見ルモ明カナル所ニシテ法律カ供託ニ因リ債務者ヲシテ債務ヲ免カレシムル所以ハ他方ニ於テ債權者カ直ニ供託物ノ交付ヲ請求スル債權ヲ取得スルカ爲メナリ且第四百九十六條第一項ニ依レハ債權者カ供託ヲ受諾セサル間ハ供託者ハ供託物ヲ取戻スコトヲ得ルモノトス此規定ニ依レハ供託ヲ受諾スル以前ニ既ニ債權者カ權利ヲ取得セルモノトナササルヘカラス蓋若シ債權者カ供託ヲ受諾スル以前ニハ權利ヲ取得セサルモノトナストキハ此規定ナキモ供託者ハ自由ニ供託物ヲ取戻スコトヲ得ヘク特ニ

此規定ニ依リ供託者ニ取戻權ヲ認ムル必要ナク從テ同規定ハ不必要トナルヘキカ故ナリ法律カ供託者ニ取戻權ヲ認ムルハ畢竟債權者カ既ニ權利ヲ取得セルカ爲メ供託者ニ債權者ノ權利ヲ消滅セシムル權利ヲ與フルニ外ナラス故ニ第四百九十六條第一項ノ規定ニ依リ債權者カ既ニ供託ニ因リテ債權ヲ取得セルモノナルコトヲ證スルヲ得ヘシ【註七】

【註五】 供託ヲ以テ第三者ノ爲メニスル契約トナスノ説ハ獨普通法ニ於テ一般ニ認メラレタル所ナリ Windscheid § 316C, Dernburg, Pandekten B, II § 61 Anm. 9, Regelsberger, Kritische Vierteljahrschrift B, 11 S. 565 fg, Gareis, Verträge zu Gunsten Dritter S. 213 fg, Kohler, Jahrb.f. Dogm. B. 17 S. 317 fg, Hirsch, Gläubigerverzug S. 285 此見解ハ獨民法ニ於テモ通説タリ Hellwig, S. 445, Dernburg § 124 II, Enneccerus § 290, Planck S. 231, Schollmeyer S. 300, Crome § 189 Anm. 32, Ortmann S. 271, Kuhlenbeck S. 295, Müller S. 471 fg, Rosenberg S. 234, Beer § 10

【註六】 Unger, Jahrb. f. Dogm. B. 10 S. 48 fg, Ulrich, Deposition und Dereliction S. 44 fg, Czylarz, Grünhuts Zeits. B. 6 S. 683 Anm. 55, Ortmann, Arch. f. civilist. Prax. B.

【註七】債權者ハ利益ヲ享受スルノ意思ヲ表示スルコトヲ要セス直ニ供託所ニ對シ權利ヲ取得スルモノトナストキハ第五百三十七條第二項ノ規定ト矛盾ス蓋同規定ニ從ヘハ第三者タル債權者ノ權利ハ債務者タル供託所ニ對シテ契約ノ利益ヲ享受スル意思ヲ表示シタル時ニ發生スヘキモノナルカ故ナリ然レトモ第五百三十七條第二項ノ規定ハ當ヲ得タルモノニアラス第三者ノ爲メニスル契約ノ本質ヨリ論スレハ第三者ハ要約者諾約者ノ契約ノミニ因リテ直ニ權利ヲ取得スルモノトナスコトヲ要ス近世ノ立法カ特ニ第三者ノ爲メニスル契約ナル制度ヲ認ムルハ契約ハ當事者以外ノ者ニ其效力ヲ及ホサストノ羅馬法ノ原則ヲ打破シ契約ト全ク關係ナキ第三者カ權利ヲ取得スルコトヲ得ルコトヲ認ムルカ爲メナリ若シ第三者カ受益ノ意思ヲ表示ヲ爲スニ依リテ始メテ權利ヲ取得スルモノトナサハ第三者ノ爲メニスル契約ヲ認ムルヲ要セス通常ノ契約ノ場合ト同シク第三者ハ承諾ヲ爲シ契約ノ當事者トシテ其權

利ヲ取得スルモノトナスコトヲ得ヘシ且第五百三十七條第一項ハ契約ニ依リ當事者ノ一方カ第三者ニ對シ或給付ヲ爲スヘキコトヲ約シタルトキハ其第三者ハ債務者ニ對シ直接ニ其給付ヲ請求スル權利ヲ有スル旨ヲ定ム故ニ此規定ニ從ヘハ我法典ニ於テモ第三者ハ單ニ要約者諾約者間ノ契約ノミニ因リテ權利ヲ取得スルモノト解セサルヘカラス從テ表面ヨリ觀察スレハ第五百三十七條第一項ト同條第二項トハ相調和セズ蓋若シ第一項ノ規定スルカ如ク要約者諾約者間ノ契約ニ因リテ第三者カ權利ヲ取得スルモノトナストキハ第三者カ自ラ其利益ヲ享受スヘキ意思ヲ表示スルコトヲ要スヘキ理由ナキカ故ナリ故ニ此矛盾ヲ調和セントセハ我法典ハ第三者ノ權利ハ要約者諾約者間ノ契約ニ因リテ發生スルモ第五百三十七條第二項ノ規定ニ依リ第三者ノ受益ノ意思表示ヲ條件トシテ之ニ係ラシメタルモノト解スルノ外ナシ故ニ理論ヨリ云ヘハ第三者ハ要約者諾約者ノ契約ノミニ因リテ直ニ權利ヲ取得スルモノトナスコトヲ要ス從テ法律カ第三者ノ受益ノ意思表示ヲ要セス直ニ

權利ヲ取得スヘキコトヲ定メタル場合ニハ第三者ハ直ニ其權利ヲ取得スルコトヲ得ヘク而モ第三者ノ爲メニスル契約タル性質ヲ失ハサルモノトナササルヘカラス法律カ第三者ヲシテ直ニ權利ヲ取得セシムルハ例ヘハ商法第四百二條第四百二十一條等ノ如シ供託モ亦之ト同一ニ論シ債權者ハ受益ノ意思表示ヲ爲スコトヲ要セス直ニ供託所ニ對シ權利ヲ取得スルモノトナスコトヲ得ヘシ

以上論スル所ニ依リ供託ハ寄託契約ト第三者ノ爲メニスル契約ヲ含ムモノト解セサルヘカラス而シテ此二箇ノ契約ノ中或ハ寄託ニ重キヲ置キテ供託ヲ寄託契約若クハ其變態ト稱スル者アリ【註八】然レトモ供託ノ主要ナル目的ハ寄託ニ在リト云フコトヲ得ス辨濟者カ供託ヲ爲スハ債權者ノ爲メニス故ニ供託ノ主要ナル目的ハ供託所ヲ通シテ債權者ヲシテ辨濟ノ物體ヲ取得セシムルニ在リ寄託ハ單ニ之カ從トシテ爲サルニ過キス即供託ハ債權者カ直ニ給付ヲ受領セサルカ爲メ供託所ヲシテ其物體ヲ保管セシムルニ外ナラス故ニ供託ヲ寄託契約ト稱スルハ供託ノ本質ヲ示スモノト云フヲ得ス然

レトモ又供託ヲ以テ第三者ノ爲メニスル契約ト稱スルハ當ヲ得タルモノニアラス若シ第三者ノ爲メニスル契約ナリトセハ辨濟者カ供託所ニ供託ヲ爲ス所以ハ之ヲ説明スルヲ得サルヘシ故ニ寧供託契約ナル獨立ノ種類ヲ認ムルヲ適當トス且供託ニ關シテハ寄託ニ關スル規定及ヒ第三者ノ爲メニスル契約ニ關スル規定ト異ナリタル特別ノ規定存スルカ故ニ獨立ノ種類ノ契約トシテ之ヲ認メサルヘカラス【註九】【註一〇】

【註八】 Helwig S. 441, Schollmeyer S. 300, Müller S. 470

【註九】 Beer a. a. O. § 9

【註一〇】 以上論スル如ク供託ヲ以テ寄託及ヒ第三者ノ爲メニスル契約ヲ含ムモノトナスヲ以テ通説トス或ハ之ニ對シテ供託ヲ以テ辨濟ノ申込トナス説アリ(Bähr, Gegenentwurf zu dem Entwurf eines B. G. S. 60, Endemann I An H. S. 639)此説ニ從ヘハ債務者ハ供託ニ依リ辨濟ノ申込ヲ爲シ債權者カ之ヲ承諾スルニ依リ辨濟カ成立スルモノトナス供託者カ供託ヲ爲シタル旨ヲ債權者ニ通知スルコトヲ要スル點ヨリ見レハ(第四百九十五條

第三項或ハ此ノ如ク解スルコトヲ得ルカ如シ然レトモ此說ノ採ルヘカ
ラサルハ殆論ヲ俟タスシテ明カナルヘシ此說ニ從フトキハ供託ヲ以テ
申込ト爲スカ故ニ債權者ハ之ヲ承諾スルニ依リテ始メテ權利ヲ取得ス
ルコトヲ得ヘシ然ルニ債權者ハ供託ニ依リ直ニ供託物ノ交付ヲ請求ス
ル權利ヲ取得スルカ故ニ供託ヲ以テ辨濟ノ申込ト解スルコトヲ得ス更
ニ債權者カ供託物ノ交付ヲ請求スル權利ハ縱令債權者カ供託ヲ受諾セ
サルモ消滅セサルニ依リテ見レハ供託ヲ以テ申込ト解スルコトヲ得サ
ルハ明カナリ

第二款 供託者

供託者

供託ハ辨濟ノ代用方法ナルカ故ニ債務者カ供託ヲ爲スコトヲ得ルハ云フ
ヲ俟タス更ニ第三者カ辨濟ヲ爲スコトヲ得ル場合ニハ其第三者モ亦供託ヲ
爲スコトヲ得是レ第四百九十四條ニ於テ「辨濟者」ナル文字ヲ用ユルニ依リテ
明カナリ且第三者ノ辨濟ヲ認ムル理由ヨリ推ストキハ第三者ハ供託ヲ爲ス

コトヲ得ルモノト爲ササルヲ得ス供託ハ主トシテ債權者ノ受領遲滯ヲ原因
トス而シテ債權者ハ第三者ノ辨濟ヲ拒ミタル場合ニ於テモ受領遲滯ノ責ニ
任ス故ニ第三者ハ債務者ト同シク供託ヲ爲スコトヲ得ルモノト爲ササルヘ
カラス然ラサレハ第三者ノ辨濟ヲ認メタル主旨ハ之ヲ貫徹スルヲ得サル結
果トナルヘシ【註一】

【註一】 我法典ノ解釋トシテ第三者モ亦供託ヲ爲スコトヲ得ルモノト解
スルヲ正當トス唯多少疑義ヲ挾ムノ餘地アルハ第四百九十四條ニ於テ
「辨濟者ハ債務者ノ爲メニ辨濟ノ目的物ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルコト
ヲ得」ト規定セルカ故ニ文字解釋上其債務ト云フハ辨濟者其人ノ債務ヲ
云ヒ又免ルルコトヲ得ト云フハ債務者カ自己ノ債務ヲ免ルルコトヲ云
フモノト解スルヲ正當トスヘク從テ同條ハ廣ク辨濟者ト云フモ之ヲ制
限シ債務者ノミヲ云フモノト解スヘキカ如シ然レトモ上述セルカ如ク
法典ハ債務者ノミヲ指ス場合ニハ債務者ナル文字ヲ用ヒ第三者ヲ加フ
ル場合ニハ特ニ辨濟者ナル文字ヲ用ユルニ依リテ見レハ(例ヘハ第四百

七十條、第四百八十六條、第四百八十七條、第四百八十八條、第四百八十九條、第四百九十一條、辨濟者ナル文字ニ重キヲ置キテ之ヲ解セサルヘカラス且理論上第三者ノ供託ヲ認ムルヲ正當トスヘキカ故ニ辨濟者ナル文字ハ之ヲ廣ク解シ第三者ヲ含ムモノトナササルヘカラス

之ヲ立法ニ見ルニ獨普通法ノ通説ニ於テハ第三者モ亦供託ヲ爲スコトヲ得ルモノト爲ス (Vergl. Beer, Hinterlegung S. 8, Anm. 1. Czychlarz, Grünhuts Zeits. B. 6 S. 663) 之ニ反シテ獨民法ニ於テハ通説ハ債務者ノミ供託ヲ爲スコトヲ得ルモノトナス (Helwig, S. 442 Anm. 890, Beer S. 9. Planck S. 232. Schollmeyer S. 299. Jhneccerus S. 176. Urtmann S. 273) 獨民法ニ於テ債務者ノミカ供託ヲ爲スコトヲ得ルモノトナス根據ハ主トシテ法典ノ文字ニ存ス即第三百七十二條ニ於テ「債務者」カ供託ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨ヲ規定シ又辨濟ニ關スル第二百六十七條ニ於テハ第三者ハ辨濟ヲ爲スコトヲ得ト規定スルニ止マル故ニ第三者ハ辨濟ト其性質ヲ異ニスル供託ヲ爲スコトヲ得ストナス之ニ由リテ觀レハ獨民法ノ解釋家カ第三者ノ供託ヲ

認メサルハ主トシテ法典ノ文字ニ基ク、有力ナル理論上ノ根據アルニアラス從テ獨民法草案理由書 (Motive S. 98) ハ第三者モ供託ヲ爲スコトヲ得ルモノトシ又一派ノ學者ハ第三者モ亦供託ヲ爲スコトヲ得ルモノトス (Mühsam, Gerichtliche Hinterlegung S. 33)

第三款 供託所

供託所

供託所ハ公ノ設備ヲ以テ之ニ充ツルヲ適當トス蓋公ノ設備ハ供託物ノ滅失、毀損等ノ危險ヲ防キ其保管最モ安全ナルカ故ナリ之ヲ一私人ノ保管ニ委スルトキハ或ハ其保管者ノ過失ニ因リ供託物ヲ滅失、毀損セシムル危險多シ固ヨリ保管者ヲシテ損害賠償ノ責ニ任セシムルコトヲ得ヘシト雖モ損害賠償ハ必スシモ完全ナル救済方法ニアラス〔註〕我法典モ亦之ニ從ヒ原則トシテ公ノ設備ヲ以テ供託所トナス即チ金錢及ヒ有價證券ノ供託ニ關シテハ金庫ヲ以テ供託所トナス(供託法第一條)從テ東京ニ於テハ中央金庫、地方ニ於テハ本金庫及ヒ支金庫ヲ以テ供託所トス(金庫規則第三條)金錢及ヒ有價證券ニ

第三編 債權

第一部 債權總論

第四節 供託

第六章 債權ノ消滅

一四九三

アラサル物品ニ關シテハ司法大臣ノ指定セル倉庫營業者ヲ以テ供託所トナシ指定セラレタル倉庫營業者ハ其營業ノ部類ニ屬スル物ハ其保管シ得ヘキ數量ニ限リ之ヲ保管スル義務ヲ負フモノトス(供託法第五條)而シテ辨濟者カ供託ヲ爲スヘキ供託所ハ債務履行地ニ在ルモノタルコトヲ要ス(第四百九十五條第一項)是レ供託ハ履行ノ代用タルカ故ナリ

供託所ニ付キ別段ノ定メナキ場合ニハ裁判所ハ辨濟者ノ請求ニ因リ供託所ノ指定及供託物保管者ノ選任ヲ爲スコトヲ要ス(第四百九十五條第二項)是レ前述セル供託法第一條又ハ第五條ニ依リ供託所ヲ定ムルヲ得サル場合ニ適用アルモノニシテ此場合ニハ裁判所ノ指定ニ依リテ供託所ヲ定ム而シテ供託所ノ指定及ヒ保管者ノ選任ハ債務履行地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス(非訟事件手續法第八十一條)

辨濟者カ適法ノ供託所ニ供託ヲ爲ササル場合ニハ供託ハ無効ナリ從テ辨濟者カ供託ヲ爲セル場所ハ法令ノ定ムル供託所ナルモ履行地以外ノモノタル場合ナルトキハ供託ハ無効ナリトス

【註一】 供託所ニ關シテハ從來ノ立法ニ於テ種種ノ沿革ヲ經タリ當初羅馬法ニ於テハ債務者カ其手許ニ給付ノ物體ヲ分離シ之ヲ保管スルニ依リテ供託ノ效力ヲ生スルモノトセリ然レトモ羅馬法ニ於テモ尙第三者ニ供託スルノ方法ヲモ認メ且一私人ニ供託スルハ物體ヲ保管スルニ安全ナル方法ニアラサルカ故ニ帝政時代ニ至リテ寺院其他公ノ設備ニ供託ヲ爲スヘキモノトセリ獨逸法ニ於テハ從來裁判所ヲ以テ供託所トナシ羅馬法繼承後ニ於テモ尙裁判所ヲ以テ供託所トナセリ然レトモ普國法ハ行政官廳ヲ以テ供託所トナシ獨逸民法ハ其施行法第一百四十四條ニ於テ供託所ニ關シテハ各聯邦法ノ定ムル所ニ從フヘキモノトス而シテ各國ニ於テハ其規定種種ニ岐レ或ハ裁判所ヲ以テ供託所トナスモノ或ハ行政官廳ヲ以テ供託所トナスモノ或ハ金庫ヲ以テ之ニ充ツルモノ或ハ又供託ノ物體ヲ異ニスルニ從ヒ供託所ヲ異ニスルモノ等アリ然レトモ民法第三百七十二條ニ於テ供託ハ必ス公ノ場所ニ之ヲ爲スコトヲ要スルモノトナシ一私人ニ供託スルヲ得サルモノトス佛法ニ於テハ金庫

ヲ以テ供託所トナス(佛民法第千二百五十九條第一項一八一六年六月三日命令)瑞債務法ニ於テハ裁判官カ供託所ヲ定ムヘキモノトナスモ債務者ハ之ニ依ラス倉庫ニ供託スルコトヲ得ルモノトス(瑞債務法第九十二條第二項)

第四款 供託ノ物體

供託ノ物體

供託ノ物體ハ辨濟ノ物體ナリトス從テ辨濟ノ物體ニアラサル物ヲ供託スルモ供託ノ效果ヲ生セス而シテ一部辨濟ヲ許ササルヲ原則トスルカ故ニ又一部供託ヲ許サス

供託ヲ爲スコトヲ得ヘキ物體ノ範圍ニ關シテ各國立法ハ一般ニ制限ヲ設ケ明文ヲ以テ之ヲ示スト雖モ我國法ニ於テハ之ヲ列舉スル所ナシ然レトモ供託法第一條及ヒ第五條ノ規定ニ依リテ供託ノ物體ハ自ラ制限セラレル結果トナルヘシ即金錢及ヒ有價證券ハ之ヲ金庫ニ供託シ其他ノ物品ハ倉庫營業者ニ寄託スヘキモノトナスカ故ニ金錢、有價證券以外ノ物品ニ付テハ倉庫

營業者ノ營業ノ部類ニ依リテ供託ノ物體ハ自ラ制限ヲ受クヘシ從テ我國法ニ於テハ不動産ノ供託ハ之ヲ認ムルヲ得ス又權利カ供託ノ物體タルヲ得サルハ第四百九十四條以下ノ規定ニ於テ辨濟ノ目的物又ハ供託物ト云ヒ有體物ノミニ限レルニ依リテ明カナリ【註一】

【註一】供託ヲ爲スコトヲ得ヘキ物體ノ範圍ニ關シテハ從來ノ立法必スシモ一致セス獨普通法ニ於テハ議論岐ルト雖モ通説ハ動産ハ凡テ供託スルコトヲ得ルモノトナシ不動産ニ關シテハ拋棄ニ依リテ債務ヲ免ルルコトヲ得ルモノトナシ其供託ハ之ヲ許ササルモノトナス(Windscheid § 347, Kohler, Jahrb. f. Dogm. B. 17 S. 344) 獨民法ハ供託ヲ爲スコトヲ得ヘキ物體ノ範圍ヲ金錢、有價證券其他ノ證券及ヒ有價物ノミニ限定シ不動産ハ占有ノ拋棄ニ因リテ債務ヲ免ルルコトヲ得ルモノトス(第三百七十二條、第三百三條)然レトモ各聯邦ノ法律ヲ以テ尙供託ノ物體タルコトヲ得ヘキ物ヲ定ムルコトヲ得ルモノトナス(施行法第四百四十六條)

第五款 供託ノ原因

供託ノ原因

供託ハ債務者ノ緊急状態ヲ救済スル方法トシテ認メラルモノナルカ故ニ特別ノ原因存スル場合ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得即債務者カ辨濟ヲ爲スコト能ハサルカ又ハ辨濟ヲ爲スコト困難ナル場合ニ於テノミ供託ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(第四百九十四條)

(一) 債權者カ辨濟ノ受領ヲ拒ミ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキ是レ主トシテ債權者カ受領遲滞ノ責ニ任スル場合ヲ云フ(第四百十三條)然レトモ必スシモ債權者ノ遲滞ノ場合ノミニ限ラス蓋債權者ノ遲滞ヲ生スルニハ給付ノ提供アルコトヲ要ス從テ辨濟者カ始ヨリ提供ヲ爲スコト能ハサル場合ニハ債權者ハ受領ノ遲滞ナクシテ而モ給付ヲ受領スルコト能ハサル場合タリ例ヘハ債權者ノ不在ノ爲メ若クハ事變ノ爲メ提供ヲ爲スコト能ハサル場合債權者カ未成年者ニシテ法定代理人ナキカ爲メ提供ヲ爲スコト能ハサル場合債權者カ差押ヘラレタルカ爲メ第三債務者カ辨濟ヲ爲スコト能ハサル

ル場合等ノ如シ此等ノ場合ニハ債權者ハ受領遲滞ノ責ニ任セサルモ尙給付ヲ受領スルコト能ハサル場合タリ從テ此等ノ場合ニハ辨濟者ハ提供ヲ爲サスシテ直ニ供託ヲ爲スコトヲ得更ニ債權者カ客觀的ニ不確定ナル場合モ亦債權者カ給付ヲ受領スルコト能ハサル場合ナルカ故ニ辨濟者ハ直ニ供託ヲ爲スコトヲ得客觀的ニ不確定トハ單ニ辨濟者ノミニ債權者カ不確定ナルノミナラス一般ニ不確定ナルヲ云フモノナルカ故ニ客觀的ニ不確定ノ場合ハ主觀的ニモ不確定ナルハ言フヲ俟タス例ヘハ相續人曠缺シ且相續財產ノ管理人ナキ場合ノ如シ從テ此場合ニハ尙主觀的ニ不確定ノ場合ノミヲ規定セル第四百九十四條後段ノ規定ヲ適用スルコトヲ得ヘシ

(二) 辨濟者ノ過失ナクシテ債權者ヲ確知スルコト能ハサルトキ 是レ主觀的ニ債權者ノ不確定ナル場合ヲ云フ即客觀的ニハ債權者ハ存スルモ辨濟者カ債權者ノ何人ナルヤヲ知ルコトヲ得サル場合ヲ云フ例ヘハ債權者主張スル者數人アリテ孰レカ債權者ナルカヲ知ルコトヲ得サル場合債權者ノ權利渡アリタル場合ニ讓受人カ真正ノモノナリヤ否ヤ疑アル場合債權者ノ權利

證明ノ用ニ供セル證書カ不完全ナルカ爲メ債權者タルヤ否ヤ疑アル場合、債權者數人アル場合ニ連帶債權者ナリヤ分割債權者ナリヤ明カナラス又ハ分割債權ナルモ各自ノ部分明カナラサル場合ノ如シ而シテ單ニ法律上債權者カ何人ナリヤヲ確知スルヲ得サル場合ノミナラス事實上債權者ヲ確知スルヲ得サル場合ヲモ含ム且辨濟者カ債權者ヲ確知スルコト能ハサル原因ハ之ヲ問フ所ナシ然レトモ辨濟者カ債權者ヲ確知スルコト能ハサルハ其過失ニ基カサルコトヲ要ス即辨濟者カ善良ナル管理者ノ注意ヲ用ヒテ債權者ノ何人ナルカヲ知ルヘキコトヲ力メタルモ尙確知スルコト能ハサル場合ニ於テノミ供託ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

以上二箇ノ場合ニ於テノミ供託ヲ爲スコトヲ得

第六款 供託ノ成立

供託ノ成立

供託カ有效ナルカ爲メニハ以上述ヘタル要件ヲ具備スルコトヲ要ス即辨濟者カ供託ニ適スル物體ヲ適法ノ供託所ニ供託スルコトヲ要ス而シテ既ニ

論セルカ如ク供託ハ寄託契約ナルカ故ニ要物契約タル性質ヲ有シ供託者カ供託物ヲ供託所ニ交付スルニ依リテ始メテ成立ス更ニ供託ハ第三者ノ爲メニスル契約ヲ含ムカ故ニ辨濟者ハ其利益ヲ享受スヘキ第三者即債權者ヲ指定スルコトヲ要ス從テ若シ辨濟者カ錯誤ニ因リ債權者ニアラサル者ヲ享益者トシテ指定セル場合ニハ眞正ノ債權者ノ爲メニ供託ハ成立セス從テ供託ハ第三者ノ爲メニスル契約トシテ無効ナリトス(供託法第九條)

辨濟者カ供託ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク債權者ニ其供託ヲ通知スルコトヲ要ス(第四百九十五條第二項)蓋供託ハ供託者ト供託所トノ行爲ナリト雖モ債權者ハ密接ナル利害關係ヲ有スルカ故ニ法律ハ供託者ニ供託通知ノ義務ヲ負ハシム供託ノ通知ニ依リテ債權者ハ供託アリタルコトヲ知ルヲ得ヘク從テ速ニ供託物ヲ受領スルコトヲ得ル利益アリ供託ハ供託者、供託所間ノ契約ニ依リテ成立スルカ故ニ債權者ニ對スル供託ノ通知ハ供託成立ノ要件ニアラス供託ノ通知ナキモ供託ハ有效ニ成立ス然レトモ債權者カ供託物ノ交付ヲ請求スル場合ニ其手續ノ爲メニ供託通知書ヲ要スルカ故ニ(供託物取扱

規程第九條第一號債權者ハ供託者ニ對シ供託通知書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得ヘシ又債權者ハ供託ノ通知ナキカ爲メ供託アリタルコトヲ知ラス供託物ノ交付ヲ請求スルヲ得サリシカ爲メ損害ヲ受ケタルトキハ其賠償ヲ請求スルヲ得ヘシ蓋此損害ハ供託者ノ通知義務不履行ノ爲メニ生シタルモノナルカ故ナリ【註一】

供託ノ通知ハ事實ノ通知ナリ故ニ實際供託アリタル場合ニアラサレハ其效力ヲ生スルコトナシ從テ供託ノ通知ハ意思表示ニアラス然レトモ第九十七條第一項ヲ準用シ債權者ニ到達スルニ因リテ其效力ヲ生ス

此ノ如ク供託者ハ債權者ニ供託ノ通知ヲ爲スヘキ義務ヲ負擔スト雖モ客觀的ニ債權者ヲ確知スルコト能ハサルカ爲メ供託ヲ爲ス場合ニハ供託ノ通知ヲ爲スコトヲ得ス從テ此場合ニハ法典ニ規定ヲ缺クト雖モ供託者ハ通知ヲ爲スコトヲ要セス即縱令供託ノ通知ヲ爲ササルモ損害賠償ノ義務ナキモノト解セサルヘカラス

尙供託ノ手續ニ關シテハ供託物取扱規定(明治三十二年三月十六日大藏省

令第六號ニ之ヲ定ム

【註一】獨民法第三百七十四條第二項ハ特ニ供託者カ損害賠償義務ヲ負フ旨ヲ定ム

第七款 供託ノ效力

第一項 供託者、供託所間ノ關係

供託ニ依リ供託者、供託所間ニ寄託契約カ成立スルト同時ニ第三者ノ爲メニスル契約成立ス從テ供託ニ依リ供託者、供託所間ニ法律關係ヲ生スルト共ニ供託所、債權者間ニ法律關係ヲ生ス先ツ供託者、供託所間ニ於ケル關係ニ付キ論セン

供託者、供託所間ニ於ケル寄託契約ノ效力ハ先ツ當事者ノ契約ノ定ムル所ニ從フコトヲ要スト雖モ當事者カ特別ノ定メヲ爲ササル場合ニハ供託ノ性質ノ許ス範圍ニ於テ寄託ニ關スル規定ヲ適用スヘシ非訟事件手續法第八十二條ハ特ニ裁判所ノ選任セル保管者ニ關シテハ寄託ニ關スル規定ヲ準用ス

供託ノ效力

供託者、供託所間ニ於ケル效力

ヘキ旨ヲ規定ス

一五〇四

供託者カ供託所ニ對シテ有スル最重要ナル權利ハ供託物ノ取戻權ナリトス(第四百九十六條取戻權ハ各國立法佛民法第千二百六十一條獨民法第三百七十六條瑞債務法第九十四條)ノ認ムル所ナリ以下之ヲ分チテ説明スヘシ

取戻權ノ性質
取戻權ノ性質ニ關シテハ議論岐レ或ハ取戻權ヲ以テ寄託者カ受寄者ニ對スル寄託物返還請求權ナリトナス【註二】或ハ取戻權ヲ以テ供託ヲ撤回シ之ニ因リテ債權者ノ權利ヲ消滅セシムル權利ナリトナス即取戻權ハ請求權ニアラス形成權ノ一種タル撤回權(Widerrufrecht)ナリト解ス此說ニ依レハ撤回權ヲ行使シ債權者ノ權利ヲ消滅セシムルニ因リテ始メテ供託物返還請求權ヲ生スルモノトナス【註三】後說ニ從ヒ取戻權ハ之ヲ撤回權ト解スルヲ以テ正當ナリトス蓋取戻權ヲ以テ寄託物返還請求權トナス見解ハ供託カ寄託契約タル性質ノミニ著眼スルカ爲メナリ然レトモ若シ寄託物返還請求權トナストキハ第六百六十二條ノ規定ニ依リ寄託者ハ何時ニテモ寄託物ノ返還ヲ請求スル權利ヲ有スルカ故ニ特ニ第四百九十六條ノ規定

アルヲ必要トセサルヘシ且既ニ論セルカ如ク供託ハ同時ニ第三者ノ爲メニスル契約タル性質ヲ有シ債權者ハ供託ニ基キテ供託物ノ交付ヲ請求スル權利ヲ取得スルカ故ニ若シ供託者カ供託物返還ノ請求權ヲ有スルモノトナストキハ二箇ノ請求權ノ競合ヲ生ス從テ供託者ノ取戻權ヲ以テ撤回權ナリトシ其行使ニ因リテ債權者ノ權利ヲ消滅セシムルモノト解スルコトヲ要ス即供託ニ依リ債權者ハ供託物ノ交付ヲ請求スル權利ヲ取得スルモ供託者カ取戻權ヲ行使シ第三者ノ爲ニスル契約ヲ消滅ニ歸セシムルトキハ寄託契約ノミ存在スルニ至ルカ故ニ供託者ハ寄託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス唯第四百九十六條ニ於テ供託物ヲ取戻スコトヲ得ナル文字ヲ用ユルニ依リテ見レハ取戻權ハ請求權タル性質ヲ有スルモノト解スヘキカ如シ然レトモ撤回權タル取戻權ヲ行使セル結果トシテ取戻請求權ヲ生ス從テ實際ニ於テハ撤回權ヲ行使スルト同時ニ取戻請求權ヲ行使スルヲ通常トス是レ法典カ取戻ナル文字ヲ用ユル所以ナリ

取戻權ヲ認ムル理由ニ關シテモ亦學說岐ル一派ノ學說ニ依レハ供託カ適

法ナリヤ否ヤ不定ナル場合ニ債務者ヲ保護スルカ爲メ取戻權ヲ認ムルモノトス即債務者カ供託ヲ爲スモ其適法ナリヤ否ヤ不定ニシテ直ニ之ヲ解決スルヲ得サル場合アリ而モ不定ノ期間ハ或ハ長キニ亘ルコトナシトセス此ノ如キ不定ノ期間ニ債務者カ供託物ヲ取戻スコトヲ得サルモノトナスハ債務者ニ酷ニシテ且供託ノ實際ノ目的ニ合セス故ニ取戻ヲ認メサルヘカラストナス【註三】然レトモ此見解カ取戻權ヲ認ムル理由ヲ明カニスルニ足ラサルハ殆論スルヲ要セス蓋撤回權ハ供託ヲ撤回シ債權者カ既ニ取得セル權利ヲ消滅ニ歸セシムル權利ナルカ故ニ供託カ適法ニ成立セル場合ニノミ之ヲ行使スルコトヲ得ルモノニシテ供託カ不適法ナル場合ニハ撤回ヲ俟タスシテ供託物ヲ取戻スコトヲ得ヘシ且此說ニ從フトキハ後ニ論スルカ如ク債權者ノ供託ノ受諾、供託ヲ有效ト宣告シタル判決ノ確定等カ取戻權消滅ノ理由タル所以ハ之ヲ説明スルヲ得サルニ至ルヘシ故ニ此見解ニ從フコトヲ得ス從テ取戻權ヲ認ムル理由ハ供託カ辨濟者ノ利益ノ爲メニ爲サルルカ爲メナリト云ハサルヘカラス蓋供託ハ辨濟者ノ利益トシテ其緊急状態ヲ救フカ爲メニ

認メラレタルモノナリ故ニ供託者ハ又單獨行爲ヲ以テ其利益ヲ拋棄シ供託ヲ撤回スルコトヲ得ルモノトナササルヘカラス

【註一】 Windscheid § 247 Anm. 26, Stammer S. 236, Schollmeyer S. 306

【註二】 Hellwig S. 447, Beer S. 70, Kohler, Arch. f. B. R. § 8 S. 223, Müller S. 488, Planck S. 234, Kuhnbeck S. 299

【註三】 Motive S. 98, Planck S. 238

取戻權ノ行使

(一) 取戻權ノ行使 取戻權ハ形成權ナルカ故ニ供託所ニ對シ撤回ノ意思ヲ表示スルニ依リテ之ヲ行使スルコトヲ得債權者ニ對シ撤回ノ意思ヲ表示スルコトヲ要セス然レトモ撤回ノ意思表示ハ必スシモ明示タルコトヲ要セス或ハ直接ニ供託物ノ取戻ヲ爲スニ依リ或ハ取戻ノ訴ヲ提起スルニ依リテ之ヲ表示スルコトヲ得ヘシ而シテ供託者カ供託ヲ撤回スルニ因リテ債權者カ供託ニ基キテ取得セル權利ハ當然消滅スルモノトス

(二) 取戻權ノ效力 取戻權ノ行使ニ依リ供託ヲ爲ササリシモノト看做サル(第四百九十六條第一項後段)即取戻ハ遡及力ヲ有シ當初ヨリ供託ナカリ

取戻權ノ效力

シト同一ノ效果ヲ生ス從テ一旦供託ニ因リテ消滅セル債權ハ復活ス且債權ハ其當初ノ状態ニ於テ復活スルカ故ニ債務者ハ當初ヨリノ利息ヲ支拂フコトヲ要ス供託ノ撤回ニ依リテ債權ニ從タル權利殊ニ擔保權ヲ復活スルヤ否ヤニ關シ法典ニ規定ヲ缺ク然レトモ第四百九十六條第一項後段ニ於テ「供託ヲ爲ササリシモノト看做ス」ト云ヒ債權ノミカ復活スヘキ旨ヲ規定セサルニ依リテ見レハ擔保權モ亦復活スルモノト解スヘク又同條第二項ニ於テ質權又ハ抵當權カ供託ニ因リテ消滅セル場合ニ取戻權ヲ認メサルハ後ニ述フルカ如ク此等ノ擔保權カ復活シ第三者ヲ害スル結果ヲ生スルカ爲メナリト解スヘキカ故ニ此點ヨリ見ルモ取戻ニ依リ擔保權ハ復活スルモノトナササルヘカラス更ニ若シ取戻ニ依リ擔保權カ復活セサルモノトナストキハ債務者ハ一旦供託ヲ爲シ更ニ直ニ之ヲ取戻スニ因リテ擔保權ヲ消滅セシムルコトヲ得ヘク債務者一方ノ行爲ニ依リ債權者ニ損害ヲ與フルヲ得ルコトトナルヘシ故ニ取戻ニ依リ債權ニ從タル權利モ亦復活スルモノト解セサルヘカラス從テ質權及ヒ抵當權ハ第四百九十六條第二項ノ規定アルカ爲メ復活スル

取戻權ノ消滅

コトナシト雖モ其他ノ擔保特ニ保證債務ハ取戻ニ依リ復活スルモノトス

(四) 取戻權ノ消滅 取戻權ハ左ノ事由ニ因リテ消滅ス(第四百九十六條)

(一) 債權者カ供託ヲ受諾シタルトキ 債權者ノ供託ノ受諾カ取戻權ヲ消滅セシムル理由ニ關シテハ學說岐レ或ハ債權者ノ受諾ハ債權者カ供託ノ適法ナルコトヲ認ムルノ意思表示ナルカ爲メナリトナス〔註四〕此見解ハ供託者カ取戻權ヲ有スルハ供託カ適法ナリヤ否ヤ不確定ナルカ爲メナリトナスニ基ク從テ債權者カ其適法ナルコトヲ承認スル場合ニハ取戻ヲ爲スコトヲ得ストナスモノナリ然レトモ供託カ法律ノ規定スル要件ニ適合セサル場合ニハ供託ハ適法ニアラス而シテ供託カ不適法ナル場合ニハ實ハ供託ハ其效力ヲ生セサルカ故ニ第四百九十六條ヲ適用スル餘地ナシ從テ供託ノ撤回ナルモノナシ供託ノ撤回ハ供託カ適法ニ成立スル場合ナルコトヲ前提トス若シ供託カ不適法ナルトキハ縱令債權者カ供託ヲ受諾スルモ尙撤回スルヲ得サルヘカラス故ニ此說ノ說クカ如ク債權者カ供託ヲ適法ナリト認メタルカ爲メニ撤回權カ消滅スルモノトナスコトヲ得ス之ニ由リテ觀レハ受託ノ意

思表示ハ債權者カ既ニ取得セル權利ノ行使ナリト爲ササルヘカラス即債權者ノ權利ノ行使ニ依リ債權者ノ取得セル權利ノ撤回ヲ許ササルモノト解スヘシ【註五】受諾ノ意思表示ハ何人ニ對シテ爲スヘキヤニ關シ法典ハ規定ヲ缺ク然レトモ上述セルカ如ク受諾ハ債權者カ供託所ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ要スルモノト爲ササルヘカラス而シテ受諾ノ意思表示ハ供託所ニ到達スルニ依リテ其效力ヲ生ス(第九十七條)

(二) 供託ヲ有效ト宣告シタル判決カ確定シタルトキ 判決カ取消權ヲ消滅セシムル理由ニ關シテモ亦見解岐レ或ハ判決ニ依リ供託カ有效ナリヤ否ヤ不定ノ状態カ除去セラレ供託カ有效ナリト確定スルカ故ニ取戻權ハ消滅スルモノトス【註六】然レトモ供託カ有效ナリト確定スルモ之カ爲メニ供託者カ取戻權ヲ失フモノトナスヘキ理由ナシ蓋若シ判決カ供託ヲ有效ナリト宣告シタルカ爲メ取戻權カ消滅スルモノトナストキハ供託カ適法ニシテ始ヨリ有效ナリヤ否ヤニ關シ爭ナキ場合ニハ取戻權ナキモノト解スルコトヲ要スルニ至ルカ故ナリ故ニ判決アリタル場合ニ取戻權カ消滅スルハ債權者

ノ供託ノ受諾又ハ供託者ノ取戻權ノ拋棄アリタルカ爲メナリトナササルヲ得ス即債權者カ供託ノ適法ナルコトヲ主張シ判決カ之ニ從ヒ供託ヲ有效ナリト宣告シタル場合ニハ債權者カ供託ヲ受諾スルノ意思ヲ表示セルモノト解スルヲ得ヘク從テ債權者ノ受諾カ取戻權ヲ消滅セシムルト同一ノ理由ニ依リ取戻權ハ消滅スルモノトス又供託者カ供託ヲ適法ナリト主張シ判決カ之ニ從ヒ供託ハ有效ナリト宣告シタル場合ニハ供託者カ取戻權ヲ拋棄スルノ意思ヲ表示セルモノト解スルヲ得ヘク從テ後ニ述フル取戻權ノ拋棄ノ場合ト同シク取戻權ハ消滅スルモノトス【註七】尙供託ヲ有效ナリト宣告スル判決ハ供託者カ提起スル確認ノ訴ニ基キテ爲サルルト債權者カ提起スル給付ノ訴ニ基キテ爲サルルト問フ所ナシ

(三) 供託者カ取戻權ヲ拋棄シタルトキ 取戻權ノ拋棄ニ依リテ供託者カ供託ヲ撤回スルコトヲ得サルニ至ルハ云フヲ俟タサル所ニシテ供託者一方ノ意思表示ヲ以テ取戻權ヲ拋棄スルコトヲ得ルコトモ亦明カナリ取戻權ノ拋棄ニ關スル規定ヲ缺クハ寧之ヲ要セサルモノトナシタルカ爲メナリ拋

棄ハ供託ノ撤回權ノ拋棄ナルカ故ニ供託契約ノ相手方タル供託所ニ對シテ之ヲ表示スルコトヲ要スルモノト解スヘシ

(四) 供託ニ因リテ質權又ハ抵當權カ消滅シタルトキ 供託ニ因リテ債權ハ消滅スルカ故ニ之ニ從タル擔保權モ亦消滅ス然レトモ供託ノ取戻ニ依リ供託ヲ爲サザリシモノト看做サルカ故ニ第四百九十六條第一項後段一旦消滅シタル權利ハ再タヒ復活ス而シテ此場合ニ擔保權モ亦復活スヘキハ既ニ論セルカ如シ然レトモ若シ擔保權カ復活スルモノトナストキハ第三者ニ不測ノ損害ヲ及ホスコトナシトセス特ニ一旦消滅セル質權又ハ抵當權カ復活スルモノトナストキハ取戻アルマテニ此等ノ權利ノ物體ニ物權ヲ取得セル第三者ハ不測ノ損害ヲ被ムル結果ヲ生ス而モ復活ヲ許ササルモノトナストキハ債權者ハ不利益ヲ被ムルコト甚シ故ニ法典ハ供託ニ因リテ質權又ハ抵當權カ消滅セル場合ニハ第三者及ヒ債權者雙方ノ利益ヲ公平ニ保護スルカ爲メニ供託ノ取戻ヲ許ササルモノトセリ【註八】

以上取戻權消滅ノ原因ヲ述ヘタリ其他供託カ其成立要件ヲ缺ク場合例ヘ

ハ錯誤ニ因リテ供託ヲ爲セルカ如シ供託ノ原因カ消滅セル場合例ヘハ辨濟ヲ爲スカ如シニ於テモ取戻スコトヲ得供託法第八條然レトモ此等ノ場合ニハ供託ヲ撤回スル意思ヲ表示スルコトヲ要セス直ニ供託物ノ取戻ヲ請求スルコトヲ得更ニ第四百九十六條ニ規定スル取戻權消滅ノ事由生シタル後ニ在リテモ供託者カ債權者ノ承諾ヲ得タルトキハ供託物ヲ取戻スコトヲ得此場合ニハ債權者ハ供託契約ニ因リテ取得セル權利ヲ拋棄セルモノト解スルコトヲ得ヘキカ故ナリ

【註四】 Motive S. 99, Schollmeyer S. 308, Planck S. 234

【註五】 Beer S. 74, Ortmann S. 277, Müller S. 490

【註六】 Motive S. 99, Schollmeyer S. 309, Planck S. 235

【註七】 Hellwig S. 450 Anm 910, Müller S. 483, Beer S. 76/77.

【註八】 ヘッセン、バイエルン、ゾレスデン等ノ民法草案ハ第四百六十九條第一項後段ト同一ノ規定ヲ設ケタリシモ獨民法ハ之ヲ採ラス

第二項 債權者、供託所間ノ關係

債權者供託所間ノ關係

供託ハ第三者ノ爲メニスル契約ヲ含ムカ故ニ債權者ハ供託所ニ對シ供託物ノ交付ヲ請求スル權利ヲ取得ス而シテ既ニ論セルカ如ク債權者ハ第五百三十七條第二項ノ規定ノ適用ヲ受クルコトナク供託契約ニ基キ直ニ其權利ヲ取得ス特ニ利益ヲ享受スヘキ意思ヲ表示スルコトヲ要セス

債權者カ債務者ニ對シ反對給付ヲ爲スコトヲ要スル場合ニハ債權者ハ其反對給付ヲ爲スニアラサレハ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス(第四百九十八條)是レ特ニ雙務契約ノ場合ニ適用アルモノニシテ第五百三十三條ト同一ノ主旨ニ出ツ蓋供託ノ場合ニ債權者カ自ラ反對給付ヲ爲サスシテ自己ノミ給付ヲ受領スルコトヲ得ヘキ理由ナキヲ以テナリ且第四百九十八條ノ規定ニ依レハ「債權者カ其給付ヲ爲スニ非サレハ」ト云フカ故ニ債權者カ供託物ノ交付ヲ受クルカ爲メニハ自己ノ給付ノ提供ノミヲ以テ足レリトセス既ニ其給付ヲ爲シタルコトヲ要ス即債權者ハ自ラ給付ヲ爲シタル後ニ始メテ供託物ノ交

供託物所有權ノ移轉

第三項 供託物所有權ノ移轉

付ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス而シテ其反對給付ハ或ハ供託所ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得ヘク或ハ債務者ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ(第四百九十八條、供託法第十條)

供託ニ因リ供託所ハ供託物ノ所有權ヲ取得スル場合アリ是レ殊ニ金錢ノ供託ノ場合ニ生ス此場合ニハ當事者ノ契約ニ因リ供託所ハ供託物ノ所有權ヲ取得シ債權者ニ對シテハ同種同量ノ物品ヲ返還スルコトヲ得ルモノニシテ所謂變體寄託(第六百六十六條)ノ一場合ニ屬ス之ニ反シ供託物ノ所有權ハ供託所ニ移轉セス供託セラレタル物體其モノヲ債權者ニ交付スルコトヲ要スル場合アリ是レ債務者カ債權者ニ特定物ヲ給付スヘキ債務ヲ負擔スル場合ニ生ス故ニ此場合ニハ供託所ハ供託物ノ占有權ヲ取得スルニ過キス從テ此場合ニ供託物ノ所有權カ債權者ニ移轉スル時期ニ關シ問題ヲ生ス此問題ニ付テハ從來議論岐ルト雖モ供託物ノ所有權移轉ニ關シ特別ノ規定ナキ

カ故ニ物權移轉ノ原則ニ從ヒテ之ヲ定ムルコトヲ要ス即第七十六條ニ從ヒ供託者ト債權者トノ間ニ所有權ヲ移轉スル合意アルコトヲ要シ且其移轉ヲ以テ第三者ニ對抗スルカ爲メニハ第七十八條ニ從ヒ供託物カ債權者ニ引渡サルルコトヲ要ス從テ如向ナル時期ニ供託者ハ所有權ヲ移轉スル意思ヲ表示セリヤ又債權者ハ之ヲ承諾スルノ意思ヲ表示セリヤヲ定ムルニ依リテ所有權移轉ノ時期ハ定マル而シテ其意思表示ノ時期ニ關シ種種ノ見解アリト雖モ供託所債權者間ニ於ケル供託物授受ノ行爲ニ依リテ默示的ニ供託者債權者間ニ所有權移轉契約締結セラレルモノト解スルヲ正當トス蓋供託所カ債權者ニ供託物ヲ交付スルニ依リテ供託者カ所有權ヲ債權者ニ移轉スルノ意思ヲ默示的ニ傳達シ更ニ債權者カ供託物ヲ受領スルニ依リテ所有權ノ取得ヲ承諾スル意思ヲ表示スルモノト解スヘキカ故ナリ【註一】

【註一】 供託所カ債權者ニ供託物ヲ交付スルニ依リ所有權移轉スト爲スハ通説ノ認ムル所ナリ (Orlmann S. 272, Baer. S. 118, Schollmeyer. S. 314/315, Crome S. 284) 然レトモ所有權移轉契約成立ノ方法ニ關シテハ異説ナキニ

アラス即或ハ此場合ニ供託所ハ供託者ニ代リテ所有權移轉ノ意思表示ヲ爲スモノトナス説アリ (Müller. S. 518 fg) 然レトモ供託者ハ供託所ニ對シ代理權ヲ授與スル所ナキカ故ニ供託所ヲ以テ代理人トナスヲ得ス或ハ此場合ニハ供託者ハ債權者ニ所有者ヲ移轉スル意思ヲ有シ又債權者ハ所有權ヲ取得スルノ意思ヲ有スト雖モ供託ハ所有權移轉ノ申込ニアラス又債權者ハ供託者ニ對シ所有權ヲ取得スヘキ承諾ノ意思ヲ表示スルコトナキカ故ニ所有者移轉ニ關スル意思ノ合致ナシ然レトモ雙方ノ意思ノ表示ハ存スルカ故ニ所有權移轉契約ニ代ルコトヲ得ヘントナス (Baer. S. 118) 然レトモ上述セルカ如ク供託者ノ所有權移轉ノ意思ハ默示的ニ表示セルモノト解スルヲ得ヘク又承諾ノ意思表示ハ供託所ニ對シテ爲サルルニ過キスト雖モ是レ第五百二十六條第二項ノ規定ニ依リ申込者カ承諾ノ意思表示ヲ必要トセサル場合ナリト解スルヲ得ヘシ故ニ所有權移轉ノ契約成立ストナスヲ妨ケス

第四項 債權關係ニ及ホス效力

債權關係ニ及ホス效力

供託カ既存ノ債權關係ニ及ホス效力ニ關シテハ立法及ヒ學說岐ル(一)或ハ供託ニ因リテ債權ハ當然消滅スルモノトナシ(二)或ハ供託ハ單ニ債權者ノ請求ニ對スル抗辯ヲ生スルニ過キス債務者カ供託物ヲ取戻スコトヲ得サルニ至リテ始メテ債權ハ消滅スルモノトナス【註】此兩說ヲ比較スルニ取戻ノ效果ヲ説明スルニハ後說ニ依ルヲ適當トス蓋供託ノ取戻ハ始メヨリ供託ヲ爲ササリシト同一ノ結果ヲ生スルカ故ニ第一說ニ從ヒ供託ヲ以テ債權消滅ノ效力ヲ生ストナストキハ取戻ニ因リ一旦消滅セル債權カ再タヒ復活スル結果トナリ擬制ヲ以テスルニアラサレハ之ヲ説明スルヲ得サルニ至ル又債權ニ附從スル擔保權ニ關シテモ亦同シ之ニ反シ第二說ニ從フトキハ供託ハ單ニ抗辯ヲ生スルニ過キストナスカ故ニ取戻ノ效力ヲ説明スルカ爲メニ此ノ如キ擬制ヲ用ユルコトヲ要セス故ニ第一說ハ人爲的ナルヲ免レス且第一說ハ一旦消滅シタル債權關係カ取戻ニ依リ再タヒ復活ストナスカ故ニ諸種ノ

自助賣却ノ性質

第八款 自助賣却

一 自助賣却ノ性質 自助賣却 (Selbsthilfeverkauf) トハ供託ニ適セサル物

錯雜セル結果ヲ生シ實際上必スシモ當ヲ得タルモノトナスヲ得ス更ニ第一說カ供託ニ債權消滅ノ效力ヲ附スル所以ハ辨濟者カ供託ニ依リ債權者ニ履行ト同一ノ結果ヲ取得スヘキ確實ナル方法ヲ供シタルカ爲メナリト云ハサルヘカラス然ルニ辨濟者カ供託ヲ爲スモ尙之ヲ取戻スコトヲ得ル間ハ債權者ハ再タヒ其權利ヲ失フノ危險アリ故ニ辨濟者カ供託ヲ取戻スコトヲ得サルニ至リテ始メテ債權ハ消滅スルモノトナスヲ正當トナササルヘカラス

我民法ハ第一說ニ從ヒ供託ニ因リテ債權ハ消滅スルモノトナス(第四百九十四條)故ニ理論上實際上共ニ非難アルヲ免レス

【註一】 供託ニ因リテ債權カ消滅ストナス說ハ獨逸普通法ノ通說ニシテ (Windscheid § 347 Anm. 2b 參照) 獨民法草案第三百七十二條第二項ハ之ヲ採リ第二說ハ獨民法第三百七十九條ノ採ル所ナリ

第三編 債權

第一部 債權總論 第六章 債權ノ消滅

一五一九

體ヲ供託スルヲ得セシメンカ爲メ賣却スルヲ云フ〔註二〕自動賣却ノ性質ニ關シテハ從來議論岐ル(一)或ハ自動賣却ヲ以テ供託ト獨立シテ其效力ヲ生スルモノトナス即自動賣却ニ因リテ給付ノ物體ニ變更ヲ生シ債務者ハ從來負擔セルモノニ代ヘテ賣得金ヲ給付スヘキ義務ヲ負フ故ニ債務者ハ必スシモ其金錢ヲ供託スルコトヲ要セス或ハ直接ニ之ヲ支拂ヒ或ハ相殺ヲ爲スニ因リテ其債務ヲ免ルルコトヲ得ルモノトナス〔註三〕或ハ自動賣却ヲ以テ供託ノ準備タルニ過キストナス即自動賣却ハ供託ニ適セサル物體ヲ賣却シ之ヲ金錢ニ代ヘテ供託ニ適セシムル物體ト爲スヲ以テ目的トスルモノニシテ本來ノ債權ニ變更ヲ來スコトナシトナス〔註四〕此二箇ノ見解中我法典ノ解釋トシテハ後說ニ從フヲ以テ當ヲ得タルモノトス蓋自動賣却ニ關スル第四百九十七條ノ規定ヲ供託ノ規定中ニ設クルニ依リテ見レハ自動賣却ヲ以テ獨立ノ債務者保護方法トナササルハ明カナリ且辨濟者ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣シ其代價ヲ供託スルコトヲ得ト規定スルカ故ニ自動賣却ハ賣得金ヲ供託スル目的ノ爲メニ爲スモノト解セサルヘカラス若シ自動賣却ヲ以テ獨

自動賣却
ノ要件

立シテ效力ヲ生スルモノトセハ單ニ供託ニ適セサル物又ハ保存スルヲ得サル物ノミニ制限スルヲ要セス一般ニ自動賣却ヲ認ムヘキナリ然ルニ其制限ヲ設ケタルニ依リテ見レハ自動賣却ヲ以テ供託ノ準備行爲ト爲スモノト解セサルヘカラス從テ自動賣却ニ依リテ債權ノ物體ハ變更ヲ受クルコトナク債權者ハ本來ノ給付ヲ請求スルコトヲ得ルニ止マル又辨濟者ハ賣得金ヲ供託スルニ依リテ債務ヲ消滅セシムルコトヲ得ルニ過キス辨濟トシテ賣得金ヲ債權者ニ支拂フコトヲ得ス又賣得金ニ依リ債權者ニ對シ相殺ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

二 自動賣却ノ要件 自動賣却ハ供託ノ準備行爲タルニ過キサルカ故ニ供託ノ原因存スル場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得即債權者カ辨濟ノ受領ヲ拒ミ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサル場合及ヒ辨濟者ノ過失ナクシテ債權者ヲ確知スルコト能ハサル場合(第四百九十四條)ニ於テノミニ自動賣却ヲ爲スコトヲ得而シテ此等ノ原因存スル場合ト雖モ辨濟ノ物體ハ凡テ之ヲ賣却スルコトヲ得ルニアラス左ノ物體ノミニ付キ賣却ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(第

(イ) 辨濟ノ物體カ供託ニ適セサル場合はレ供託ヲ爲スコトヲ得サル物體ヲ云フ供託ヲ爲スコトヲ得ル物體ニ付テハ既ニ述ヘタリ其以外ノ物體ハ之ヲ賣却シテ其代金ヲ供託スルコトヲ得

(ロ) 辨濟ノ物體カ滅失又ハ毀損ノ虞アル場合例ヘハ菓實肉類其他ノ食料品陶磁器等ノ如シ

(ハ) 物ノ保存ニ付キ過分ノ費用ヲ要スル場合例ヘハ牛馬ヲ飼養スルカ爲メ費用ヲ要スルカ如シ

三 自助賣却ノ手續 自助賣却ハ辨濟者任意ニ之ヲ爲スコトヲ得ス裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス是レ裁判所ヲシテ上述ノ要件ヲ具備スルヤ否ヤヲ調査セシメンカ爲メナリ而シテ自助賣却ノ許可ハ債務履行地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬ス裁判所ハ其許可ヲ爲ス以前ニ債權者及ヒ債務者ヲ訊問スルコトヲ要ス(非訟事件手續法第八十三條)更ニ賣却ハ競賣ノ方法ニ依ルコトヲ要ス是レ適當ノ價格ヲ得ンカ爲メニシテ公平ヲ期センカ爲メニ外ナラス然

自助賣却
ノ手續

レトモ競賣手續ニ關シテハ別段ノ規定ナキカ故ニ裁判所ノ定ムル所ニ從フヘシ(第四百九十七條)

【註一】 債務者カ自助賣却ヲ爲スノ權利ハ既ニ羅馬法ニ於テ之ヲ認メタリ是レ一ニ債務者ノ保管ノ責任ヲ輕減センカ爲メニシテ債務者ハ債權者ノ遲滞ノ場合ニ給付スヘキ物體ヲ賣却シ其物體ニ代ヘテ賣得金ヲ給付スヘキ債務ヲ負擔スルモノトセリ (Hirsch, GlaubigerVerzug S. 75. Kohler, Jahrb. f. Dogma, B. 17 S. 246/247) 獨逸普通法ニ於テモ羅馬法ヲ繼承シ自助賣却ハ行ハレタルモ唯緊急ノ場合ノミニ之ヲ認メタリ自助賣却ニ關シ始メテ稍完備セル規定ヲ設ケタルハ普國國法ニシテ買主カ受領遲滞ニ在ル場合ニ賣買ノ目的物カ毀損ノ虞アルトキ又ハ保管ノ費用カ代價ノ半以上ナルトキハ賣主ハ裁判所ニ競賣ヲ申立ツルコトヲ得ルモノトセリ(第一部第十一章第二百十八條)索遜民法、獨逸舊商法等ニ於テモ自助賣却ニ關スル規定ヲ設ケ更ニ獨逸民法第三百八十三條以下(瑞債務法)第九十三條等ニ於テモ亦同シク之ニ關スル規定ヲ設ク之ニ反シ奧民法、佛民

法ニ於テハ自助賣却ノ方法ヲ認メヌ我法典ノ規定ハ主トシテ獨民法ニ
倣ヘリ

【註二】此見解ハ獨逸普通法ニ於ケル通説ニシテ今日ニ於テモ一部ノ學
者ハ之ヲ唱フ(Hirsch S. 75, Haver, Selbsthilfeverkauf S. 54 fg, Ortmann S. 283) 或
ハ之ニ變更ヲ加ヘ自助賣却ニ因リテ給付ノ物體ヲ變更スルト共ニ從來
ノ債權ハ消滅シ新ナル債權ヲ生ストナスモノアリ(Kohler, Arch. f. B. R. B.
18 S. 239/240)

【註三】此見解ハ獨民法ニ於ケル通説タリ然レトモ此說ヲ唱フル學者中
ニ在リテモ多少說ヲ異ニス即或ハ債務者ハ必スシモ賣得金ヲ供託スル
コトヲ要セス直接ニ債權者ニ辨濟スルニ因リテ債務ヲ免ルルコトヲ得
ルモノトナシ(Planck S. 246, Rosenberg S. 244, Kuhlenbeck S. 309) 或ハ單ニ供託
ヲ爲スコトヲ得ルニ止マリ直接ニ辨濟ヲ爲スコトヲ得サルモノトナス
(Beer S. 15/16, Crome S. 279 Anm. 46, Müller S. 46 fg, Sohn, Zeits. f. H. R. B. 53
S. 116)

大正三年五月五日印刷
大正三年五月十日發行

日本民法債權編第四卷附

正價金壹圓五拾錢

禁漢譯



著作者 石坂音四郎
發行者 江草重忠
印刷者 松澤瓦三

發行所 有斐閣書店

發賣所 有斐閣雜誌店

賣捌所 有終閣書店
賣捌所 文影堂書店

東京市神田區一ツ橋通町五番地

電話本局三三三番四九番
振替口座東京三七〇番

東京市神田區南神保町十三番地
振替口座東京五四〇六番

東京市本郷區森川町一番地

東京市牛込區早稻田鶴卷町

336
21

法學博士 梅謙次郎先生著
▼民法講義 全一冊
上製金壹圓五拾錢 送料金十二錢

本書は梅博士の民法の綱要を通論解説したるものなれば紙數僅々五百頁に過ぎず雖も博く民法の全編に涉り讀者をして博士の音容に接し該博深淵の講説を聞くの感を起し、知らず識らず民法の大要に通曉せしむる最好無比の良書なり。

法學士 宮脇梅吉先生著
▼日用日本商法 全一冊
正價金八拾五錢 送料金十錢

本書の特色 從來の著書其趣を異にして條文の通覽を妨げざる程度に於て前註、判註、分類、難形、判例等を挿入したる改正商法なり 商法の註釋に非ずして註釋したる商法若くは加工したる商法なり 看易く分り易く又覚え易き一名「三易商法」と呼ぶ學者、實務家及初學の士は速に座右に備へ充分活用あらんことを。

法學博士 仁井田益太郎先生著
▼民事訴訟法大綱 全一冊
上製金貳圓八拾錢 送料金十二錢

本書は成る可く論理的の說明を避けて現行法の規定を漏れなく平易且つ簡明に説明し人事訴訟にも論及せり、民事訴訟の法規に精通するには先づ其全篇に通し然る後研究を重ねるの要あり。本書は前述の内容を有するが爲め短時日に其全篇を窺はんとする受験者及初學者に絶好の著述なり。

法學博士 勝本勘三郎先生著
▼刑法要論 全二冊
上製正價金參圓 送料金十二錢

本書は刑法學界の「ガソリチ」たる勝本博士が其絶大なる精力を該博なる識見と依り汎く各國の立法例最新の學說等を参照して我が刑法の總則を詳論せられたるものなり。博士の學に忠にして其卓見を公表せらるゝに慎重なることは世人の知悉する所其内容の如何は暇暇を要せず。

法學士 富田山壽先生著
▼刑事訴訟法講義 全一冊
上製金貳圓五錢 送料金十二錢

本書は眞に最近刑事訴訟法要論を著はされたる新學の大家富田助教授が闊達なる筆に依り僅少の紙數に於て頗る平易に且つ遺憾なく刑事訴訟法理を説き盡されたるもの論旨明確義理透徹洵に得難きの良書なり。

I-36748